

目 次

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー	1
薬学部沿革	8
東邦大学履修規程	11
東邦大学 GPA 制度に関する規程	13
東邦大学薬学部特待生制度について	15
学籍について	16
授業料及びその他の学費納入について	18
修学上の心得	
1. 授業について	19
2. 授業科目について	19
3. 授業の出欠について	19
4. 履修登録について	20
5. 履修登録の取消について	21
6. 試験について	21
7. 薬学共用試験	23
8. 試験に関する注意	23
9. 成績評価について	24
10. 成績疑義照会について	24
11. 不正行為について	24
12. 留級した場合について	26
13. GPA 制度について	26
14. ナンバリング制度について	27
令和 7 (2025) 年度 進級・卒業基準	28
【別表 1】 入学年度別 指定科目一覧	29
【別表 2】 ①講義・演習を欠席した場合	30
②学内の実習を欠席した場合	30
【別表 3】 授業科目ナンバリング (学問分野表)	31
その他	
教務事項等の各種伝達方法について	32
交通障害に伴う授業の取り扱いについて	32
休講・補講について	32
習志野メディアセンター (図書館) について	32
課程表	33
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、アセスメントプラン、アセスメントマップ [令和 6 年度以降入学者用]	57
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、アセスメントプラン、アセスメントマップ [令和 5 年度以前入学者用]	62
研究内容	68
卒業研究 I・卒業研究 II a・II b 評価について	73
免許について	75
薬学部教員・兼任講師	77
薬学部非常勤講師	79
クラス担任・委員	80
キャンパスマップ	82
講義室・研究室配置図	83
薬学部同窓会 (鶴風会)	90
行事予定表	91

【教育研究上の目的（薬学部薬学科）】

人々の健康と社会の発展に貢献するため、薬学に関する専門的知識・技術、医療における課題解決力及び実践能力に加えて、高い倫理観、豊かな人間性、科学的探究心、自己研鑽の意欲を醸成することにより、薬の専門家である自覚と責任を持つ心の温かい薬剤師として、個々の患者や生活者の立場を尊重した医預や保健衛生を地域はもとより広く社会に提供できる人材を養成する。

薬学部三つの方針 令和7(2025)年度 1～2年生用

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） DP】

薬学部は、建学の精神と教育の理念のもと、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持ち、地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を目指しています。所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与します。

1. 知識・技能と課題解決力

薬学の基礎と臨床に関するバランスのとれた豊富で正確な専門知識・技能を持ち、薬物療法を主体的に実践するための高い実務能力を有し、医療・福祉・公衆衛生に関わる問題を的確に見つけ出して科学的根拠に基づき論理的に解決することができる。

2. 共生型リーダーシップ

多職種連携に関わる全ての人々の役割を理解し、対等な立場で患者のために必要な行動をとり、独立した職能を持つ薬剤師としてチーム医療を適切に遂行することができる。

3. 社会的責任感・倫理観

豊かな人間性と高い倫理観を有し、利他的な態度で患者や生活者の背景を把握し、地域はもとより広く国際社会にも貢献できる質の高い医療・福祉・公衆衛生を遂行することができる。

4. 科学的探究心・自己研鑽

社会へ常に関心を抱き、課題に取り組む意欲を持ち、情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に対応できるよう、自他ともに高め合う意欲と態度を有し、生涯にわたって学び続けることができる。

5. 国際性・多様性

国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築き、互いに情報共有することで、その意思決定を支援することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） CP】

薬学部では、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人を養成するため、以下の方針により教育課程を編成します。また、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を基盤とした本学部独自の授業科目もカリキュラムに組み入れます。

1. 知識・技能と課題解決力

主に専門基礎教育科目（薬学基礎（物理）・薬学基礎（化学）・薬学基礎（生物））、専門教育科目（薬学と社会・衛生薬学・医療薬学・臨床薬学・薬学総合）により、薬剤師に必要とされている基礎から臨床に関する薬学全般の知識・技能を学び、薬物療法における実践的能力と課題解決力を養成します。

そのための学修方法として、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れます。

2. 共生型リーダーシップ

主に専門教育科目（医療薬学・臨床薬学・薬学総合（病院実習・薬局実習を含む））により、チーム医療の重要性を理解し、多職種連携に関わる全ての人々の役割を理解し、対等な立場で患者のために独立した職能を持つ薬剤師として必要な行動ができる能力を養成します。

そのための学修方法として、他学部との合同参加型学習や臨床への参加・体験型学習を導入します。

3. 社会的責任感・倫理観

主に総合教育科目（教養教育）や専門教育科目（医療人意識形成）により、医療人として利他的な態度で患者や生活者の背景を把握し、地域はもとより広く国際社会にも貢献できるための豊かな人間性と倫理観を養成します。

そのための学修方法として、医療倫理に関する事柄を取り上げたスモールグループディスカッション（SGD）等を導入します。

4. 科学的探究心・自己研鑽

主に専門教育科目（薬学総合）により、情報・科学技術を活用することで、薬学・医療の進歩にも対応した課題解決力を育成し、生涯にわたって自他ともに向上し続ける態度を養成します。

そのための学修方法として、チーム基盤型学習（TBL）、薬学研究等を導入します。

5. 国際性・多様性

主に総合教育科目（教養教育、外国語）により、グローバル化に対応した国際的感覚を養い、国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築き、互いに情報共有できる能力を養成します。

そのための学修方法として、SGDや情報通信技術（ICT）を活用したプレゼンテーションを導入します。

◇教育課程の考え方

本学部の教育は「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を基盤とした学修成果基盤型教育によって実施します。このため、各授業科目では明確な到達目標を設定し、これを達成するための体系的な学修ができるようにカリキュラムを編成しています。また学修成果を客観的に評価することで、教育内容や手法の改善を行います。

【教育内容】

総合教育科目（教養教育・保健体育）：

豊かな人間性と知性を養うために、人文科学・社会科学・自然科学を広く学ぶ総合教育科目を開講します。

総合教育科目（外国語）：

グローバル化に対応した国際的感覚を養い、医療の進歩や変容に対応し、医療現場で活用できる語学力を身につけて互いに情報共有できるようになるために、科学や医療に関連する用語の語彙力や文章の読解力を学ぶ総合教育科目（外国語）を開講します。この科目での学びは、実際の医療現場での外国語の活用を学ぶ専門教育科目（薬学アドバンスト）に含まれる外国語関連の科目につながります。

専門基礎教育科目（薬学基礎（物理・化学・生物））：

自然科学、生命科学に関連する薬学基礎分野の知識と技能を修得するために、専門基礎教育科目（薬学基礎（物理・化学・生物））を開講します。

専門教育科目（医療人意識形成）：

患者や生活者の多様な立場や心理などの背景を把握し、チーム医療の適切な遂行に必要な豊かな人間性と倫理観を養成するために、専門教育科目（医療人意識形成）を開講します。

専門教育科目（薬学と社会）：

薬剤師に関わる社会の仕組みを理解し、義務や法令を遵守する態度を身につけるために、専門教育科目（薬学と社会）を開講します。

専門教育科目（衛生薬学）：

専門基礎教育科目で修得した知識や技能と臨床に関する専門教育科目との橋渡しとなる衛生薬学の知識と技能を習得するために、専門教育科目（衛生薬学）を開講します。

専門教育科目（医療薬学）：

薬物療法における実践的能力に必要な医療薬学の基礎から臨床応用に関する知識と技能を順序立てて修得するために、専門教育科目（医療薬学）を開講します。

専門教育科目（臨床薬学）：

医療現場で求められる実践的な知識と技能を習得するために、薬学専門科目（臨床薬学）を開講します。

専門教育科目（薬学総合）：

それぞれの専門基礎教育科目・専門教育科目で修得した知識と技能を論理的に統合・整理し、問題解決に役立つ「生きた知識」として発展させる能力を修得するために専門教育科目（薬学総合）を開講します。

専門教育科目（薬学アドバンスト）：

より高度で専門的な薬学領域の知識を修得するために、専門教育科目（薬学アドバンスト）を開講します。

【学修方法】

アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、プレゼンテーション等の機会を提供することで、能動的に学びながら他者と協働する姿勢や情報発信力を養成します。

地域・薬局・病院と協働で行われる臨床への参加・体験型学修を積極的に導入することで、職業人としての責任感を向上させ、実践力を獲得し科学的探究心を醸成します。

他学部との交流授業により、他者と協働する姿勢や多様な価値観を尊重する姿勢を養成します。

【評価方法】

各科目の成績評価方法はシラバス等に明記して学生に周知し、すべての開講科目について成績評価を厳格かつ公正に行います。

講義科目では、定期試験あるいは定期試験にレポート等の課題や受講態度を加味して総合的に評価します。演習科目では、定期試験またはレポート、プレゼンテーションなどにより評価します。実習科目では、レポート等の課題や実習態度、実習試験などを総合的に評価します。薬局・病院における実務実習では、実習日誌や実習態度に加え、レポートや別に定めるルーブリックなどを加味して評価します。

参加型学習やグループ学習を取り入れている科目では、定期試験またはグループ討論の内容やプレゼンテーションの内容により評価します。薬学研究科目では、ルーブリックにより判定される達成度などにより評価します。総合的な学修成果は、各科目の成績評価に加えて、アセスメントプランに提示した学修目標への到達度も活用して評価します。

※薬学教育モデル・コア・カリキュラム <令和4年度改訂版>

https://www.mext.go.jp/content/20230227-mxt_igaku-100000058_01.pdf

【学生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）AP】

薬学部は、本学の建学の精神と教育の理念に基づき、「心の温かい薬の専門家」として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って、地域はもとより広く国際社会にも貢献する医療人を育成することを教育の目標に掲げています。

このような人材は、薬学の基礎と臨床に関する正確で幅広い専門知識・技能・技術をバランスよく持ち、自主的に問題を解決する能力を兼ね備えている必要があります。また、薬学を専門とする医療人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち続ける姿勢も求められます。

薬学部は、本学の教育の理念に共感し、本学部の教育の目標を十分に理解している、以下のような資質・能力を持つ学生を受け入れます。また、これらの資質を持つ学生を、適切かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による選抜方法を組み合わせ、多様な入学者選抜を実施します。

1. 基礎学力と論理的思考・表現力

薬学の知識や考え方の修得に必要な基礎学力と、情報を適切に読み解き、論理的に考えて表現する基本的な力を有している。

2. コミュニケーション力

周囲の人との良好な関係を構築するために必要なコミュニケーション力を有している。

3. 社会的責任感・倫理観

薬学・医療に高い関心を持ち、将来的にこれに関連する分野を通して社会に貢献したいという熱意を有している。

4. 興味関心・学修姿勢

自然や生命の成り立ちやさまざまな現象に興味を持ち、それらを説明する基本原理や法則を理解しようとする探究心を有し、主体的かつ継続的に自己学修と自己研鑽を行う強い意欲を有している。

5. 国際性・多様性

外国語の学修に積極的な姿勢で取り組み、国内外で発信された情報の収集や分析、異文化コミュニケーションの実践を通して、異なる文化や多様な価値観を理解する姿勢と意欲を有している。

◇具体的な選抜方法と、資質・能力との関係

薬学部では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施し、多様で特色のある背景を持つ学生の受け入れを目指しています。また、入学試験では、教科筆記試験、大学入学共通テスト、基礎学力検査、志望理由書、調査書、推薦書、面接および小論文試験などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

	一般選抜	総合型選抜	学校推薦型選抜
1. 基礎学力と論理的思考・表現力	◎	◎	◎
2. コミュニケーション力		◎	◎
3. 社会的責任感・倫理観		◎	◎
4. 興味関心・学修姿勢		◎	◎
5. 国際性・多様性		◎	◎

◎…特に重点を置いている、○…重点を置いている

※具体的な選抜方法と、資質・能力との関係【詳細】ホームページを参照

薬学部三つの方針 令和7(2025)年度 3～6年生用

【学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) DP】

本学は、建学以来、人間の環境に関わる教育と研究を実践している。その中であって薬学部は、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 豊かな人間性と高い倫理観を有し、患者や生活者の立場に立って医療を遂行することができる。
2. 国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築くことができる。
3. チーム医療を適切に遂行するために必要な行動をとることができる。
4. 社会へ常に関心を抱き、地域はもとより広く社会に貢献する姿勢と実践的能力を有している。
5. 科学的根拠に基づいて論理的に考えることができる。
6. 薬学の基礎と臨床に関するバランスのとれた豊富で正確な専門知識・技能・技術を持ち、研究遂行に必要な意欲と問題解決能力を有している。
7. 薬物療法に関する高い実務能力を有している。
8. 薬学・医療の進歩に対応できるよう、生涯にわたって自他ともに高め合う意欲と態度を有している。

【教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) CP】

薬学部は、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の養成を目指している。この教育目標を実現するために薬学部では、以下の基本方針に基づいて、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤とし、本学部が独自に設定した授業科目も組み入れた特色あるカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 薬剤師に必要なコミュニケーション能力を養うために、多くの実習並びに演習でスモールグループディスカッション (SGD) やPCを用いたプレゼンテーションを導入する。
2. 豊かな人間性と知性を養うために、人文科学・社会科学・自然科学を広く学べる教養教育科目を開講する。
3. 社会のグローバル化に対応した国際的感覚を養うために、多学年にわたる語学教育を行う。
4. 医療人である薬剤師としての意識を養うために、医療に関わる職種やその倫理性に関する事柄を取り上げ、SGD等を実施する科目を多学年にわたり開講する。
5. チーム医療の重要性を理解し、その遂行に必要な知識・技能・態度を修得するために、他の医療系学部と合同で参加型学習を行う。
6. 薬物療法における実践的能力を養うために、薬学の基礎から応用・臨床に関する医療薬学の知識・技能を順序立ててバランスよく修得できるように科目を配置する。
7. 研究課題を通して、新しいことを発見し、科学者としての目と心、問題解決能力の育成、それを生涯にわたって

- 自他ともに高め続ける態度を養うために、複数学年にわたる卒業研究を行う。
8. 薬剤師として必要とされる総合的かつ実践的な知識・技能・態度を修得するために、臨床への参加・体験型学習による病院実習と薬局実習を行う。
 9. 更に高度の専門知識を涵養するために、各学年で学んだ知識と体験を有機的に統合する演習科目のほか、薬学アドバンスト科目を開講する。

【評価方法】

各科目の成績評価方法はシラバス等に明記して学生に周知し、すべての開講科目について成績評価を厳格かつ公正に行います。

講義科目では、定期試験あるいは定期試験にレポート等の課題や受講態度を加味して総合的に評価します。演習科目では、定期試験またはレポート、プレゼンテーションなどにより評価します。実習科目では、レポート等の課題や実習態度、実習試験などを総合的に評価します。薬局・病院における実務実習では、実習日誌や実習態度に加え、レポートや別に定めるルーブリックなどを加味して評価します。

参加型学習やグループ学習を取り入れている科目では、定期試験またはグループ討論の内容やプレゼンテーションの内容により評価します。卒業研究科目では、ルーブリックにより判定される達成度などにより評価します。

総合的な学修成果は、各科目の成績評価に加えて、アセスメントプランに提示した学修目標への到達度も活用して評価します。

※薬学教育モデル・コアカリキュラム <平成25年度改訂版>

https://www.mext.go.jp/content/20230227-mxt_igaku-100000058_03.pdf

【学生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）AP】

東邦大学薬学部が育成したい人材

東邦大学薬学部は、本学の建学の精神である「自然・生命・人間」を礎に、「自然に対する畏敬の念を持ち、生命の尊厳を自覚し、かけがえのない自然と人間を守るための、豊かな人間性と均衡のとれた知識と技能を有する人材を育成する」という教育の理念に基づき、「心の温かい薬の専門家」として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を教育の目標に掲げています。

このような人材は、薬学の基礎と臨床に関する正確で幅広い専門知識・技能・技術をバランスよく持ち、自主的に問題を解決する能力を兼ね備えている必要があります。また、薬学を専門とする医療人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち続ける姿勢も求められます。

期待する入学者像

東邦大学薬学部は、本学の教育の理念に共感し、本学部の教育の目標に十分な理解を示すことができる以下のような資質・能力・意欲を有する人の入学を歓迎します。

(基礎学力・知識)

1. 入学後の薬学的知識や考え方の修得に必要な基礎学力を有している。

(探究心・目的意識・意欲)

2. 自然や生命のさまざまな現象に興味を持ち、それらを説明する基本原理や法則を理解する能力を有している。
3. 薬学・医療に高い関心を持ち、将来的にこれに関連する分野に貢献したいという目的意識を有している。
4. 入学後も継続的に自己学習・自己研鑽を行う強い意欲がある。

(コミュニケーション)

5. 周囲の人との良好な関係を構築するために必要なコミュニケーション能力を有している。

(国際性)

6. 外国語の学習に積極的な姿勢で取り組み、国外で発信された情報の収集や分析、異文化コミュニケーションの実践に興味を持って取り組む意欲を有している。

※選抜方法の趣旨省略

薬学部沿革

大正 14 年 (1925)	帝国女子医学専門学校創立
15 年 (1926)	薬学科増設認可
昭和 2 年 (1927)	大森鶴渡の地に薬学科開設 細井美水薬学科長就任
5 年 (1930)	吉木弥三薬学科長就任
5 年 (1930)	帝国女子医学薬学専門学校と改称 同窓会鶴風会誕生
6 年 (1931)	薬学科第 1 回卒業式
8 年 (1933)	塚本赳夫薬学科長就任
9 年 (1934)	中西荘吉薬学科長就任 鶴風会館竣工
17 年 (1942)	山下泰朗薬学科長就任
19 年 (1944)	学徒動員
20 年 (1945)	本館以外全施設戦災焼失 薬学科は船橋市現在地に移転
22 年 (1947)	東邦医学薬学専門学校と改称
24 年 (1949)	東邦大学薬学部設置 山下泰朗薬学部長就任
26 年 (1951)	東邦大学新聞創刊
27 年 (1952)	貴志二郎薬学部長就任
32 年 (1957)	入学定員 80 名より 120 名に増加
35 年 (1960)	山下泰朗薬学部長就任
37 年 (1962)	体育館講堂、女子寮完成
38 年 (1963)	一般教養科講堂完成
39 年 (1964)	一般教養科自然科学校舎完成
41 年 (1966)	衛生薬学科増設認可 4 月入学定員 60 名開設
42 年 (1967)	薬学部修学館及び研究館完成

昭和 43 年 (1968)	習志野東邦会館完成
44 年 (1969)	幾瀬マサ薬学部長就任
45 年 (1970)	福沢寿薬学部長代行就任
48 年 (1973)	幾瀬マサ薬学部長就任
49 年 (1974)	習志野図書館完成
51 年 (1976)	幾瀬マサ薬学部長就任 薬学部新研究館完成
53 年 (1978)	八千代市に校地を取得
54 年 (1979)	大本太一薬学部長就任 大学院薬学研究科博士前期課程（修士課程）設置
56 年 (1981)	大学院薬学研究科博士前期課程第 1 回学位記授与式 大学院薬学研究科博士後期課程（博士課程）設置
59 年 (1984)	大学院薬学研究科博士後期課程第 1 回学位記授与式
60 年 (1985)	小山泰正薬学部長就任
63 年 (1988)	田中光也薬学部長就任
平成 元年 (1989)	薬学部新教育研究館完成（実験動物センターを含む）
3 年 (1991)	野村太郎薬学部長就任
5 年 (1993)	修学館、研究館実習室全面改修
6 年 (1994)	村上泰興薬学部長就任
7 年 (1995)	R I 実験施設新設
8 年 (1996)	大学院薬学研究科博士前期（修士）課程コース制施行 （基礎コース、臨床コース） 大学院薬学研究科博士後期課程社会人入学制度施行
9 年 (1997)	薬学部社会人入学制度施行 後藤佐多良薬学部長就任
10 年 (1998)	学生食堂 P A L 完成
12 年 (2000)	矢島毅彦薬学部長就任
13 年 (2001)	薬学部編入学制度施行 薬学部再入学制度施行
15 年 (2003)	矢島毅彦薬学部長就任

平成 18 年 (2006)	薬学部 6 年制施行 井手速雄薬学部長就任
19 年 (2007)	薬学部 C 館完成 東邦大学薬学部開設 80 周年
21 年 (2009)	井上義雄薬学部長就任
22 年 (2010)	大学院薬学研究科修士課程薬科学専攻施行
24 年 (2012)	大学院薬学研究科博士課程医療薬学専攻施行 加藤文男薬学部長就任 新学生部室 1 号館完成
25 年 (2013)	薬学部 A 館耐震改修 スポーツアリーナ (新体育館) 完成
26 年 (2014)	教養館、鶴風寮解体 薬学部 A 館エレベーター設置
27 年 (2015)	田中芳夫薬学部長就任
28 年 (2016)	薬学部 D 館完成
29 年 (2017)	東邦大学薬学部開設 90 周年
30 年 (2018)	田中芳夫薬学部長就任 薬学部 E 館耐震改修
令和 元年 (2019)	薬学部 B 館 3 階改修 (B 3 0 1) 講堂完成
2 年 (2020)	薬学部 B 館 4 階改修 (B 4 0 1) 実習室完成
3 年 (2021)	田中芳夫薬学部長就任 正門・100 周年記念モニュメント完成
6 年 (2024)	多田周右薬学部長就任

東邦大学履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東邦大学(以下「本学」という。)における履修に関する事項を定めることを目的とする。

(履修登録)

第2条 履修する授業科目は、原則として教育課程、シラバス及び本規程に従い各人が決定した上で、所定の期間内に履修登録しなければならない。

- 2 履修登録を行わない授業科目は、単位を修得することができない。
- 3 履修登録を行うことができる単位数は、別に定める。
- 4 履修登録の変更(訂正、取消、追加)は、原則として所定の期間に限り、行うことができる。
- 5 履修登録を行った授業科目は、必ず履修しなければならない。

(授業科目の種類)

第3条 各授業科目は必修科目、選択科目及び自由科目に分けられる。

(受講制限)

第4条 各授業科目は、その内容又は講義室の都合等により、受講資格を限定し、又は受講人数を制限することがある。

(重複履修の禁止)

第5条 学生は、同一時間に開講される授業科目を重複して履修することはできない。ただし、学部別に定める必要な手続きを経た場合は、この限りでない。

(休講及び補講)

第6条 授業科目担当者が授業を休講するときは、止むを得ない場合を除き、あらかじめ周知するものとする。

- 2 休講した授業は、原則、その学期内で補講を行う。

(公欠)

第7条 学生が次に掲げる各号のいずれかの事由により授業を欠席する場合は、原則として公欠として取り扱うものとする。

- (1) 学部長の指示により、学内外で行われる行事、式典、活動等に参加するとき
 - (2) 学校保健安全法施行規則に規定する感染症に罹患した又は罹患の疑いがあるとき
 - (3) 教育実習等の学外における教育活動へ参加するとき
 - (4) その他学部長がやむを得ないと認めるとき
- 2 公欠のときは、所定の手続きをとるものとする。
 - 3 公欠の授業時間数は、全授業時間数からこれを控除するものとする。ただし、演習及び実習における公欠の取り扱いについては別に規定する。
 - 4 前項における控除できる授業時間数の合計は、全授業時間数の5分の1を超えることはできない。

(忌引)

第8条 忌引のときは、所定の手続きをとるものとする。

- 2 忌引の日数は、原則として次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 配偶者 7日
- (2) 子 7日
- (3) 父母 7日(姻族3日)
- (4) 兄弟姉妹 3日(姻族1日)
- (5) 祖父母 2日
- (6) 叔父叔母 1日

- 3 前項の期間内に、東邦大学学則第17条に規定する休業日が介在するときは、当該期間に含めるものとする。
- 4 忌引の授業時間数は、全授業時間数からこれを控除するものとする。ただし、演習及び実習における忌引の取り扱いについては別に規定する。

(成績の評価)

第9条 授業科目の成績評価は、試験等、シラバスに記載した評価方法により、S、A、B、C、Fの5段階で行い、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする。ただし、必要に応じて成績を保留(H)することがある。

- 2 成績評価の基準及び100点法は、次のとおりとする。

合否	評語	100点法	評価基準	
合格	秀	S	90点以上～100点	到達目標を達成し、特に優れた成績をおさめている。
	優	A	80点以上～90点未満	到達目標を達成し、優れた成績をおさめている。
	良	B	70点以上～80点未満	到達目標を達成している。
	可	C	60点以上～70点未満	到達目標を最低限達成している。
不合格	不可	F	60点未満 又は 評価不能	到達目標に達成していない。

3 前項の規定にかかわらず、学生が履修した授業科目のうち、合否等により判定する授業科目等の場合は、合格(P)又は不合格(Q)の評語により表し、学生が他大学等で履修した授業科目等について、本学における履修とみなし、単位を与える場合は、合格(P)の評語により表すものとする。

4 成績評価の結果に疑義が生じた場合、必要な手続きを経て所定の期間に照会できる。

(成績の交付)

第10条 当該年度の成績は、所定の期間に、原則として学生本人及び保証人に通知する。

(試験)

第11条 試験の種類は、学事暦の定めた期間に実施する試験(以下、「定期試験」という。)及び定期試験以外の方法(レポート等)とする。

2 事故、病気等やむを得ない事由で定期試験を受けることができなかった学生は、追試験を受けることができる。

3 試験等、シラバスに記載した評価方法の結果、不合格となった学生は、学部別に定める必要な手続きを経た場合、再度、試験(以下、「再試験」という。)を受けることができる。ただし、再試験により合格とする場合の評語はCとし、100点法は60点とする。

4 次の各号に該当する学生は、原則として試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目について、履修登録を行っていない者
- (2) 所定の授業時間数を欠席した者
- (3) 定期試験開始後20分以上遅刻した者
- (4) 受験時に学生証を所持していない者
- (5) 授業料及びその他の学費を手続きなく未納の者
- (6) その他、学部別に定める要件を満たしていない者

5 試験の手続き等は、別に定める。

(不正行為)

第12条 試験において、別に定める行為は不正行為とする。

2 不正行為を行った者及びそれに便宜を与えた者は、東邦大学学生懲戒規程により、処罰を行う。

(進級の要件及び認定)

第13条 進級するための必要な要件及びその認定方法は別に定める。

(再履修)

第14条 前年度までに単位を修得できなかった授業科目については、再び履修して単位を修得することができる。

2 再履修する授業科目については、再履修における成績評価が最終の評価となる。

(再度履修)

第15条 単位を修得した授業科目については、原則として再度履修することはできない。

2 前項にかかわらず、学部長が必要と認めるときは、必要な手続きを経て、再び履修して単位を修得できる。

3 再度履修する授業科目の成績評価は別に定める。

(GPA制度)

第16条 GPA制度については、別に定める。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、学長・学部長会議の議を経て学長が別に定める。

(規程の改廃)

第18条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

この規程は、一部改正の上、令和4年4月1日から施行する。

東邦大学 GPA 制度に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東邦大学(以下「本学」という。)における履修科目の成績評価の指標となる Grade Point Average(以下「GPA」という。)の取扱いに関して、必要な事項を定める。

(評価等)

第2条 学生が履修した授業科目の成績の評語、及びグレード・ポイント(評価により与えられる数値。以下「GP」という。)は、次表のとおりとする。

評語		GP
秀	S	4
優	A	3
良	B	2
可	C	1
不可	F	0

(GPA の計算方法及び種類)

第3条 学生の GPA は次に定める方法により計算し、計算値は小数点以下第三位を四捨五入し、第二位までを表記する。

$$\text{GPA} = \frac{\text{S の単位数} \times 4 + \text{A の単位数} \times 3 + \text{B の単位数} \times 2 + \text{C の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数(不可 F を含む)}}$$

2 計算する GPA の種類は、原則、次の通りとする。ただし、各学部の定めにより異なる種類の GPA を計算することができる。

- (1) 年度 GPA 各年度における GPA をいう。
- (2) 通算 GPA 在学期間における GPA をいう。

(GPA 計算期日)

第4条 GPA の計算は、指定した期日までに確定した成績に基づいて行う。

(GPA 対象授業科目)

第5条 本学の学士課程で開講する全ての授業科目を GPA の対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる授業科目に該当する場合は、GPA の対象外とする。

- (1) 合否等により判定する授業科目
- (2) 学生が他大学等で履修した授業科目等
- (3) 学部において、当該学部長が指定する授業科目

(成績が確定していない授業科目の取扱い)

第6条 GPA 計算期日までに成績が確定していない科目については、GPA 計算上は履修していないものとして扱う。

(履修放棄科目の取扱い)

第7条 履修登録を取消した場合及び学部長等による履修登録の変更の措置が行われた場合を除き、履修を放棄した科目の成績は不可として扱う。

(不正行為により無効とされた成績の取扱い)

第8条 不正行為により無効とされた成績は、不可として扱う。

2 GPA 計算期日以降に成績が不正行為により無効とされた場合は、GPA 計算期日までに当該成績が無効となったものとみなし、GPA を再計算するものとする。

(GPA の活用)

第9条 GPAは、次の各号に掲げる内容について、各学部等において教育内容等の改善のために活用できるものとする。

- (1) 組織的な研修に関すること
 - (2) 学修支援・指導に関すること
 - (3) 学生生活支援(各種奨学金等を含む)に関すること
 - (4) 身分異動に関すること
 - (5) 進級判定、卒業判定に関すること
 - (6) 成績状況等の把握に関すること
 - (7) 特待生等の選抜や各種表彰に関すること
 - (8) その他学部長が必要と認めたこと
- 2 2年連続して、年度 GPA 値が各学部の定める値を下回る場合、学部長は学生に対して学修指導・生活指導を行う。改善の見込みがないと判断される場合には、退学を勧告する場合がある。ただし、最終年度を除く。

(GPA の記載)

第10条 成績証明書には、第3条第2項に定める GPA を表示する。

(再履修及び再度履修における GPA の取扱い)

第11条 再履修及び再度履修した際の成績評価の評語及び GP は、従前の成績評価の評語及び GP に置き換え、通算 GPA を算出するものとする。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、GPA に関し必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て学長が決定する。

附 則

1. この規程は、令和3年4月1日から施行する。

東邦大学薬学部特待生制度について

修学態度ならびに生活態度が他の学生の模範となり、かつ成績が優秀な者を本学部では「特待生」として取り扱い、下記のとおり授業料の減免を行う。

- ・2年次～5年次

前年度の当該年次配当科目のうち必修科目と選択必修に該当する選択科目の最終評点の平均点を算出し、成績上位者は規程に基づき、授業料の全額又は半額を免除する。

- ・6年次

1年次春学期から5年次秋学期までに成績が確定している必修科目と選択必修に該当する選択科目の平均点を算出し、成績上位者は規程に基づき、授業料の全額又は半額を免除する。

特待生の発表は4月中旬頃に行う。なお、当該年次配当科目の中で単位認定を受けている場合、特待生制度には該当しない。

入学年度	年次	選択必修に該当する選択科目
令和6年度以降 (2024)	1年次	現代日本史、国際関係論、自己表現論、民俗学、経済学、スポーツ科学から2科目
	4年次	生命科学特別講義、社会薬学特別講義から1科目
	5年次	社会への招待Ⅱa～dから1科目
	6年次	「薬学研究Ⅱa」又は「薬学研究Ⅱb、薬学総合講義Ⅰ～Ⅱ」のいずれか
平成27～ 令和5年度 (2015～2023)	1年次	現代日本史、国際関係論、自己表現論、民俗学、経済学、スポーツ科学から2科目
	4年次	生命科学特別講義、社会薬学特別講義から1科目
	5年次	社会への招待Ⅱa～dから1科目
	6年次	「卒業研究Ⅱa」又は「卒業研究Ⅱb、薬学総合講義Ⅰ～Ⅱ」のいずれか

学籍について

【平成28(2016)年度以降の入学生に適用】

1. 薬学部の修業年限は6年とし、12年まで在学することができる。ただし、同一学年に在学できる年数は原則として2年を限度とする。
2. 病気その他止むを得ない事由で引き続き2カ月以上授業に出席することができない者は、保証人連署で願い出て学長の許可を受け、休学することができる。
3. 休学できる期間は、その学年の学年末までとする。ただし、正当な事由と認められたときは、当初の休学期間を含めて2年間を上限とし、期間延長を許可することがある。
4. 通算して休学できる期間は3年間とする。
5. 再入学、編入学した者の休学の扱いについては別に定める。
6. 休学期間は在学期間に算入しない。
7. 休学の事由が消滅し、復学しようとする者は、保証人連署で願い出て学長の許可を受けなければならない。
8. 任意に退学しようとする者は、保証人連署で届け出て学長の許可を受けなければならない。
9. 任意退学者が再入学を願い出たときは、学長はこれを許可することがある。

【平成27(2015)年度以前の入学生に適用】

1. 薬学部の修業年限は6年とし、12年まで在学することができる。ただし、1・2年次では4年、3・4年次では4年、5・6年次では4年をそれぞれ超えて在学することはできない。
2. 病気その他止むを得ない事由で引き続き2カ月以上授業に出席することができない者は、保証人連署で願い出て学長の許可を受け、休学することができる。
3. 引き続き休学できる期間は、1・2年次、3・4年次及び5・6年次の各区分でそれぞれ2年間、通算して休学できる期間は6年間とする。
4. 再入学、編入学した者の休学の扱いについては別に定める。
5. 休学期間は在学期間に算入する。
6. 休学の事由が消滅し、復学しようとする者は、保証人連署で願い出て学長の許可を受けなければならない。
7. 任意に退学しようとする者は、保証人連署で届け出て学長の許可を受けなければならない。
8. 任意退学者が再入学を願い出たときは、学長はこれを許可することがある。

【学籍手続きについて】

1. 休学

- ・休学しようとする者は、学事課薬学部教務窓口にて休学願を受け取り、必要事項を記入した後、1～3年次はクラス担任、4～6年次は所属教室等責任者の承諾印を得たうえで、下記に定める期日までに学事課薬学部教務窓口へ提出すること。
- ・休学中の学納金の取り扱いについては、「授業料及びその他の学費納入について」を確認すること。

注) : 下表に示す休学期間の休学願が提出期限までに提出され、受理された場合にのみ学納金の減免が適用される。

	休学期間	休学願提出期限
休学	春学期 (4月1日～9月30日)	4月末日
	1年間 (4月1日～3月31日)	4月末日
	秋学期 (10月1日～3月31日)	10月末日

2. 復学

- ・休学事由が消滅し、復学しようとする者は、学事課薬学部教務担当から保証人住所宛へ送付される復学願に必要な事項を記入し、1～3年次はクラス担任、4～6年次は所属教室等責任者の承諾印を得たうえで、指定された期日までに学事課薬学部教務窓口まで提出すること。

3. 任意退学

- ・任意に退学しようとする者は、学事課薬学部教務窓口にて退学願を受け取り、必要事項を記入した後、1～3年次はクラス担任、4～6年次は所属教室等責任者と面談し承諾印を得たうえで、願い出る退学日に応じ、下記に定める期日までに学生証を添えて学事課薬学部教務窓口提出すること。

	退学日	退学願提出期限
退学	9月30日付まで	10月末日
	3月31日付まで	3月末日

4. 措置退学

- ・次に該当する者は、措置退学となる。

措置退学者は原則として再入学を申し出ることはいできない。

- (1) 在学年限を越えた者
- (2) 休学期間を超えて復学できない者
- (3) 所定の期日までに授業料等の学費の納入を怠り、催告後もなお正当な事由がなく納付しない者
- (4) 正規の手続きなく3カ月以上修学しない者
- (5) 死亡した者

5. 懲戒退学

- ・次に該当する者は、懲戒退学を命じる。

懲戒退学者は再入学を申し出ることができない。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

授業料及びその他の学費納入について

1. 学納金は、毎年度 春学期・秋学期に納入すること。

◎ 2018 年度以降 2023 年度までの入学者

- ・2025 年春学期のみ授業料及びその他の学費(以下「授業料等の学費」)を預金口座振替による納入とします。納入通知は、振替期日 1 ヶ月前に学費納付者へ送付します。

【口座振替日】 4 月 14 日

※口座振替が土日休日の場合は、翌営業に振替となります。

- ・2025 年秋学期より振込による納入とします。振込案内を納入期限 1 ヶ月前に学費納付者へ送付しますので、授業料等の学費を納入期限までに指定口座に振り込むこと。

【振込納入期限】 10 月 31 日

◎ 2017 年度以前入学者及び 2024 年度以降入学者

- ・振込案内を納入期限 1 ヶ月前に学費納付者へ送付しますので、授業料等の学費を納入期限までに指定口座に振り込むこと。

【振込納入期限】 春学期:毎年 4 月 30 日 秋学期:毎年 10 月 31 日

2. 本学における在学継続意志があり、かつ経済的理由その他止むを得ない理由により、学納金の納入が一時的に困難な者は、学納金の延納又は分納を願い出ることができる。
3. 所定の期日までに授業料等の学費の納入を怠り、催告後もなお正当な事由がなく納付しない者は、措置退学となる。
4. 在学中、授業料及びその他の学費について変更のあった場合には、新たに定められた金額を納入するものとする。
5. 一旦納入した授業料及びその他の学費は、原則として返還しない。
6. 定める期日までに休学を願い出て、休学が許可された者は、休学期間に応じ、学納金を減免する。ただし、原則として入学初年度の休学には適用しない。
7. 休学期間中の学納金は、以下のとおりとする。

休学期間	
1年間	春学期又は秋学期
当該期間の授業料及び教育充実費を全額免除し、在籍料として100,000円を徴収する。	当該期間の授業料及び教育充実費を全額免除し、在籍料として50,000円を徴収する。

修学上の心得

1. 授業について

1-1 学年・学期について

学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終了する。

学期を次の2期に分ける。

春学期:4月1日～9月30日、秋学期:10月1日～3月31日

年度及び学年によっては学期の開始、終了時期が異なる場合がある。

1-2 授業時間について

授業は、各時限50分で行う。

	授業時間		授業時間
1時限	9:00～9:50	6時限	14:00～14:50
2時限	10:00～10:50	7時限	15:00～15:50
3時限	11:00～11:50	8時限	16:00～16:50
4時限	12:00～12:50	9時限	17:00～17:50
5時限	13:00～13:50	10時限	18:00～18:50

2. 授業科目について

2-1 授業科目の区分

必修科目 必ず履修し、単位を修得しなければならない科目

選択科目 該当科目から選択して履修する科目。卒業までに所定の単位数を修得しなければならない。特に、選択必修に該当する選択科目では、所定の単位数を定められた学年で必ず修得しなければならない。また、余剰に修得した単位分は自由科目に振り分けられる。

自由科目 卒業に必要な単位に含まれない科目。

2-2 授業科目に対する単位数

授業科目及び単位数は東邦大学学則第35条別表第2に定められている。

各授業科目の単位数は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

(1) 講義、演習については、15時間の授業と30時間の予習・復習をもって1単位とする。

(2) 実習、実技等の授業については、30時間の実習又は実技と15時間の予習・復習をもって1単位とする。

*45分を1時間とみなす

3. 授業の出欠について

3-1 授業の出席

本学部では授業の出席について、以下のとおり取り扱う。

【講義・演習】

履修科目の評価を受けるためには、原則として全授業時間数の3分の2以上に出席しなければならない。

【実習】

学内・学外で行う全ての実習は、原則として全授業時間出席しなければならない。

3-2 授業の欠席

(1) 授業を1カ月以上欠席することが見込まれる場合、学事課薬学部教務担当窓口へ申し出ること。

(2) 2カ月以上欠席する場合、事由を明らかにし、所定の手続きをとること。（「学籍について」を参照）

【講義・演習の欠席】

欠席の手続きは不要とする。ただし、公欠(3-3 公欠について参照)又は忌引(東邦大学履修規程第8条)扱いとなる場合は【別表2の①】に従って手続きをすること。

【実習の欠席】

- ・1年次～4年次に開講する学内の実習を欠席する場合は、その理由にかかわらず、【別表2の②】に従って定められた期間内に「実習欠席届」を科目担当教員へ提出し、指示に従うこと。
- ・4年次秋学期から5年次に開講する学外実習(病院実習、薬局実習)における出欠に関わる事項については、科目担当教員の指示に従うこと。

3-3 公欠について

東邦大学履修規程第7条に定める以下の事由による欠席を、原則として公欠として取り扱う。

- (1) 学部長の指示により、学内外で行われる行事、式典、活動等に参加するとき
- (2) 学校保健安全法施行規則に規定する感染症に罹患した又は罹患の疑いがあるとき
- (3) 教育実習等の学外における教育活動へ参加するとき
- (4) その他学部長が止むを得ないと認めるとき

公欠の手続きは【別表2の①、②】を、参照のこと。

4. 履修登録について

履修登録は、春学期、秋学期のそれぞれ指定する時期に行う。各科目のシラバスに記載されている授業概要、到達目標及び講義内容等を参照し、進級又は卒業の要件となる単位数を満たすように計画的に履修登録を行うこと。

1年間に履修できる授業科目の合計単位数の上限は48単位である。

4-1 授業区別履修登録方法

【必修科目】

教務システム上で自動登録される。各自が履修登録を行う必要はない。

【選択科目】

原則として各自が教務システムで履修登録を行う。

ただし、一部で履修登録の方法が異なる科目があるので、年度初頭ガイダンス資料ならびに履修登録方法の掲示等を十分に確認するとともに、以下の点にも留意すること。

- ・指定された期間内に必ず所定の履修手続きが必要となる。
- ・選択科目の実習については開講学年に限り履修できる。
- ・下年次に開講される選択科目の履修は、在学年次における未修得の必修科目及び選択必修に該当する選択科目の授業時間と重複する場合には認めない。
- ・授業内容又は講義室の都合等により受講人数が制限されることがある。

4-2 再履修について

再履修とは、前年度までの履修で単位を未修得となった授業科目がある場合に、その授業科目を履修することをいう。

【必修科目】

前年度に単位を修得できなかった必修科目については、教務システム上で自動登録される。各自が履修登録を行う必要はない。

【選択科目】(下年次開講の選択科目を含む)

履修登録により再履修することができる。希望する選択科目の履修は、在学年次における未修得の必修科目及び選択必修に該当する選択科目の授業時間と重複する場合には認めない。

4-3 再度履修について

再度履修とは、留級となった場合に、留級年次に開講される単位修得済み科目(外国語科目及び実習科目を除く)をもう一度履修することをいう。

以下の点に留意すること。

- (1) 再度履修する科目の授業は全て受講しなければならない(出欠の取り扱いについては、3.授業の出欠について 参照)。
- (2) 再試験は実施しない。
- (3) 当該科目の評価には、今年度定期試験又は追試験の評点と単位既修得年度の評点のうち、高い方の評点を用いる。

5. 履修登録の取消について

指定された期間内に限り、授業科目の履修登録を取消することができる。

※2021 年度以降の入学生は、GPA 算出に係るため、取消期間に十分注意すること。

※2020 年度以前の入学生及び 2021 年度編入学生は GPA 算出対象に含まれない。

6. 試験について

各科目の試験方法には、筆記試験のほか、レポート、プレゼンテーション、実技試験等がある。

筆記試験や実技試験の場合、次に該当する学生は、原則として試験を受けることができない。

- (1) 履修登録を行っていない者
- (2) 所定の授業時間数を欠席した者
- (3) 試験開始後 20 分以上遅刻した者
- (4) 受験時に学生証を所持していない者(忘れた場合は 8-2 受験心得(1)参照)
- (5) 授業料及びその他の学費を手続きなく未納の者
- (6) その他、別に定める要件を満たしていない者

6-1 試験区分

本学部が実施する試験は以下のとおりである。

試験区分	対象者
定期試験	○当該年次開講科目を履修登録し、所定の授業時間数を出席した者。 ○留級年次において再度履修科目として履修登録し、規定どおり授業に出席した者。 ○前年次開講の選択科目を不合格で進級し、当該年度に再履修科目として履修登録し、所定の授業時間数を出席した者。
追試験	○定期試験を止むを得ない事由で欠席し、所定の手続き(証明書及び定期試験欠席届(追試験願)の提出)を行った者。(6-2 追試験 参照)
再試験	○定期試験(再度履修科目は除く)を不合格又は欠席し、所定の手続き(再試験受験申請書の提出)を行った者。(6-3 再試験 参照)
最終試験	○1~4 年次生で、春学期・秋学期の指定科目(【別表 1】入学年度別指定科目一覧参照)全てに合格し、進級に必要な合格科目総数に対する不足が3科目以内の学生で、所定の手続き(最終試験受験申請書の提出)を行った者。

(備考)

- ◆筆記試験の標準的な試験時間は 70 分である。ただし、科目により試験時間が異なる場合があるので、講義中のガイダンスなどで確認すること。
- ◆実習試験は別に定める。
- ◆通年開講の外国語科目は、原則として再試験を行わない。
- ◆定期試験をレポート等で行った科目については、再試験を行わない場合がある。

6-2 追試験

下表に示す事由で定期試験を欠席した場合には、追試験を受験することができる。

- (1) 追試験の受験を希望する者は、以下に示す表中の欠席事由を証明する書類(コピー不可)とともに、

所定の「**定期試験欠席届(追試験願)**」を学事課薬学部教務担当窓口にて提出期限までに提出すること。就職試験により欠席する場合は事前に、それ以外は欠席日から原則として7日以内に提出するものとする。なお、追試験料は必要ない。

(2) 追試験の追試験及び再試験は行わない。

欠席理由	必要な書類	手続き場所	提出期限
学校感染症に罹患した又は罹患の疑いがあるとき	登校許可書	学事課 薬学部教務	登校許可書発行日から7日以内
忌引 ※忌引として扱われる日数は東邦大学履修規程を参照のこと	会葬礼状等		欠席日から 7日以内
病気(学校感染症以外)・怪我	受診した医療機関の診断書		
災害等	罹災証明等		
通学区間の交通機関が不通になった場合	交通機関の駅で発行した遅延証明書等		定期試験前日まで
就職試験	試験の案内状		
その他	関係機関等の証明書		

6-3 再試験

定期試験を受験し不合格となった場合又は定期試験を欠席し「定期試験欠席届(追試験願)」が未提出の場合、再試験を受験することができる。(再度履修は除く)

※事前に事務棟1階に設置の証明書自動発行機にて再試験受験申請書(1科目2,000円)を発行し、試験会場へ持参すること。再試験受験申請書を持参しない者は再試験を受験できない。

(1) 必修科目・選択必修に該当する選択科目

必修科目・選択必修に該当する選択科目の再試験の受験を希望する者は、事務棟1階に設置の証明書自動発行機にて再試験受験申請書(1科目2,000円)を発行し、試験当日に試験会場にて監督者に提出すること。

(2) 選択科目

※選択科目の定期試験を欠席し再試験の受験を希望する者は、欠席日から7日以内に再試験受験申請書(1科目2,000円)を学事課薬学部教務担当窓口にて提出すること。期日までに提出されない場合は再試験を受験できない。

※定期試験を受験し不合格となった場合は、上記(1)と同様の手続きを行うこと。また、4-2 再履修についても併せて確認すること。

(3) 原則として再試験に対する追試験は行わない。

(4) 定期試験をレポート等で行った科目については、再試験を行わない場合があるので十分注意すること。

(5) 定期試験に合格している場合は再試験を受験することはできない。

6-4 最終試験(令和2(2020)年度からの進級基準変更に伴い、当面の間、最終試験を実施する。)

1~4年次生において、当該学年の全科目の追試験・再試験終了時点で以下の要件を満たす場合、最終試験を受験することができる。

◆春学期・秋学期の指定科目(【別表1】入学年度別指定科目一覧参照)全てに合格し、進級に必要な合格科目総数に対する不足が3科目以内である者。

なお、最終試験の受験に際しては、以下に留意すること。

(1) 選択必修に該当する選択科目を受験する場合、学事課薬学部教務担当が指定する期日までに受験科目を学事課薬学部教務窓口にて申告しなければならない。

- (2) 最終試験の実施時期は、別に通知する。
- (3) 最終試験の受験を希望する者は、事務棟 1 階に設置の証明書自動発行機にて最終試験受験申請書(1 科目 2,000 円)を発行し、試験会場にて監督者に提出すること。
- (4) 最終試験を受験した科目の評価は、定期試験・追試験・再試験・最終試験の評点の中で一番高いものとする。
- (5) 最終試験に対する追試験は行わない。
- (6) 最終試験に 1 科目でも不合格の場合は留級となる。
- (7) 最終試験で不合格となった科目は、次年度再履修しなければならない。

7. 薬学共用試験

4 年次秋学期～5 年次に開講される病院実習及び薬局実習(必修、各 2.5 ヶ月、合計 20 単位)の履修に際しては、4 年次秋学期に実施される薬学共用試験に合格することが必須となる。そのため、薬学共用試験の合格を 4 年次から 5 年次への進級要件とする。

※「薬学共用試験」とは、薬剤師資格を持たない学生が医療現場で実務実習を行うために必要な「知識、技能、態度」が一定のレベルに到達していることを評価するための試験であり、全国の大学で統一して実施される「CBT(Computer-based Testing)」と「OSCE(オスキー: Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験)」で構成される。

8. 試験に関する注意

8-1 試験時間割、試験場及び試験座席表

- (1) 試験時間割は原則として、試験開始約 1 か月前(最終試験を除く)に発表する。試験日、試験場及び試験時間を間違えないように十分注意すること。
- (2) 試験座席表を試験当日の試験会場に掲示する。所定の座席に着席すること。

8-2 受験心得

- (1) 試験の際は、必ず学生証を携帯する。学生証を携帯しない者は受験できない。試験中は学生証を常に席の通路側の机の上に写真面を上にして置く。なお、学生証を忘れた場合には、学生生活担当窓口で仮受験許可証の発行を受け、試験の際、机の上に置く。ただし、仮受験許可証を発行できるのは当該試験期間中 1 回のみとする。
- (2) 試験開始時刻までに注意事項等を伝えるので、試験開始 10 分前には入室する。
- (3) やむを得ず遅刻した場合は、原則として試験開始後 20 分までを入室可能とする。
- (4) 途中退室は、70 分間で行う試験では、原則として試験開始後 30 分を過ぎるまで認められない。それ以外の場合は、監督者が指示するのでそれに従うこと。
- (5) 答案用紙にはクラス、学籍番号及び氏名を明記すること。明記していない答案は無効になる。また、答案がマークシートの試験では、マークシートに学籍番号及び氏名、学籍番号のマークが記入されていない場合も無効となる。
- (6) 試験中、机の上に置けるものは、学生証、筆記用具及び使用が許可されているもののみである。その他のもの(ノート、参考書及び計算機能、記憶機能の付いた時計、電卓、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等)は鞆の中にしまい、足下に置く。なお、電子機器類は電源を切ったうえで、鞆の中にしまう。
- (7) 試験中の飲食は禁止する。
- (8) 試験中、不審な行為もしくは不正行為(10.不正行為について参照)を発見した場合はその場で起立させることがある。
- (9) 不審な行為もしくは不正行為を発見した場合、退場を命ずることがある。

8-3 その他

- (1) 交通機関の事故等に伴う試験時間の取り扱いについては、「交通障害に伴う授業の取り扱いについて」(項目:その他)を参照し、試験時間に遅れないよう十分に注意する。
- (2) 台風や大雪等の災害、その他不測の事態等により交通機関が不通になったときは、Web 掲示板にて

試験時間等の変更を確認する。

9. 成績評価について

【令和3(2021)年度以降入学生】

- (1) シラバスに記載されている成績評価法・基準をもとに評価を行う。詳細については、履修科目のシラバス記載事項を参照すること。また、進級・卒業基準も参照すること。
- (2) 成績の評価は、点数をもって100点法で評価する。60点以上は合格、60点未満は不合格となる。
- (3) 成績評価段階の評語はS、A、B、C、Fの5段階で行い、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする。ただし、必要に応じて成績を保留(H)することがある。
90点以上を「S」、80点以上90点未満を「A」、70点以上80点未満を「B」、60点以上70点未満を「C」、60点未満を「F」とし、「F」は成績証明書に表記しない。
- (4) 再試験あるいは最終試験を受験した場合、評価には定期試験の評点と再試験あるいは最終試験の評点を比べて一番高い評点を用いる。ただし、その場合の評点は60点を上限とする。
- (5) 「秀優良可」を用いた評語による評価が必要な場合、「S」を「秀」、「A」を「優」、「B」を「良」、「C」を「可」、「F」を「不可」と表記する。
- (6) 不合格となった選択科目の評価もGPAの算出対象として扱われる。再履修の後に合格した場合、その評点に基づいてGPAが算出されることになる。
- (7) 当該年度の成績は、所定の期間に、原則として学生本人及び保証人に通知される。

【令和2(2020)年度以前入学生及び2021年度の編入学生】

- (1) シラバスに記載されている成績評価法・基準をもとに評価を行う。詳細については、履修科目のシラバス記載事項を参照すること。また、進級・卒業基準も参照すること。
- (2) 成績の評価は、点数をもって100点法で評価する。60点以上は合格、60点未満は不合格となる。
- (3) 成績評価段階の評語は優、良、可、不可、の4段階で行い、75点以上を「優」、65～74点を「良」、60～64点を「可」、60点未満を「不可」と表記する。なお、成績証明書については「不可」は表記しない。
- (4) 再試験あるいは最終試験を受験した場合、評価には定期試験の評点と再試験あるいは最終試験の評点を比べて一番高い評点を用いる。ただし、その場合の評点は60点を上限とする。
- (5) 当該年度の成績は、所定の期間に、原則として学生本人及び保証人に通知される。

10. 成績疑義照会について

定期試験、追・再試験、最終試験の成績公開の際には、疑義照会を行うことができる。疑義照会を行う場合、単なる再評価を求めるもの、救済の希望や懇願的なものは受け付けられない。

疑義照会の申し出期間の手続きについては、成績公開時に教務システムにて周知する(期限厳守)。

疑義照会の方法は以下の何れかとする。ただし、最終試験については、(2)のみとする。

- (1) 科目担当者へ直接対面で疑義照会を行う。科目担当者へ直接メールで申し出ること不可とする。
- (2) 薬学部教務担当へメールで疑義照会を行う。教務システムの掲示に添付された「申立書」をダウンロードし、疑義の内容を入力し、薬学部教務担当のメールアドレスに添付し送信する。薬学部教務担当は、科目担当者へ「申立書」を転送し、疑義への回答は科目担当者がメールで行う。

11. 不正行為について

東邦大学における試験等に係る不正行為の処分基準は以下のとおり定められている。不正行為を行った者及びそれに便宜を与えた者は東邦大学学生懲戒規程により取り扱われる。

表1 定期試験(それに相当する授業内試験を含む)における不正行為

1. 不正行為の様態

- (1) 他人の答案の覗き見
- (2) 問題・答案用紙配布後の話し合い
- (3) 試験中の受験者間における物品等の貸借
- (4) 監督者の指示に従わない
- (5) 会場から許可なく問題用紙、答案用紙を持ち出す
- (6) 参照可の試験で許可されたもの以外の参照・使用
- (7) 許可されていない機器(携帯電話、スマートフォン等)を鞆にしまわず、身に付ける

<ul style="list-style-type: none"> (8) カンニングペーパー(机上や身体等への書き込み、電子機器類の情報を見ることを含む)等を使用 (9) 受験者間での答案用紙の交換 (10) 組織的なカンニング行為 (11) 受験依頼(替え玉受験)*1 <ul style="list-style-type: none"> 例) <ul style="list-style-type: none"> ア. 依頼された他人が本人になりすまして受験 イ. 答案用紙提出時に依頼した学生の氏名に書き換えて提出
<p>2. 処分内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 計画的と認められない不正行為の場合、口頭による厳重注意、又は懲戒(訓告)のうえ、原則として当該授業科目の成績評価を評価不能とする。 (2) 計画性の強い、又は意図的な不正行為の場合、懲戒(訓告又は停学 1 か月以上 3 か月未満)のうえ、当該授業科目又は当該学期全授業科目の成績評価を評価不能とする。 (3) 特に悪質な場合、懲戒(停学 3 か月以上 6 か月未満、又は無期停学)のうえ、当該学期全授業科目の成績評価を評価不能とする。

*1 受験依頼については、依頼を受けて受験行為を行った者も処分対象となる。

表 2 論文(卒業論文を含む)、レポート、作品等の成績評価に係る提出課題における不正行為

<p>1. 不正行為の様態</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 剽窃行為 <ul style="list-style-type: none"> 例) <ul style="list-style-type: none"> ア. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用 イ. 他人と示し合わせ、ほぼ同一の内容で課題を作成し提出 ウ. 他人が作成した論文等を、自己の氏名に書き換え提出 エ. 指導を受けたにも関わらず、繰り返し剽窃行為を行う (2) データのねつ造 <ul style="list-style-type: none"> 例) <ul style="list-style-type: none"> ア. 存在しないデータ、実験結果等を作成する (3) 改ざん <ul style="list-style-type: none"> 例) <ul style="list-style-type: none"> ア. 研究資料、機器、過程を変更する操作を行い、実験等によって得られた結果等を真正でないものに加工する (4) 代筆依頼*2 <ul style="list-style-type: none"> 例) <ul style="list-style-type: none"> ア. 論文、レポート等の作成を代行する企業、個人等の他者に依頼し、納品物を自己が作成したものとして提出
<p>2. 処分内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 口頭による厳重注意、又は懲戒(訓告)のうえ、当該提出課題等の結果を無効とするほか、当該授業科目の成績評価を評価不能とすることができる。 (2) 特に悪質な場合、懲戒(停学 1 か月以上 3 か月未満)のうえ、当該授業科目の成績評価を評価不能とする。

*2 代筆依頼については、依頼を受けて代筆行為を行った者も処分対象となる。

表 3 授業、試験等の出席に係る不正行為

<p>1. 不正行為の様態*3</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 代返行為、虚偽申告 <ul style="list-style-type: none"> 例) <ul style="list-style-type: none"> ア. 他人に依頼し自己の出席報告を行わせる イ. 他人から依頼を受け他人の出席報告を行う ウ. 偽造した出席報告書(出席カード等)を提出 エ. 欠席理由に係る証明書等を偽造、又は虚偽の内容により提出
<p>2. 処分内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 口頭による厳重注意、又は懲戒(訓告)とするほか、当該授業科目の成績評価を評価不能とすることができる。

*3 出席報告には、口頭、出席カード、学生証の情報を読み取るもの、各種システムを介するもの等、

いずれも含む。

12. 留級した場合について

クラス担任又は所属教室等の教員と学習計画について面談を行い、新年度ガイダンスで年間の履修スケジュールを確認すること。再履修及び単位認定の概要は以下のとおりである。

- (1) 合格した授業科目の単位は認められる。
- (2) 不合格の必修科目及び進級に必要な選択必修に該当する選択科目は再履修しなければならない。
- (3) 合格した授業科目を再度履修して定期試験を受けた場合の評価には、今年度定期試験の評点と単位既修得年度の評点のうち、高い方の評点を用いる。(4-3 再度履修について参照)

13. GPA 制度について

2021 年度以降の入学生から GPA 制度が運用される。GPA 対象授業科目は本学の学士課程で開講する全ての授業科目(合否等により判定する授業科目、他大学等で履修した科目及び履修取消が認められた科目を除く)である。GPA は本学が指定した期日までに確定した成績に基づいて算出され、履修を放棄した科目の成績は不可として扱われる。

※2021 年度編入学生は対象としない。

13-1 グレード・ポイント(評価により与えられる数値。以下「GP」という。)

評価		GP
秀	S	4
優	A	3
良	B	2
可	C	1
不可	F	0

13-2 GPA の計算方法及び種類

計算値は小数点以下第三位を四捨五入し、第二位までを表記する。

$$\text{GPA} = \frac{\text{S の単位数} \times 4 + \text{A の単位数} \times 3 + \text{B の単位数} \times 2 + \text{C の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数(不可 F を含む)}}$$

13-3 GPA に基づいた学修指導等について

年度の GPA 値が 2.0 以下の場合、学修指導・生活指導の対象となる。

14. ナンバリング制度について

東邦大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすることを目的とする。

科目ナンバーの構造

①	②	ハイフン	③	④	⑤
XX	000	—	0	00	X

①部局コード(英字2ケタ)

授業科目を開講する主部局(学部・研究科・共通等)をアルファベット2文字で示している。

学部・研究科	コード	学科・専攻	コード
薬学部 薬学研究科	P	薬学科 薬科学専攻・医療薬学専攻	P
その他(共通科目等)	Z	全学共通科目 キャンパス共通科目 他学部共通科目	Z

②学問分野コード(数字3ケタ)

学問分野を大きく区分した学問分野表に沿って、数字3文字で示している。【別表3】授業科目ナンバリング(学問分野表)参照

③水準コード(数字1ケタ)

授業を履修する水準を数字1文字で示している。

レベル	コード
学士課程において、概ね1年次の履修がふさわしい科目	1
学士課程において、概ね2年次の履修がふさわしい科目	2
学士課程において、概ね3年次の履修がふさわしい科目	3
学士課程において、概ね4年次の履修がふさわしい科目	4
学士課程において、概ね5年次の履修がふさわしい科目	5
学士課程において、概ね6年次の履修がふさわしい科目	6
大学院において、修士レベルの科目	7
大学院において、博士レベルの科目	8

④整理コード(数字2ケタ)

授業を識別するための通し番号

⑤言語コード(数字1ケタ)

授業で使用する言語をアルファベット1文字で示している。

使用言語	コード	(補足)意味
日本語のみ	J	Japanese
英語のみ	E	English
別外国語のみ	S	Second foreign language
複数言語の混合	M	Mixing

令和7(2025)年度 進級・卒業基準

【平成28(2016)年度以降入学生に適用】

進級及び卒業の基準は以下のとおりである。

◇進級基準

- ①全ての必修科目の単位を修得していること。
- ②定められた数の選択必修に該当する選択科目の単位を修得していること。(課程表を参照のこと)
- ③5年次への進級については、薬学共用試験に合格していること。

◇卒業基準

6ヵ年以上在学して、履修すべき全ての必修科目及び定められた数の選択必修に該当する選択科目の単位を修得し、修得した必修科目と選択科目の総単位数が186単位以上であること。

【平成21～27(2009～2015)年度の入学生に適用】

進級及び卒業の基準は以下のとおりである。

◇進級基準

- ①全ての必修科目の単位を修得していること。
- ②定められた数の選択必修に該当する選択科目の単位を修得していること。(課程表を参照のこと)

◇卒業基準

6ヵ年以上在学して、履修すべき全ての必修科目及び定められた数の選択必修に該当する選択科目の単位を修得し、修得した必修科目と選択科目の総単位数が186単位以上であること。

【別表1】入学年度別 指定科目一覧

入学年度	年次	指定科目
令和6年度 以降(2024)	1年次	ヒューマニズムⅠ、薬学入門、データサイエンスリテラシー演習、基礎生物学実習、有機化学実習Ⅰ、早期臨床体験
	2年次	ヒューマニズムⅡ、総合科学演習、分析化学実習、有機化学実習Ⅱ、物理化学実習、微生物学実習、生化学実習、分子生物学・免疫学実習
	3年次 以降	年度を追って指定科目を公開する。
令和2～5年 度(2020～ 2023)	1年次	ヒューマニズムⅠ、コンピュータ入門、基礎生物学実習、有機化学実習Ⅰ、早期臨床体験
	2年次	ヒューマニズムⅡ、プレゼンテーション、総合科学演習、分析化学実習、有機化学実習Ⅱ、物理化学実習、微生物学実習、生化学実習、分子生物学・免疫学実習
	3年次	ヒューマニズムⅢ、衛生薬学実習、薬理学実習、薬物動態学実習、製剤学実習、生薬学実習
	4年次	ヒューマニズムⅣ、病態検査学実習、プレ実務実習Ⅰ(調剤)、プレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者対応)、薬物治療学演習、プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)、プレ実務実習Ⅱ(医療情報)、プレ実務実習Ⅱ(総合演習)、選必)生命科学特別講義、選必)社会薬学特別講義、社会への招待Ⅰ
	5年次	卒業研究Ⅰ、選必)社会への招待Ⅱa～d
平成29～ 令和元年度 (2017～2019)	1年次	ヒューマニズムⅠ、コンピュータ入門、基礎生物学実習、有機化学実習Ⅰ、初等物理学演習、初等化学演習
	2年次	ヒューマニズムⅡ、プレゼンテーション、総合科学演習、分析化学実習、有機化学実習Ⅱ、物理化学実習、微生物学実習、生化学実習、分子生物学・免疫学実習
	3年次	ヒューマニズムⅢ、衛生薬学実習、薬理学実習、薬物動態学実習、製剤学実習、生薬学実習
	4年次	ヒューマニズムⅣ、病態検査学実習、プレ実務実習Ⅰ(調剤)、プレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者対応)、薬物治療学演習、プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)、プレ実務実習Ⅱ(医療情報)、プレ実務実習Ⅱ(総合演習)、選必)生命科学特別講義、選必)社会薬学特別講義
	5年次	卒業研究Ⅰ、社会への招待Ⅰ、選必)社会への招待Ⅱa～d
平成28年度 (2016)	1年次	ヒューマニズムⅠ、コンピュータ入門、基礎生物学実習、有機化学実習Ⅰ、初等物理学演習、初等化学演習
	2年次	ヒューマニズムⅡ、プレゼンテーション、総合科学演習、分析化学実習、有機化学実習Ⅱ、物理化学実習、微生物学実習、生化学実習、分子生物学・免疫学実習
	3年次	ヒューマニズムⅢ、衛生薬学実習、薬理学実習、薬物動態学実習、製剤学実習、生薬学実習
	4年次	ヒューマニズムⅣ、病態検査学実習、プレ実務実習Ⅰ(調剤)、プレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者対応)、薬物治療学演習、プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)、プレ実務実習Ⅱ(医療情報)、プレ実務実習Ⅱ(総合演習)、薬学演習Ⅰ
	5年次	卒業研究Ⅰ
平成27年度 (2015)	1年次	ヒューマニズムⅠ、コンピュータ入門、基礎生物学実習、有機化学実習Ⅰ、初等物理学演習、初等化学演習
	2年次	ヒューマニズムⅡ、プレゼンテーション、総合科学演習、分析化学実習、有機化学実習Ⅱ、物理化学実習、微生物学実習、生化学実習、分子生物学・免疫学実習
	3年次	ヒューマニズムⅢ、衛生薬学実習、薬理学実習、薬物動態学実習、製剤学実習、生薬学実習
	4年次	ヒューマニズムⅣ、病態検査学実習、プレ実務実習Ⅰ(調剤)、プレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者対応)、薬物治療学演習、プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)、プレ実務実習Ⅱ(医療情報)、プレ実務実習Ⅱ(総合演習)、薬学演習Ⅰ、薬学演習Ⅱ
	5年次	卒業研究Ⅰ

【別表 2】

①講義・演習を欠席した場合

授業・演習を公欠または忌引で欠席した場合のみ、手続きが必要である。教務システムに掲載されている欠席理由別の指定書式(*)をダウンロードし、必要事項を記入した上で、必要書類を添えて提出すること。(3-2 授業での欠席参照)

*講義・演習欠席届指定書式:①公欠用 ②忌引用

欠席理由	必要な書類	提出先	提出期限
①【公欠】学校感染症に罹患した又は罹患の疑いがあるとき	登校許可書	学事課薬学部 教務担当窓口	原則公欠期間最終日の翌日から3日以内(土、日及び大学が定める休日を含む)
①【公欠】学部長の指示により、学内外で行われる行事、式典、活動等に参加するとき	出席依頼文書等		
①【公欠】その他学部長が止むを得ないと認めたととき	必要時に別途案内		
②【忌引】 ※忌引と扱われる日数は履修規程を参照のこと	会葬礼状等		原則忌引期間最終日の翌日から3日以内(土、日及び大学が定める休日を含む)
病気(学校感染症以外)・怪我・災害等	学事課薬学部教務担当窓口での手続き不要 必要に応じて、欠席した授業の担当教員に申し出ること。		
通学区間の交通機関が不通になった場合			
就職活動			

※公欠及び忌引:該当する授業等の欠席回数は全授業回数からこれを控除する。欠席を出席の扱いにするものではない。控除できる授業時間数の合計は、全授業時間数の5分の1を超えることはできない。

(例)授業回数14回・欠席2回(そのうち1回が公欠の場合) → 授業回数13回・欠席1回

②学内の実習を欠席した場合

学内の実習を欠席した場合は、欠席の理由にかかわらず手続きが必要である。教務システムに掲載されている欠席理由別の指定書式(*)をダウンロードし、必要事項を記入した上で、必要書類を添えて提出すること。(3-2 授業での欠席参照)

*実習欠席届指定書式:①公欠用 ②忌引用 ③公欠・忌引以外用(下表に非該当の欠席はこの書式を使用する)

4年次秋学期から5年次の学外実習(病院実習、薬局実習)における出欠に関わる事項については、科目担当教員の指示に従うこと。

欠席理由	必要な書類	提出先	提出期限
①【公欠】学校感染症に罹患した又は罹患の疑いがあるとき	登校許可書	学事課薬学部 教務担当窓口	原則公欠期間最終日の翌日から3日以内(土、日及び大学が定める休日を含む)
①【公欠】学部長の指示により、学内外で行われる行事、式典、活動等に参加するとき	出席依頼文書等		
①【公欠】その他学部長が止むを得ないと認めたととき	必要時に別途案内		
②【忌引】 ※忌引と扱われる日数は履修規程を参照のこと	会葬礼状等	科目担当教員	治癒後、又は復帰後速やかに 登校可能となってから速やかに
③病気(学校感染症以外)・怪我	受診した医療機関の診断書 又は領収書のコピーでも可		
③災害等	罹災証明等		
③通学区間の交通機関が不通になった場合	遅延証明書等		

※公欠及び忌引:該当する授業等の欠席回数は全授業回数からこれを控除する。欠席を出席の扱いにするものではない。控除できる授業時間数の合計は、全授業時間数の5分の1を超えることはできない。

(例)授業回数14回・欠席2回(そのうち1回が公欠の場合) → 授業回数13回・欠席1回

【別表3】授業科目ナンバリング(学問分野表)

学問分野(大区分コード)	学問分野(中区分コード)	学問分野(小区分コード)	学問分野コード
1 人文科学・社会科学系	0 思想、芸術およびその関連分野	0 思想、芸術およびその関連分野	100
		1 哲学および倫理学関連	101
		2 中国哲学、印度哲学および仏教学関連	102
	2 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野	0 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野	120
		1 史学一般関連	121
		2 日本史関連	122
	3 地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野	0 地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野	130
		1 地理学関連	131
		2 人文地理学関連	132
		3 文化人類学および民俗学関連	133
	4 法学およびその関連分野	0 法学およびその関連分野	140
	5 政治学および社会学とその関連分野	0 政治学および社会学とその関連分野	150
		1 政治学関連	151
		2 国際関係論関連	152
	6 経済学、経営学およびその関連分野	0 経済学、経営学およびその関連分野	160
		1 理論経済学関連	161
		8 心理学およびその関連分野	0 心理学およびその関連分野
2 数理・情報科学系	2 情報科学、情報工学およびその関連分野①	0 情報科学、情報工学およびその関連分野①	220
		1 情報学基礎論関連	221
		2 数理情報学関連	222
		3 統計科学関連	223
		4 計算機システム関連	224
		5 ソフトウェア関連	225
5 薬学・薬科学系	0 基礎薬学	0 基礎薬学	500
		1 薬系化学	501
		2 薬系物理学	502
		3 薬系生物学	503
	1 臨床薬学・応用薬学	0 臨床薬学・応用薬学	510
		1 薬学と社会	511
		2 衛生薬学	512
		3 医療薬学	513
		4 薬学臨床	514
		5 薬学総合	515
		6 薬学アドバンスト	516
6 医学系	5 医学領域別	1 リハビリテーション科学	651
		2 スポーツ科学	652
8 言語系	0 言語学一般	0 言語学一般	800
		1 方法論	801
	2 英語	0 英語	820
		1 語学	821
		2 文学	822
		3 文化・社会	823
		4 医療英語	824
	5 その他	825	
	3 中国語	0 中国語	830
	4 ドイツ語	0 ドイツ語	840
	5 フランス語	0 フランス語	850
9 その他	0 卒業研究および研究一般	0 卒業研究および研究一般	900
		1 研究方法	901
		2 研究倫理	902
	1 職業規範・倫理の涵養	0 職業規範・倫理の涵養	910
		1 キャリア形成	911
		2 医療倫理	912
	2 理数基礎科目	0 理数基礎科目	920
		1 一般化学、基礎化学関連	921
		2 一般生物、基礎生物関連	922
		3 一般物理、基礎物理関連	923
		4 一般地学、基礎地学関連	924
		5 一般数学、基礎数学関連	925
	9 その他	0 その他	990
		1 コミュニケーション関連	991
		2 多職種連携	992
3 人間性・感性の涵養		993	

その他

教務事項等の各種伝達方法について

大学からの学生に対する連絡事項は、全て教務システム又はA館の掲示板に掲示する(授業変更や休講に関しては教務システムにのみ掲示)。一旦掲示した事項は、周知されたものとみなし、これを見なかったことによって生じる不利益は、学生自身の責任とする。したがって、毎日教務システムを確認するだけでなく、登・下校時に必ずA館掲示板も見ること。

Moodleが開設されている科目の連絡事項等については、Moodleも確認すること。

<https://moodle.toho-u.ac.jp/login/index.php>

交通障害に伴う授業の取り扱いについて

地震、台風や大雪などの災害、その他不測の事態等により交通機関が不通になった場合の授業の取り扱いは以下のとおりとする。

- (1) 午前6時の時点で、JR総武線又は京成線が運転見合わせの場合、午前中は休講とする。
- (2) 午前11時の時点で、JR総武線又は京成線が運転見合わせの場合、全日休講とする。

休講・補講について

休講・補講が生じた際には、教務システムに掲示します。始業時間を20分以上経過しても科目担当教員が現れず、何の連絡もない場合には休講とします。

また、授業時間確保のため、原則として休講に対する補講を実施します。

習志野メディアセンター(図書館)について

<https://www.mnc.toho-u.ac.jp/mc/nmcservice.php>

【令和7年度1年次課程表（2025年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間	
総合教育科目	法学	1				1	春		○			15	14
	倫理哲学	1				1	春		○			15	14
	心理学	1				1		秋	○			15	14
	保健環境論	1				1		秋	○			15	14
	文章表現論	1				1		秋	○			15	14
	基礎物理学Ⅰ	1				1	春		○			15	18
	基礎物理学Ⅱ	1				1		秋	○			15	14
	基礎物理学Ⅲ	1				2	春		○			15	14
	基礎化学	1				1	春		○			15	18
	基礎生物学	1				1	春		○			15	18
	基礎数学Ⅰ	1.5				1	春		○			15	21
	基礎数学Ⅱ	1				1		秋	○			15	14
	初等物理学演習	1				1	春	秋		○		15	14
	初等化学演習	0.5				1	春			○		15	12
	数値データサイエンスAI入門	1				1	春		○			15	14
	データサイエンスリテラシー演習	1				1		秋		○		15	14
	基礎生物学実習	0.5				1		秋			○	30	14
	現代日本史		1		*1	1	春		○			15	14
	国際関係論		1		*1	1	春		○			15	14
	自己表現論		1		*1	1	春		○			15	14
	民俗学		1		*1	1		秋	○			15	14
	経済学		1		*1	1		秋	○			15	14
	スポーツ科学		1		*1	1		秋	○			15	14
	プログラミング入門		1			2	春			○		15	14
	全学共通科目A		2							○		15	27
	全学共通科目B		2							○		15	27
	全学共通科目C		1			1	春		○			15	14
	全学共通科目D		1						○			15	14
	全学共通科目E		1						○			15	14
	全学共通科目F		1						○			15	14
	初等コンピューター技術				0.5	1	春			○		15	7
	外国語	英語Ⅰa	1			1	春		○			15	14
		英語Ⅰb	1			1	春		○			15	14
英語Ⅱa		1			1		秋	○			15	14	
英語Ⅱb		1			1		秋	○			15	14	
英語Ⅲa		1			2	春		○			15	14	
英語Ⅲb		1			2	春		○			15	14	
英語Ⅳa		1			2		秋	○			15	14	
英語Ⅳb		1			2		秋	○			15	14	
英会話			1			2・3	春秋		○		15	14	
ドイツ語Ⅰa			1			1	春		○		15	14	
ドイツ語Ⅰb			1			1	春		○		15	14	
ドイツ語Ⅱa			1			1		秋	○		15	14	
ドイツ語Ⅱb			1			1		秋	○		15	14	
中国語Ⅰa			1			1	春		○		15	14	
中国語Ⅰb			1			1	春		○		15	14	
中国語Ⅱa			1			1		秋	○		15	14	
中国語Ⅱb			1			1		秋	○		15	14	
フランス語Ⅰa			1			1	春		○		15	14	
フランス語Ⅰb			1			1	春		○		15	14	
フランス語Ⅱa			1			1		秋	○		15	14	
フランス語Ⅱb			1			1		秋	○		15	14	
外国語セミナーA			1						○		15	14	
外国語セミナーB			1						○		15	14	
体育健	スポーツ実習Ⅰ		1		1	春				○	30	27	
	スポーツ実習Ⅱ		1		1		秋			○	30	27	

【令和7年度1年次課程表（2025年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]	
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間		
専門基礎教育科目	薬学基礎（物理）	分析化学Ⅰ	1			1		秋	○			15	14	
		分析化学Ⅱ	1			2	春		○			15	14	
		分析化学Ⅲ	0.5			3	春		○			15	7	
		薬学機器分析学	0.5			3		秋	○			15	7	
		構造化学	1			2	春		○			15	14	
		物理化学Ⅰ	1			2	春		○			15	14	
		物理化学Ⅱ	1			2		秋	○			15	14	
		分析化学実習	1			2	春				○	30	27	
		物理化学実習	1			2		秋			○	30	27	
		薬学基礎（化学）	生薬学	1			1	春		○			15	14
	天然物化学		1			3	春		○			15	14	
	漢方薬学		1			3		秋	○			15	14	
	植物療法学		1			1		秋	○			15	14	
	無機化学		1			1	春		○			15	14	
	有機化学Ⅰ		1			1		秋	○			15	14	
	有機化学Ⅱ		1			2	春		○			15	14	
	有機化学Ⅲ		1			2		秋	○			15	14	
	有機化学Ⅳ		1			3	春		○			15	14	
	有機化学Ⅴ		1			3	春		○			15	14	
	有機化学Ⅵ		1			3		秋	○			15	14	
	有機構造解析学		1			2		秋	○			15	14	
	生物有機化学		1			3		秋	○			15	14	
	医薬品化学		1			4	春		○			15	14	
	有機化学実習Ⅰ		0.5			1		秋			○	30	14	
	有機化学実習Ⅱ		1			2	春				○	30	27	
	生薬学実習		1			3	春				○	30	27	
	薬学基礎（生物）		生化学Ⅰ	1			1	春		○			15	14
			生化学Ⅱ	1			1		秋	○			15	14
			生化学Ⅲ	1			2	春		○			15	14
		細胞生物学	1			1		秋	○			15	14	
		人体生理学Ⅰ	1			2	春		○			15	14	
		人体生理学Ⅱ	1			2		秋	○			15	14	
		人体生理学Ⅲ	1			3	春		○			15	14	
微生物学		1			2	春		○			15	14		
病原微生物学		1			2		秋	○			15	14		
分子生物学Ⅰ		1			2	春		○			15	14		
分子生物学Ⅱ		1			2		秋	○			15	14		
免疫学Ⅰ		1			2		秋	○			15	14		
免疫学Ⅱ		1			3	春		○			15	14		
分子腫瘍学	0.5			3		秋	○			15	7			
微生物学実習	1			2		秋			○	30	27			
生化学実習	0.5			2		秋			○	30	14			
分子生物学・免疫学実習	0.5			2		秋			○	30	14			

【令和7年度1年次課程表（2025年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間	
医療人意識形成	薬学入門	1				1	春		○			15	14
	コミュニケーション	0.5				1	春		○			15	7
	ヒューマニズムⅠ	0.5				1		秋		○		15	7
	ヒューマニズムⅡ	0.5				2		秋		○		15	7
	ヒューマニズムⅢ	0.5				3		秋		○		15	7
	ヒューマニズムⅣ	0.5				4	春			○		15	7
	早期臨床体験	0.5				1		秋			○	30	14
人間と生命			1			1	春		○		15	14	
薬学と社会	薬事関係法規・制度Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	薬事関係法規・制度Ⅱ	1				4	春		○			15	14
	薬事関係法規・制度Ⅲ	0.5				6	春			○		15	7
	地域医療	0.5				2	春		○			15	7
	薬局管理学	1				4		秋	○			15	14
	社会薬学総合演習			0.5			6		秋		○	15	7
衛生薬学	環境Ⅰ	2				3	春		○			15	27
	環境Ⅱ	1				3		秋	○			15	14
	健康Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	健康Ⅱ	1				4	春		○			15	14
	健康Ⅲ	1				4	春		○			15	14
	健康Ⅳ	1				4		秋	○			15	14
	臨床衛生学	1				4		秋	○			15	14
	放射薬品学	0.5				3	春		○			15	7
	衛生薬学実習	1				3	春				○	30	27
	放射薬品学実習			0.5			3		秋			○	30
専門教育科目 医療薬学	薬理学Ⅰ	1				1		秋	○			15	14
	薬理学Ⅱ	1				2	春		○			15	14
	薬理学Ⅲ	1				2		秋	○			15	14
	薬理学Ⅳ	1				3	春		○			15	14
	薬理学Ⅴ	1				3		秋	○			15	14
	薬理学Ⅵ	1				4	春			○		15	14
	製剤学Ⅰ	1				2		秋	○			15	14
	製剤学Ⅱ	1				3	春		○			15	14
	製剤学Ⅲ	1				3		秋	○			15	14
	薬物動態学Ⅰ	1				2		秋	○			15	14
	薬物動態学Ⅱ	1				3	春		○			15	14
	薬物動態学Ⅲ	1				3		秋	○			15	14
	生物統計学	1				2	春		○			15	14
	化学療法学	1				3	春		○			15	14
	症候学	1				3	春		○			15	14
	病態検査学Ⅰ	1				3	春		○			15	14
	病態検査学Ⅱ	0.5				3		秋	○			15	7
	薬物治療学Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	薬物治療学Ⅱ	1				3		秋	○			15	14
	薬物治療学Ⅲ	1				3		秋	○			15	14
	薬物治療学Ⅳ	1				4	春		○			15	14
	薬物治療学Ⅴ	1				4	春		○			15	14
	薬物治療学Ⅵ	1				4	春		○			15	14
	薬物治療学Ⅶ	1				4	春		○			15	14
	感染症学	1				4		秋	○			15	14
	臨床腫瘍学	0.5				4		秋	○			15	7
	臨床漢方治療学	1				4	春		○			15	14
	医薬品安全性学	0.5				4	春		○			15	7
	一般用医薬品学	1				4		秋	○			15	14
	先端医療薬学	1				4		秋	○			15	14
	医療情報Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	医療情報Ⅱ	1				4	春		○			15	14
	医療情報Ⅲ	1				4	春		○			15	14
	臨床薬学総論	1				6	春		○			15	14
	薬物治療学演習	0.5				4		秋			○	15	9
	薬理学実習	1.5				3	春				○	30	41
	製剤学実習	1				3		秋			○	30	27
	薬物動態学実習	1				3		秋			○	30	27
	病態検査学実習	0.5				4	春				○	30	14
	医療データサイエンス	0.5				3	春		○			15	7
	医療データサイエンス演習	0.5				3		秋			○	15	7

【令和7年度1年次課程表（2025年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]	
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間		
臨床薬学	実践薬物治療学	1				4		秋	○			15	14	
	プレ実務実習Ⅰ(調剤)	1				4	春			○		30	27	
	プレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者対応)	0.5				4	春			○		30	14	
	プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)	2				4		秋		○		30	54	
	プレ実務実習Ⅱ(医療情報)	1				4		秋		○		30	27	
	プレ実務実習Ⅱ(総合演習)	0.5				4		秋		○		30	14	
薬学総合	総合科学演習	1				2		秋		○		15	14	
	薬学演習Ⅰ	1				4	春			○		15	14	
	薬学演習Ⅱ	2				4		秋		○		15	27	
	薬学総合演習Ⅰ	2				6	春			○		15	28	
	薬学総合演習Ⅱ	4				6		秋		○		15	56	
	病院実習	10				4秋～5秋					○		30	270
	薬局実習	10				4秋～5秋					○		30	270
	薬学研究Ⅰ	8				4春～5秋					○		30	216
	薬学総合講義Ⅰ		1	*2		6	春		○			15	14	
	薬学総合講義Ⅱ		1	*2		6	春		○			15	14	
	薬学研究Ⅱa		4	*2		6	春				○		30	108
	薬学研究Ⅱb		2	*2		6	春				○		30	54
	専門教育科目	薬学アドバンス	高齢者医療	0.5			4		秋	○			15	7
臨床医学総論Ⅰ			1			4	春		○			15	14	
臨床医学総論Ⅱ			1			4		秋	○			15	14	
処方設計管理学			1			6	春		○			15	14	
社会への招待Ⅰ			0.5			4	春		○			15	7	
多職種臨床推論			0.5			5		秋		○		15	7	
薬剤師のためのやさしい英会話			1			3・4春秋				○			15	14
実用医療英語			1			4	春			○			15	14
生体分子解析学			1			3		秋	○				15	14
医薬品開発Ⅰ			1			3		秋	○				15	14
医薬品開発Ⅱ			1			5	春		○				15	14
医用工学概論			1			4	春		○				15	14
看護学			1			4	春		○				15	14
臨床心理学			1			4	春		○				15	14
生命科学			1			4		秋	○				15	14
人体解剖学		0.5			5	春		○				15	7	
臨床栄養学		0.5			5	春		○				15	7	
先端応用薬学総論Ⅰ		0.5			6	春		○				15	8	
先端応用薬学総論Ⅱ		0.5			6	春		○				15	8	
先端応用薬学総論Ⅲ		0.5			6	春		○				15	8	
先端応用薬学総論Ⅳ		0.5			6	春		○				15	8	
先端応用薬学総論Ⅴ		0.5			6	春		○				15	8	
先端応用薬学総論Ⅵ		0.5			6	春		○				15	8	
生命科学特別講義		0.5		*3		4	春	秋	○			15	7	
社会薬学特別講義		0.5		*3		4	春	秋	○			15	7	
社会への招待Ⅱa		0.5		*4		5	春		○			15	7	
社会への招待Ⅱb		0.5		*4		5	春		○			15	7	
社会への招待Ⅱc		0.5		*4		5	春		○			15	7	
社会への招待Ⅱd		0.5		*4		5	春		○			15	7	
実用薬学英語		1				4	春			○		15	14	
チーム医療演習		1				4	春			○		15	14	
海外実務実習		2				5	春	秋			○	30	54	
		合計	168.5	62	0.5	卒業所要単位数は、必修168.5単位、選択17.5単位以上、計186単位以上とする。								

- *1 選択必修単位 (2単位履修する)
- *2 選択必修単位 (4単位履修する)
- *3 選択必修単位 (0.5単位履修する)
- *4 選択必修単位 (0.5単位履修する)

【令和7年度2年次課程表（2024年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間	
教養教育	法学	1				1	春		○			15	14
	倫理哲学	1				1	春		○			15	14
	心理学	1				1		秋	○			15	14
	保健環境論	1				1		秋	○			15	14
	文章表現論	1				1		秋	○			15	14
	基礎物理学Ⅰ	1				1	春		○			15	18
	基礎物理学Ⅱ	1				1		秋	○			15	14
	基礎物理学Ⅲ	1				2	春		○			15	14
	基礎化学	1				1	春		○			15	18
	基礎生物学	1				1	春		○			15	18
	基礎数学Ⅰ	1.5				1	春		○			15	21
	基礎数学Ⅱ	1				1		秋	○			15	14
	初等物理学演習	1				1	春	秋		○		15	14
	初等化学演習	0.5				1	春			○		15	12
	数理データサイエンスAI入門	1				1	春		○			15	14
	データサイエンスリテラシー演習	1				1		秋		○		15	14
	基礎生物学実習	0.5				1		秋			○	30	14
	現代日本史		1		*1	1	春		○			15	14
	国際関係論		1		*1	1	春		○			15	14
	自己表現論		1		*1	1	春		○			15	14
	民俗学		1		*1	1		秋	○			15	14
	経済学		1		*1	1		秋	○			15	14
	スポーツ科学		1		*1	1		秋	○			15	14
	プログラミング入門		1			2	春			○		15	14
	全学共通科目A		2							○		15	27
	全学共通科目B		2							○		15	27
	全学共通科目C		1							○		15	14
	全学共通科目D		1							○		15	14
	全学共通科目E		1							○		15	14
	全学共通科目F		1							○		15	14
	初等コンピュータ技術				0.5	1	春			○		15	7
	外国語	英語Ⅰa	1			1	春		○			15	14
		英語Ⅰb	1			1	春		○			15	14
英語Ⅱa		1			1		秋	○			15	14	
英語Ⅱb		1			1		秋	○			15	14	
英語Ⅲa		1			2	春		○			15	14	
英語Ⅲb		1			2	春		○			15	14	
英語Ⅳa		1			2		秋	○			15	14	
英語Ⅳb		1			2		秋	○			15	14	
英会話			1			2・3	春秋		○			15	14
ドイツ語Ⅰa		1			1	春		○			15	14	
ドイツ語Ⅰb		1			1	春		○			15	14	
ドイツ語Ⅱa		1			1		秋	○			15	14	
ドイツ語Ⅱb		1			1		秋	○			15	14	
中国語Ⅰa		1			1	春		○			15	14	
中国語Ⅰb		1			1	春		○			15	14	
中国語Ⅱa		1			1		秋	○			15	14	
中国語Ⅱb		1			1		秋	○			15	14	
フランス語Ⅰa		1			1	春		○			15	14	
フランス語Ⅰb		1			1	春		○			15	14	
フランス語Ⅱa		1			1		秋	○			15	14	
フランス語Ⅱb		1			1		秋	○			15	14	
外国語セミナーA		1							○			15	14
外国語セミナーB		1							○			15	14
体育健	スポーツ実習Ⅰ		1		1	春				○	30	27	
	スポーツ実習Ⅱ		1		1		秋			○	30	27	

【令和7年度2年次課程表（2024年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間	
専門基礎教育科目	薬学基礎（物理）	分析化学Ⅰ	1			1		秋	○			15	14
		分析化学Ⅱ	1			2	春		○			15	14
		分析化学Ⅲ	0.5			3	春		○			15	7
		薬学機器分析学	0.5			3		秋	○			15	7
		構造化学	1			2	春		○			15	14
		物理化学Ⅰ	1			2	春		○			15	14
		物理化学Ⅱ	1			2		秋	○			15	14
		分析化学実習	1			2	春				○	30	27
		物理化学実習	1			2		秋			○	30	27
		薬学基礎（化学）	生薬学	1			1	春		○			15
	天然物化学		1			3	春		○			15	14
	漢方薬学		1			3		秋	○			15	14
	植物療法学		1			1		秋	○			15	14
	無機化学		1			1	春		○			15	14
	有機化学Ⅰ		1			1		秋	○			15	14
	有機化学Ⅱ		1			2	春		○			15	14
	有機化学Ⅲ		1			2		秋	○			15	14
	有機化学Ⅳ		1			3	春		○			15	14
	有機化学Ⅴ		1			3	春		○			15	14
	有機化学Ⅵ		1			3		秋	○			15	14
	有機構造解析学		1			2		秋	○			15	14
	生物有機化学		1			3		秋	○			15	14
	医薬品化学		1			4	春		○			15	14
	有機化学実習Ⅰ		0.5			1		秋			○	30	14
	有機化学実習Ⅱ		1			2	春				○	30	27
	生薬学実習		1			3	春				○	30	27
	薬学基礎（生物）	生化学Ⅰ	1			1	春		○			15	14
		生化学Ⅱ	1			1		秋	○			15	14
		生化学Ⅲ	1			2	春		○			15	14
		細胞生物学	1			1		秋	○			15	14
		人体生理学Ⅰ	1			2	春		○			15	14
		人体生理学Ⅱ	1			2		秋	○			15	14
		人体生理学Ⅲ	1			3	春		○			15	14
微生物学		1			2	春		○			15	14	
病原微生物学		1			2		秋	○			15	14	
分子生物学Ⅰ		1			2	春		○			15	14	
分子生物学Ⅱ		1			2		秋	○			15	14	
免疫学Ⅰ		1			2		秋	○			15	14	
免疫学Ⅱ		1			3	春		○			15	14	
分子腫瘍学		0.5			3		秋	○			15	7	
微生物学実習		1			2		秋			○	30	27	
生化学実習		0.5			2		秋			○	30	14	
分子生物学・免疫学実習	0.5			2		秋			○	30	14		

【令和7年度2年次課程表（2024年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間	
医療人意識形成	薬学入門	1				1	春		○			15	14
	コミュニケーション	0.5				1	春		○			15	7
	ヒューマニズムⅠ	0.5				1		秋		○		15	7
	ヒューマニズムⅡ	0.5				2		秋		○		15	7
	ヒューマニズムⅢ	0.5				3		秋		○		15	7
	ヒューマニズムⅣ	0.5				4	春			○		15	7
	早期臨床体験	0.5				1		秋			○	30	14
人間と生命			1			1	春		○		15	14	
薬学と社会	薬事関係法規・制度Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	薬事関係法規・制度Ⅱ	1				4	春		○			15	14
	薬事関係法規・制度Ⅲ	0.5				6	春			○		15	7
	地域医療	0.5				2	春		○			15	7
	薬局管理学	1				4		秋	○			15	14
	社会薬学総合演習			0.5			6		秋		○	15	7
衛生薬学	環境Ⅰ	2				3	春		○			15	27
	環境Ⅱ	1				3		秋	○			15	14
	健康Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	健康Ⅱ	1				4	春		○			15	14
	健康Ⅲ	1				4	春		○			15	14
	健康Ⅳ	1				4		秋	○			15	14
	臨床衛生学	1				4		秋	○			15	14
	放射薬品学	0.5				3	春		○			15	7
	衛生薬学実習	1				3	春			○		30	27
	放射薬品学実習			0.5			3		秋		○	30	14
専門教育科目 医療薬学	薬理学Ⅰ	1				1		秋	○			15	14
	薬理学Ⅱ	1				2	春		○			15	14
	薬理学Ⅲ	1				2		秋	○			15	14
	薬理学Ⅳ	1				3	春		○			15	14
	薬理学Ⅴ	1				3		秋	○			15	14
	薬理学Ⅵ	1				4	春			○		15	14
	製剤学Ⅰ	1				2		秋	○			15	14
	製剤学Ⅱ	1				3	春		○			15	14
	製剤学Ⅲ	1				3		秋	○			15	14
	薬物動態学Ⅰ	1				2		秋	○			15	14
	薬物動態学Ⅱ	1				3	春		○			15	14
	薬物動態学Ⅲ	1				3		秋	○			15	14
	生物統計学	1				2	春		○			15	14
	化学療法学	1				3	春		○			15	14
	症候学	1				3	春		○			15	14
	病態検査学Ⅰ	1				3	春		○			15	14
	病態検査学Ⅱ	0.5				3		秋	○			15	7
	薬物治療学Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	薬物治療学Ⅱ	1				3		秋	○			15	14
	薬物治療学Ⅲ	1				3		秋	○			15	14
	薬物治療学Ⅳ	1				4	春		○			15	14
	薬物治療学Ⅴ	1				4	春		○			15	14
	薬物治療学Ⅵ	1				4	春		○			15	14
	薬物治療学Ⅶ	1				4	春		○			15	14
	感染症学	1				4		秋	○			15	14
	臨床腫瘍学	0.5				4		秋	○			15	7
	臨床漢方治療学	1				4	春		○			15	14
	医薬品安全性学	0.5				4	春		○			15	7
	一般用医薬品学	1				4		秋	○			15	14
	先端医療薬学	1				4		秋	○			15	14
	医療情報Ⅰ	1				3		秋	○			15	14
	医療情報Ⅱ	1				4	春		○			15	14
	医療情報Ⅲ	1				4	春		○			15	14
	臨床薬学総論	1				6	春		○			15	14
	薬物治療学演習	0.5				4		秋		○		15	9
	薬理学実習	1.5				3	春				○	30	41
	製剤学実習	1				3		秋			○	30	27
	薬物動態学実習	1				3		秋			○	30	27
	病態検査学実習	0.5				4	春				○	30	14
	医療データサイエンス	0.5				3	春		○			15	7
	医療データサイエンス演習	0.5				3		秋		○		15	7

【令和7年度2年次課程表（2024年入学）】

授業科目の区分	授業科目	単位数			備考	開講期			主たる授業形態及び1単位付与に必要な授業時間				コマ数 [回]	
		必修	選択	自由		学年	春	秋	講義	演習	実習	時間		
臨床薬学	実践薬物治療学	1				4		秋	○			15	14	
	プレ実務実習Ⅰ(調剤)	1				4	春			○		30	27	
	プレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者対応)	0.5				4	春			○		30	14	
	プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)	2				4		秋		○		30	54	
	プレ実務実習Ⅱ(医療情報)	1				4		秋		○		30	27	
	プレ実務実習Ⅱ(総合演習)	0.5				4		秋		○		30	14	
薬学総合	総合科学演習	1				2		秋		○		15	14	
	薬学演習Ⅰ	1				4	春			○		15	14	
	薬学演習Ⅱ	2				4		秋		○		15	27	
	薬学総合演習Ⅰ	2				6	春			○		15	28	
	薬学総合演習Ⅱ	4				6		秋		○		15	56	
	病院実習	10				4秋～5秋					○		30	270
	薬局実習	10				4秋～5秋					○		30	270
	薬学研究Ⅰ	8				4春～5秋					○		30	216
	薬学総合講義Ⅰ		1	*2		6	春		○			15	14	
	薬学総合講義Ⅱ		1	*2		6	春		○			15	14	
	薬学研究Ⅱa		4	*2		6	春				○		30	108
	薬学研究Ⅱb		2	*2		6	春				○		30	54
専門教育科目	高齢者医療	0.5				4		秋	○			15	7	
	臨床医学総論Ⅰ	1				4	春		○			15	14	
	臨床医学総論Ⅱ	1				4		秋	○			15	14	
	処方設計管理学	1				6	春		○			15	14	
	社会への招待Ⅰ	0.5				4	春		○			15	7	
	多職種臨床推論	0.5				5		秋		○		15	7	
	薬剤師のためのやさしい英会話		1			3・4春秋			○			15	14	
	実用医療英語		1			4	春			○		15	14	
	生体分子解析学		1			3		秋	○			15	14	
	医薬品開発Ⅰ		1			3		秋	○			15	14	
	医薬品開発Ⅱ		1			5	春		○			15	14	
	医用工学概論		1			4	春		○			15	14	
	看護学		1			4	春		○			15	14	
	臨床心理学		1			4	春		○			15	14	
	生命科学		1			4		秋	○			15	14	
	人体解剖学		0.5			5	春		○			15	7	
	臨床栄養学		0.5			5	春		○			15	7	
	先端応用薬学総論Ⅰ		0.5			6	春		○			15	8	
	先端応用薬学総論Ⅱ		0.5			6	春		○			15	8	
	先端応用薬学総論Ⅲ		0.5			6	春		○			15	8	
	先端応用薬学総論Ⅳ		0.5			6	春		○			15	8	
	先端応用薬学総論Ⅴ		0.5			6	春		○			15	8	
	先端応用薬学総論Ⅵ		0.5			6	春		○			15	8	
	生命科学特別講義		0.5	*3		4	春	秋	○			15	7	
	社会薬学特別講義		0.5	*3		4	春	秋	○			15	7	
	社会への招待Ⅱa		0.5	*4		5	春		○			15	7	
	社会への招待Ⅱb		0.5	*4		5	春		○			15	7	
	社会への招待Ⅱc		0.5	*4		5	春		○			15	7	
	社会への招待Ⅱd		0.5	*4		5	春		○			15	7	
	実用薬学英語		1			4	春			○		15	14	
チーム医療演習		1			4	春			○		15	14		
海外実務実習		2			5	春	秋			○		30	54	
	合計	168.5	62	0.5	卒業所要単位数は、必修168.5単位、選択17.5単位以上、計186単位以上とする。									

- *1 選択必修単位 (2単位履修する)
- *2 選択必修単位 (4単位履修する)
- *3 選択必修単位 (0.5単位履修する)
- *4 選択必修単位 (0.5単位履修する)

【令和7年度3年次課程表（2023年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語 I a	必修	2											
英語 I b	必修	2											
法学	必修	1											
倫理哲学	必修	1											
基礎物理学 I	必修	1											
基礎化学	必修	1											
基礎生物学	必修	1											
基礎数学 I	必修	1											
薬学入門	必修	1											
コミュニケーション	必修	0.5											
生薬学	必修	1											
生化学 I	必修	1											
無機化学	必修	1											
初等物理学演習	必修	1											
初等化学演習	必修	0.5											
コンピュータ入門	必修	1											
心理学	必修	1											
保健環境論	必修	1											
文章表現論	必修	1											
基礎物理学 II	必修	1											
基礎数学 II	必修	1											
薬史学	必修	1											
分析化学 I	必修	1											
有機化学 I	必修	1											
生化学 II	必修	1											
細胞生物学	必修	1											
薬理学 I	必修	1											
薬事関係法規・制度 I	必修	0.5											
ヒューマニズム I	必修	0.5											
基礎生物学実習	必修	0.5											
早期臨床体験	必修	0.5											
有機化学実習 I	必修	0.5											
現代日本史	選必	1											
国際関係論	選必	1											
自己表現論	選必	1											
民俗学	選必	1											
経済学	選必	1											
スポーツ科学	選必	1											
ドイツ語 I a	選択	2											
ドイツ語 I b	選択	2											
中国語 I a	選択	2											
中国語 I b	選択	2											
フランス語 I a	選択	2											
フランス語 I b	選択	2											
初等数学演習	選択	0.5											
スポーツ実習 I	選択	1											
人間と生命	選択	1											
データサイエンス実践入門	選択	2											
スポーツ実習 II	選択	1											
英語 II a	必修			2									
英語 II b	必修			2									
基礎物理学 III	必修			1									

【令和7年度3年次課程表（2023年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
地域医療	必修			0.5									
分析化学Ⅱ	必修			1									
構造化学	必修			1									
物理化学Ⅰ	必修			1									
有機化学Ⅱ	必修			1									
生化学Ⅲ	必修			1									
人体生理学Ⅰ	必修			1									
微生物学	必修			1									
分子生物学Ⅰ	必修			1									
薬理学Ⅱ	必修			1									
プレゼンテーション	必修			1									
分析化学実習	必修			1									
有機化学実習Ⅱ	必修			1									
物理化学Ⅱ	必修				1								
有機化学Ⅲ	必修				1								
有機構造解析学	必修				1								
人体生理学Ⅱ	必修				1								
病原微生物学	必修				1								
分子生物学Ⅱ	必修				1								
免疫学Ⅰ	必修				1								
薬理学Ⅲ	必修				1								
製剤学Ⅰ	必修				1								
薬物動態学Ⅰ	必修				1								
生物統計学	必修				1								
総合科学演習	必修				1								
ヒューマニズムⅡ	必修				0.5								
物理化学実習	必修				1								
微生物学実習	必修				1								
生化学実習	必修				0.5								
分子生物学・免疫学実習	必修				0.5								
英会話	選択			2		2							
分析化学Ⅲ	必修					1							
放射薬品学	必修					1							
天然物化学	必修					1							
有機化学Ⅳ	必修					1							
人体生理学Ⅲ	必修					1							
免疫学Ⅱ	必修					1							
環境Ⅰ	必修					2							
薬理学Ⅳ	必修					1							
製剤学Ⅱ	必修					1							
薬物動態学Ⅱ	必修					1							
化学療法学	必修					1							
症候学	必修					1							
病態検査学	必修					1							
医薬品合成化学Ⅰ	必修					1							
生薬学実習	必修					1							
衛生薬学実習	必修					1							
薬理学実習	必修					1.5							
薬学機器分析学	必修						0.5						
医薬品合成化学Ⅱ	必修						1						
環境Ⅱ	必修						1						
健康Ⅰ	必修						1						

【令和7年度3年次課程表（2023年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
薬理学 V	必修						1						
漢方薬学	必修						1						
製剤学 III	必修						1						
薬物動態学 III	必修						1						
分子腫瘍学	必修						0.5						
薬物治療学 I	必修						1						
薬物治療学 II	必修						1						
薬物治療学 III	必修						1						
医療情報 I	必修						1						
生物有機化学	必修						1						
ヒューマニズム III	必修						0.5						
製剤学実習	必修						1						
薬物動態学実習	必修						1						
薬剤師のためのやさしい英会話	選択					1	1	1	1				
生体分子解析学	選択						1						
医薬品開発 I	選択						1						
放射薬品学実習	選択						0.5						
薬事関係法規・制度 II	必修							2					
健康 II	必修							1					
健康 III	必修							1					
薬物治療学 IV	必修							1					
薬物治療学 V	必修							1					
薬物治療学 VI	必修							1					
薬物治療学 VII	必修							1					
臨床漢方治療学	必修							1					
医療情報 II	必修							1					
医療情報 III	必修							1					
臨床医学総論 I	必修							1					
医薬品化学	必修							1					
医薬品安全性学	必修							0.5					
ヒューマニズム IV	必修							0.5					
薬学演習 I	必修							1					
病態検査学実習	必修							0.5					
プレ実務実習 I (調剤)	必修							1					
プレ実務実習 I (医薬品管理・患者応対)	必修							0.5					
社会への招待 I	必修							0.5					
薬局管理学	必修								1				
感染症学	必修								1				
臨床腫瘍学	必修								0.5				
植物療法学	必修								1				
健康 IV	必修								1				
一般用医薬品学	必修								1				
先端医療薬学	必修								1				
実践薬物治療学	必修								1				
高齢者医療	必修								0.5				
臨床医学総論 II	必修								1				
臨床衛生学	必修								1				
薬物治療学演習	必修								0.5				
薬学演習 II	必修								2				
プレ実務実習 II (実践薬学)	必修								2.5				
プレ実務実習 II (医療情報)	必修								1				
プレ実務実習 II (総合演習)	必修								1				

【令和7年度3年次課程表（2023年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
生命科学特別講義	選必							0.5					
社会薬学特別講義	選必							0.5					
薬理学VI	選択							1					
実用医療英語	選択							1					
医用工学概論	選択							1					
看護学	選択							1					
形態機能学総論	選択							1					
臨床心理学	選択							1					
実用薬学英語	選択							1					
チーム医療演習	選択							1					
生命科学	選択								1				
病院実習	必修									10			
薬局実習	必修									10			
卒業研究I	必修									8			
社会への招待IIa	選必									0.5			
社会への招待IIb	選必									0.5			
社会への招待IIc	選必									0.5			
社会への招待IId	選必									0.5			
医薬品開発II	選択									1			
人体解剖学	選択									0.5			
臨床栄養学	選択									0.5			
海外実務実習	選択									2			
臨床薬学総論	必修											1	
処方設計管理学	必修											1	
薬学総合演習I	必修											2	
薬学総合演習II	必修												4
薬学総合講義I	選必											1	
薬学総合講義II	選必											1	
卒業研究IIa	選必											4	
卒業研究IIb	選必											2	
環境学総論I	選択											0.5	
環境学総論II	選択											0.5	
化粧品学	選択											0.5	
レギュラトリーサイエンス	選択											0.5	
薬剤経済	選択											0.5	
先端応用薬学総論I	選択											0.5	
先端応用薬学総論II	選択											0.5	
先端応用薬学総論III	選択											0.5	
先端応用薬学総論IV	選択											0.5	
先端応用薬学総論V	選択											0.5	
先端応用薬学総論VI	選択											0.5	
社会薬学総合演習	選択												0.5
必修		30.5		33		34		34.5		28		8	
選択必修		2						0.5		0.5		4	
選択		11単位以上											
合計		186単位以上											

【令和7年度4年次課程表（2022年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語 I a	必修	2											
英語 I b	必修	2											
法学	必修	1											
倫理哲学	必修	1											
基礎物理学 I	必修	1											
基礎化学	必修	1											
基礎生物学	必修	1											
基礎数学 I	必修	1											
薬学入門	必修	1											
コミュニケーション	必修	0.5											
生薬学	必修	1											
生化学 I	必修	1											
無機化学	必修	1											
初等物理学演習	必修	1											
初等化学演習	必修	0.5											
コンピュータ入門	必修	1											
心理学	必修	1											
保健環境論	必修	1											
文章表現論	必修	1											
基礎物理学 II	必修	1											
基礎数学 II	必修	1											
薬史学	必修	1											
分析化学 I	必修	1											
有機化学 I	必修	1											
生化学 II	必修	1											
細胞生物学	必修	1											
薬理学 I	必修	1											
薬事関係法規・制度 I	必修	0.5											
ヒューマニズム I	必修	0.5											
基礎生物学実習	必修	0.5											
早期臨床体験	必修	0.5											
有機化学実習 I	必修	0.5											
現代日本史	選必	1											
国際関係論	選必	1											
自己表現論	選必	1											
民俗学	選必	1											
経済学	選必	1											
スポーツ科学	選必	1											
ドイツ語 I a	選択	2											
ドイツ語 I b	選択	2											
中国語 I a	選択	2											
中国語 I b	選択	2											
フランス語 I a	選択	2											
フランス語 I b	選択	2											
初等数学演習	選択	0.5											
スポーツ実習 I	選択	1											
人間と生命	選択	1											
データサイエンス実践入門	選択	2											
スポーツ実習 II	選択	1											
英語 II a	必修			2									
英語 II b	必修			2									
基礎物理学 III	必修			1									

【令和7年度4年次課程表（2022年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
地域医療	必修			0.5									
分析化学Ⅱ	必修			1									
構造化学	必修			1									
物理化学Ⅰ	必修			1									
有機化学Ⅱ	必修			1									
生化学Ⅲ	必修			1									
人体生理学Ⅰ	必修			1									
微生物学	必修			1									
分子生物学Ⅰ	必修			1									
薬理学Ⅱ	必修			1									
プレゼンテーション	必修			1									
分析化学実習	必修			1									
有機化学実習Ⅱ	必修			1									
物理化学Ⅱ	必修				1								
有機化学Ⅲ	必修				1								
有機構造解析学	必修				1								
人体生理学Ⅱ	必修				1								
病原微生物学	必修				1								
分子生物学Ⅱ	必修				1								
免疫学Ⅰ	必修				1								
薬理学Ⅲ	必修				1								
製剤学Ⅰ	必修				1								
薬物動態学Ⅰ	必修				1								
生物統計学	必修				1								
総合科学演習	必修				1								
ヒューマニズムⅡ	必修				0.5								
物理化学実習	必修				1								
微生物学実習	必修				1								
生化学実習	必修				0.5								
分子生物学・免疫学実習	必修				0.5								
英会話	選択			2		2							
分析化学Ⅲ	必修					1							
放射薬品学	必修					1							
天然物化学	必修					1							
有機化学Ⅳ	必修					1							
人体生理学Ⅲ	必修					1							
免疫学Ⅱ	必修					1							
環境Ⅰ	必修					2							
薬理学Ⅳ	必修					1							
製剤学Ⅱ	必修					1							
薬物動態学Ⅱ	必修					1							
化学療法学	必修					1							
症候学	必修					1							
病態検査学	必修					1							
医薬品合成化学Ⅰ	必修					1							
生薬学実習	必修					1							
衛生薬学実習	必修					1							
薬理学実習	必修					1.5							
薬学機器分析学	必修						0.5						
医薬品合成化学Ⅱ	必修						1						
環境Ⅱ	必修						1						
健康Ⅰ	必修						1						

【令和7年度4年次課程表（2022年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
薬理学 V	必修						1						
漢方薬学	必修						1						
製剤学 III	必修						1						
薬物動態学 III	必修						1						
分子腫瘍学	必修						0.5						
薬物治療学 I	必修						1						
薬物治療学 II	必修						1						
薬物治療学 III	必修						1						
医療情報 I	必修						1						
生物有機化学	必修						1						
ヒューマニズム III	必修						0.5						
製剤学実習	必修						1						
薬物動態学実習	必修						1						
薬剤師のためのやさしい英会話	選択					1	1	1	1				
生体分子解析学	選択						1						
医薬品開発 I	選択						1						
放射薬品学実習	選択						0.5						
薬事関係法規・制度 II	必修							2					
健康 II	必修							1					
健康 III	必修							1					
薬物治療学 IV	必修							1					
薬物治療学 V	必修							1					
薬物治療学 VI	必修							1					
薬物治療学 VII	必修							1					
臨床漢方治療学	必修							1					
医療情報 II	必修							1					
医療情報 III	必修							1					
臨床医学総論 I	必修							1					
医薬品化学	必修							1					
医薬品安全性学	必修							0.5					
ヒューマニズム IV	必修							0.5					
薬学演習 I	必修							1					
病態検査学実習	必修							0.5					
プレ実務実習 I (調剤)	必修							1					
プレ実務実習 I (医薬品管理・患者応対)	必修							0.5					
薬局管理学	必修								1				
感染症学	必修								1				
臨床腫瘍学	必修								0.5				
植物療法学	必修								1				
健康 IV	必修								1				
一般用医薬品学	必修								1				
先端医療薬学	必修								1				
実践薬物治療学	必修								1				
高齢者医療	必修								0.5				
臨床医学総論 II	必修								1				
臨床衛生学	必修								1				
薬物治療学演習	必修								0.5				
薬学演習 II	必修								2				
プレ実務実習 II (実践薬学)	必修								2.5				
プレ実務実習 II (医療情報)	必修								1				
プレ実務実習 II (総合演習)	必修								1				
生命科学特別講義	選必								0.5				

【令和7年度4年次課程表（2022年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
社会薬学特別講義	選必							0.5					
薬理学VI	選択							1					
実用医療英語	選択							1					
医用工学概論	選択							1					
看護学	選択							1					
形態機能学総論	選択							1					
臨床心理学	選択							1					
実用薬学英語	選択							1					
チーム医療演習	選択							1					
生命科学	選択								1				
病院実習	必修									10			
薬局実習	必修									10			
卒業研究I	必修									8			
社会への招待I	必修							0.5					
社会への招待IIa	選必									0.5			
社会への招待IIb	選必									0.5			
社会への招待IIc	選必									0.5			
社会への招待IId	選必									0.5			
医薬品開発II	選択									1			
人体解剖学	選択									0.5			
臨床栄養学	選択									0.5			
海外実務実習	選択									2			
臨床薬学総論	必修											1	
処方設計管理学	必修											1	
薬学総合演習I	必修											2	
薬学総合演習II	必修												4
薬学総合講義I	選必											1	
薬学総合講義II	選必											1	
卒業研究IIa	選必											4	
卒業研究IIb	選必											2	
環境学総論I	選択											0.5	
環境学総論II	選択											0.5	
化粧品学	選択											0.5	
レギュラトリーサイエンス	選択											0.5	
薬剤経済	選択											0.5	
先端応用薬学総論I	選択											0.5	
先端応用薬学総論II	選択											0.5	
先端応用薬学総論III	選択											0.5	
先端応用薬学総論IV	選択											0.5	
先端応用薬学総論V	選択											0.5	
先端応用薬学総論VI	選択											0.5	
社会薬学総合演習	選択												0.5
必修		30.5		33		34		34.5		28		8	
選択必修		2						0.5		0.5		4	
選択		11単位以上											
合計		186単位以上											

【令和7年度5年次課程表（2021年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語 I a	必修	2											
英語 I b	必修	2											
法学	必修	1											
倫理哲学	必修	1											
基礎物理学 I	必修	1											
基礎化学	必修	1											
基礎生物学	必修	1											
基礎数学 I	必修	1											
薬学入門	必修	1											
コミュニケーション	必修	0.5											
生薬学	必修	1											
生化学 I	必修	1											
初等物理学演習	必修	1											
初等化学演習	必修	0.5											
コンピュータ入門	必修	1											
心理学	必修		1										
保健環境論	必修		1										
文章表現論	必修		1										
基礎物理学 II	必修		1										
無機化学	必修	1											
基礎数学 II	必修		1										
薬史学	必修		1										
分析化学 I	必修		1										
有機化学 I	必修		1										
生化学 II	必修		1										
細胞生物学	必修		1										
薬理学 I	必修		1										
薬事関係法規・制度 I	必修		0.5										
ヒューマニズム I	必修		0.5										
基礎生物学実習	必修		0.5										
早期臨床体験	必修		0.5										
有機化学実習 I	必修		0.5										
現代日本史	選必	1											
国際関係論	選必	1											
自己表現論	選必	1											
民俗学	選必		1										
経済学	選必		1										
スポーツ科学	選必		1										
ドイツ語 I a	選択	2											
ドイツ語 I b	選択	2											
中国語 I a	選択	2											
中国語 I b	選択	2											
フランス語 I a	選択	2											
フランス語 I b	選択	2											
初等数学演習	選択	0.5											
スポーツ実習 I	選択	1											
人間と生命	選択	1											
スポーツ実習 II	選択		1										
英語 II a	必修			2									
英語 II b	必修			2									
基礎物理学 III	必修			1									
地域医療	必修			0.5									

【令和7年度5年次課程表（2021年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
分析化学Ⅱ	必修			1									
構造化学	必修			1									
物理化学Ⅰ	必修			1									
有機化学Ⅱ	必修			1									
生化学Ⅲ	必修			1									
人体生理学Ⅰ	必修			1									
微生物学	必修			1									
分子生物学Ⅰ	必修			1									
薬理学Ⅱ	必修			1									
プレゼンテーション	必修			1									
分析化学実習	必修			1									
有機化学実習Ⅱ	必修			1									
物理化学Ⅱ	必修				1								
有機化学Ⅲ	必修				1								
有機構造解析学	必修				1								
人体生理学Ⅱ	必修				1								
病原微生物学	必修				1								
分子生物学Ⅱ	必修				1								
免疫学Ⅰ	必修				1								
薬理学Ⅲ	必修				1								
製剤学Ⅰ	必修				1								
薬物動態学Ⅰ	必修				1								
生物統計学	必修				1								
総合科学演習	必修				1								
ヒューマニズムⅡ	必修				0.5								
物理化学実習	必修				1								
微生物学実習	必修				1								
生化学実習	必修				0.5								
分子生物学・免疫学実習	必修				0.5								
英会話	選択				2		2						
分析化学Ⅲ	必修					1							
放射薬品学	必修					1							
天然物化学	必修					1							
有機化学Ⅳ	必修					1							
生物有機化学	必修						1						
人体生理学Ⅲ	必修					1							
免疫学Ⅱ	必修					1							
環境Ⅰ	必修						2						
薬理学Ⅳ	必修					1							
製剤学Ⅱ	必修					1							
薬物動態学Ⅱ	必修					1							
化学療法学	必修					1							
症候学	必修					1							
病態検査学	必修					1							
生薬学実習	必修					1							
衛生薬学実習	必修					1							
薬理学実習	必修						1.5						
薬学機器分析学	必修							0.5					
医薬品合成化学Ⅰ	必修					1							
医薬品合成化学Ⅱ	必修						1						
環境Ⅱ	必修							1					
健康Ⅰ	必修								1				

【令和7年度5年次課程表（2021年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
薬理学 V	必修						1						
漢方薬学	必修						1						
製剤学 III	必修						1						
薬物動態学 III	必修						1						
分子腫瘍学	必修						0.5						
薬物治療学 I	必修						1						
薬物治療学 II	必修						1						
薬物治療学 III	必修						1						
医療情報 I	必修						1						
ヒューマニズム III	必修						0.5						
製剤学実習	必修						1						
薬物動態学実習	必修						1						
薬剤師のためのやさしい英会話	選択					1	1	1	1				
生体分子解析学	選択						1						
医薬品開発 I	選択						1						
放射薬品学実習	選択						0.5						
薬事関係法規・制度 II	必修							2					
健康 II	必修							1					
健康 III	必修							1					
薬物治療学 IV	必修							1					
薬物治療学 V	必修							1					
薬物治療学 VI	必修							1					
薬物治療学 VII	必修							1					
臨床漢方治療学	必修							1					
医療情報 II	必修							1					
医療情報 III	必修							1					
臨床医学総論 I	必修							1					
医薬品化学	必修							1					
ヒューマニズム IV	必修							0.5					
薬学演習 I	必修							1					
病態検査学実習	必修							0.5					
プレ実務実習 I (調剤)	必修							1					
プレ実務実習 I (医薬品管理・患者対応)	必修							0.5					
薬局管理学	必修								1				
感染症学	必修								1				
臨床腫瘍学	必修								0.5				
植物療法学	必修								1				
健康 IV	必修								1				
医薬品安全性学	必修							0.5					
一般用医薬品学	必修								1				
先端医療薬学	必修								1				
実践薬物治療学	必修								1				
高齢者医療	必修								0.5				
臨床医学総論 II	必修								1				
臨床衛生学	必修								1				
薬物治療学演習	必修								0.5				
薬学演習 II	必修								2				
プレ実務実習 II (実践薬学)	必修								2.5				
プレ実務実習 II (医療情報)	必修								1				
プレ実務実習 II (総合演習)	必修								1				
生命科学特別講義	選必								0.5				
社会薬学特別講義	選必								0.5				

【令和7年度5年次課程表（2021年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
薬理学 VI	選択							1					
実用医療英語	選択							1					
医用工学概論	選択							1					
看護学	選択							1					
形態機能学総論	選択							1					
臨床心理学	選択							1					
実用薬学英語	選択							1					
チーム医療演習	選択							1					
生命科学	選択								1				
病院実習	必修									10			
薬局実習	必修									10			
卒業研究 I	必修									8			
社会への招待 I	必修							0.5					
社会への招待 II a	選必									0.5			
社会への招待 II b	選必									0.5			
社会への招待 II c	選必									0.5			
社会への招待 II d	選必									0.5			
医薬品開発 II	選択									1			
人体解剖学	選択									0.5			
臨床栄養学	選択									0.5			
海外実務実習	選択									2			
臨床薬学総論	必修											1	
処方設計管理学	必修											1	
薬学総合演習 I	必修											2	
薬学総合演習 II	必修												4
薬学総合講義 I	選必											1	
薬学総合講義 II	選必											1	
卒業研究 II a	選必											4	
卒業研究 II b	選必											2	
環境学総論 I	選択											0.5	
環境学総論 II	選択											0.5	
香粧品学	選択											0.5	
レギュラトリーサイエンス	選択											0.5	
薬剤経済	選択											0.5	
先端応用薬学総論 I	選択											0.5	
先端応用薬学総論 II	選択											0.5	
先端応用薬学総論 III	選択											0.5	
先端応用薬学総論 IV	選択											0.5	
先端応用薬学総論 V	選択											0.5	
先端応用薬学総論 VI	選択											0.5	
社会薬学総合演習	選択												0.5
必修		30.5		33		34		34.5		28		8	
選必		2						0.5		0.5		4	
選択		11単位以上											
合計		186単位以上											

【令和7年度6年次課程表（2020年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語 I a	必修	2											
英語 I b	必修	2											
法学	必修	1											
倫理哲学	必修	1											
基礎物理学 I	必修	1											
基礎化学	必修	1											
基礎生物学	必修	1											
基礎数学 I	必修	1											
薬学入門	必修	1											
コミュニケーション	必修	0.5											
生薬学	必修	1											
生化学 I	必修	1											
初等物理学演習	必修	1											
初等化学演習	必修	0.5											
コンピュータ入門	必修	1											
心理学	必修		1										
保健環境論	必修		1										
文章表現論	必修		1										
基礎物理学 II	必修		1										
無機化学	必修	1											
基礎数学 II	必修		1										
薬史学	必修		1										
分析化学 I	必修		1										
有機化学 I	必修		1										
生化学 II	必修		1										
細胞生物学	必修		1										
薬理学 I	必修		1										
薬事関係法規・制度 I	必修		0.5										
ヒューマニズム I	必修		0.5										
基礎生物学実習	必修		0.5										
早期臨床体験	必修		0.5										
有機化学実習 I	必修		0.5										
現代日本史	選必	1											
国際関係論	選必	1											
自己表現論	選必	1											
民俗学	選必		1										
経済学	選必		1										
スポーツ科学	選必		1										
ドイツ語 I a	選択	2											
ドイツ語 I b	選択	2											
中国語 I a	選択	2											
中国語 I b	選択	2											
フランス語 I a	選択	2											
フランス語 I b	選択	2											
初等数学演習	選択	0.5											
スポーツ実習 I	選択	1											
人間と生命	選択	1											
スポーツ実習 II	選択		1										
英語 II a	必修			2									
英語 II b	必修			2									
基礎物理学 III	必修			1									
地域医療	必修			0.5									

【令和7年度6年次課程表（2020年入学）】

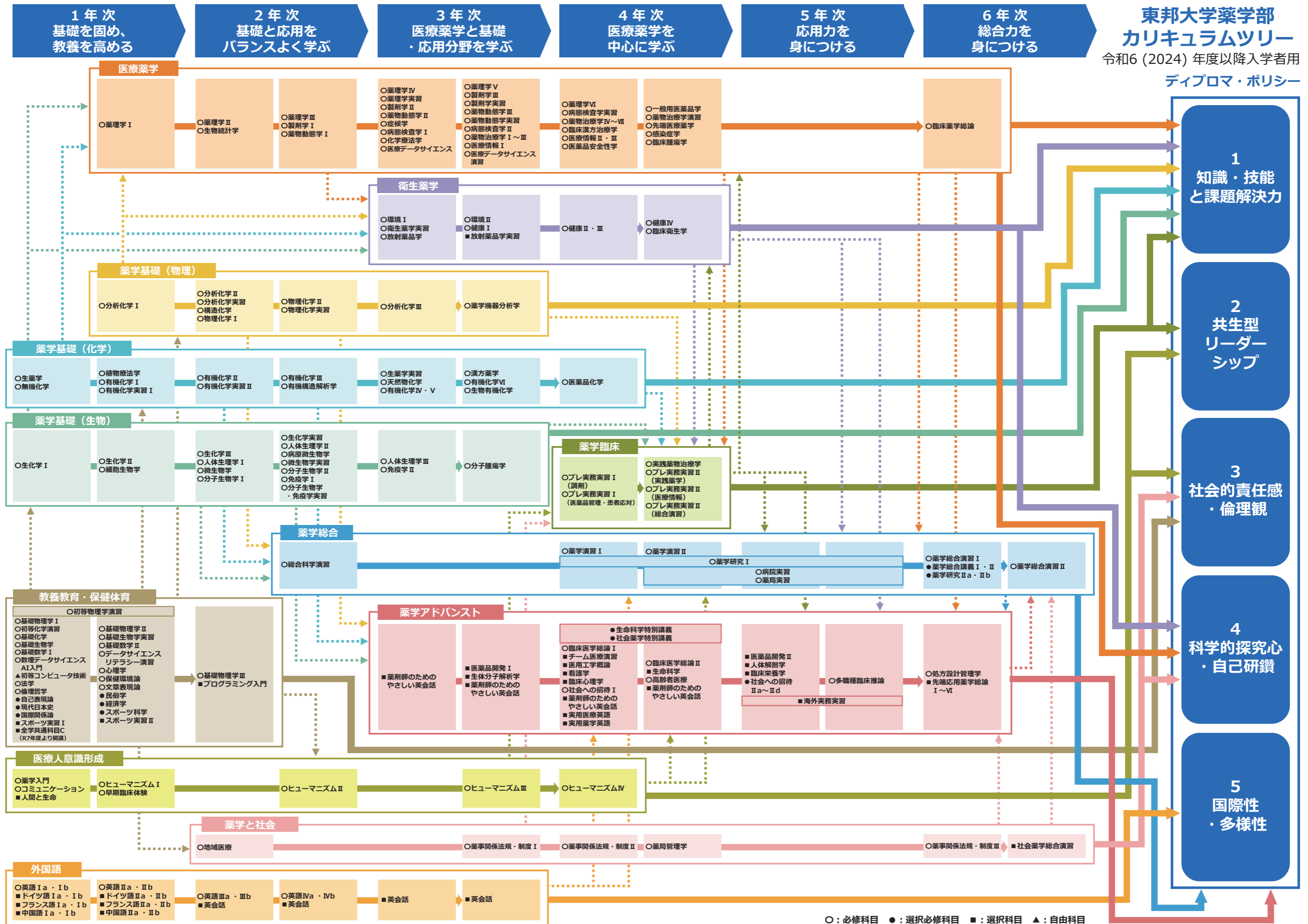
	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
分析化学Ⅱ	必修			1									
構造化学	必修			1									
物理化学Ⅰ	必修			1									
有機化学Ⅱ	必修			1									
生化学Ⅲ	必修			1									
人体生理学Ⅰ	必修			1									
微生物学	必修			1									
分子生物学Ⅰ	必修			1									
薬理学Ⅱ	必修			1									
プレゼンテーション	必修			1									
分析化学実習	必修			1									
有機化学実習Ⅱ	必修			1									
物理化学Ⅱ	必修				1								
有機化学Ⅲ	必修				1								
有機構造解析学	必修				1								
人体生理学Ⅱ	必修				1								
病原微生物学	必修				1								
分子生物学Ⅱ	必修				1								
免疫学Ⅰ	必修				1								
薬理学Ⅲ	必修				1								
製剤学Ⅰ	必修				1								
薬物動態学Ⅰ	必修				1								
生物統計学	必修				1								
総合科学演習	必修				1								
ヒューマニズムⅡ	必修				0.5								
物理化学実習	必修				1								
微生物学実習	必修				1								
生化学実習	必修				0.5								
分子生物学・免疫学実習	必修				0.5								
英会話	選択				2		2						
分析化学Ⅲ	必修					1							
放射薬品学	必修					1							
天然物化学	必修					1							
有機化学Ⅳ	必修					1							
生物有機化学	必修						1						
人体生理学Ⅲ	必修					1							
免疫学Ⅱ	必修					1							
環境Ⅰ	必修						2						
薬理学Ⅳ	必修					1							
製剤学Ⅱ	必修					1							
薬物動態学Ⅱ	必修					1							
化学療法学	必修					1							
症候学	必修					1							
病態検査学	必修					1							
生薬学実習	必修					1							
衛生薬学実習	必修					1							
薬理学実習	必修						1.5						
薬学機器分析学	必修							0.5					
医薬品合成化学Ⅰ	必修					1							
医薬品合成化学Ⅱ	必修						1						
医薬品化学	必修							1					
環境Ⅱ	必修							1					

【令和7年度6年次課程表（2020年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
健康 I	必修						1						
薬理学 V	必修						1						
漢方薬学	必修						1						
製剤学 III	必修						1						
薬物動態学 III	必修						1						
分子腫瘍学	必修						0.5						
薬物治療学 I	必修						1						
薬物治療学 II	必修						1						
薬物治療学 III	必修						1						
ヒューマニズム III	必修						0.5						
製剤学実習	必修						1						
薬物動態学実習	必修						1						
薬剤師のためのやさしい英会話	選択					1	1	1	1				
生体分子解析学	選択						1						
医薬品開発 I	選択						1						
放射薬品学実習	選択						0.5						
薬事関係法規・制度 II	必修							2					
健康 II	必修							1					
健康 III	必修							1					
薬物治療学 IV	必修							1					
薬物治療学 V	必修							1					
薬物治療学 VI	必修							1					
薬物治療学 VII	必修							1					
臨床漢方治療学	必修							1					
医療情報 I	必修						1						
医療情報 II	必修							1					
医療情報 III	必修							1					
臨床医学総論 I	必修							1					
ヒューマニズム IV	必修							0.5					
薬学演習 I	必修							1					
病態検査学実習	必修							0.5					
プレ実務実習 I (調剤)	必修							1					
プレ実務実習 I (医薬品管理・患者対応)	必修							0.5					
薬局管理学	必修								1				
感染症学	必修								1				
臨床腫瘍学	必修								0.5				
植物療法学	必修								1				
健康 IV	必修								1				
医薬品安全性学	必修							0.5					
一般用医薬品学	必修								1				
先端医療薬学	必修								1				
実践薬物治療学	必修								1				
高齢者医療	必修								0.5				
臨床医学総論 II	必修								1				
臨床衛生学	必修								1				
薬物治療学演習	必修								0.5				
薬学演習 II	必修								2				
プレ実務実習 II (実践薬学)	必修								2.5				
プレ実務実習 II (医療情報)	必修								1				
プレ実務実習 II (総合演習)	必修								1				
生命科学特別講義	選必								0.5				
社会薬学特別講義	選必								0.5				

【令和7年度6年次課程表（2020年入学）】

	必/選 区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
薬理学 VI	選択							1					
実用医療英語	選択							1					
医用工学概論	選択							1					
看護学	選択							1					
形態機能学総論	選択							1					
臨床心理学	選択							1					
実用薬学英語	選択							1					
チーム医療演習	選択							1					
生命科学	選択								1				
病院実習	必修									10			
薬局実習	必修									10			
卒業研究 I	必修									8			
社会への招待 I	必修							0.5					
社会への招待 II a	選必									0.5			
社会への招待 II b	選必									0.5			
社会への招待 II c	選必									0.5			
社会への招待 II d	選必									0.5			
医薬品開発 II	選択									1			
人体解剖学	選択									0.5			
臨床栄養学	選択									0.5			
海外実務実習	選択									2			
臨床薬学総論	必修											1	
処方設計管理学	必修											1	
薬学総合演習 I	必修											2	
薬学総合演習 II	必修												4
薬学総合講義 I	選必											1	
薬学総合講義 II	選必											1	
卒業研究 II a	選必											4	
卒業研究 II b	選必											2	
環境学総論 I	選択											0.5	
環境学総論 II	選択											0.5	
香粧品学	選択											0.5	
レギュラトリーサイエンス	選択											0.5	
薬剤経済	選択											0.5	
先端応用薬学総論 I	選択											0.5	
先端応用薬学総論 II	選択											0.5	
先端応用薬学総論 III	選択											0.5	
先端応用薬学総論 IV	選択											0.5	
先端応用薬学総論 V	選択											0.5	
先端応用薬学総論 VI	選択											0.5	
社会薬学総合演習	選択												0.5
必修		30.5		33		34		34.5		28		8	
選必		2						0.5		0.5		4	
選択		11単位以上											
合計		186単位以上											



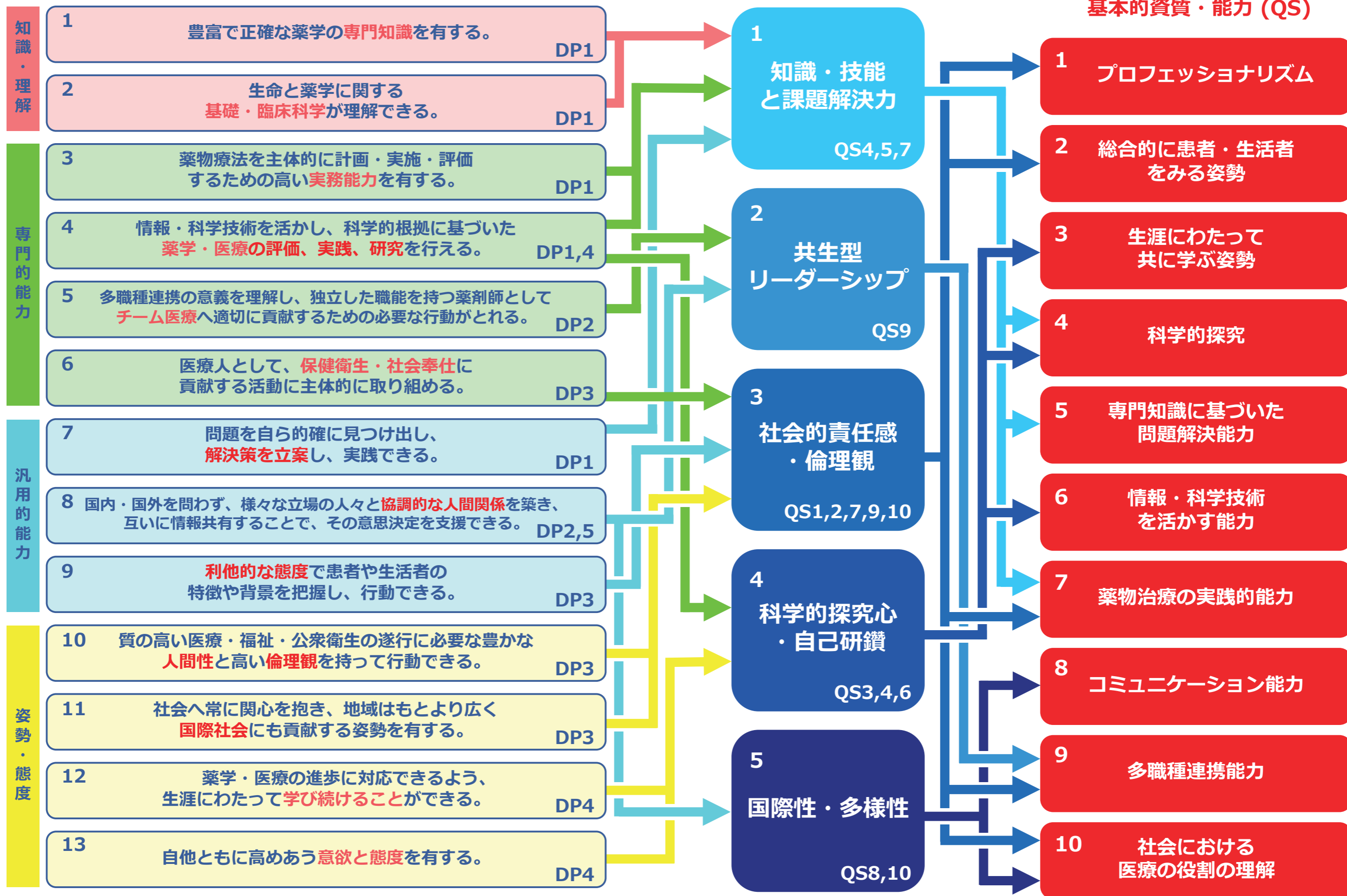
アセスメントプラン（令和6年度以降入学用）

能力別分類	AsP番号	DP番号	現行DPを分解・整理した具体的な能力	学年別到達目標						
				6年	5年	4年	3年	2年	1年	
知識・理解	1	DP1	豊富で正確な薬学の専門知識を有する。	様々な症例に対して、基礎の知識と実際の医療現場で使用されている薬物療法との関連性を説明できる。		基礎の知識と基本的な疾患や薬物療法との関連性を説明できる。	疾患の成り立ちを理解し、疾患と薬物の関わりを説明できる。	生体反応と薬物の生体内での作用について説明できる。	薬や化学物質と生命に関する基礎的な事項について説明できる。	
	2	DP1	生命と薬学に関する基礎・臨床科学が理解できる。	実際の医療現場で使用される医薬品・医療機器がどのような薬学の基礎の上に成り立っているかを理解し、説明ができる。						薬学の基礎となる事項と臨床に関する内容の関連を理解し、説明ができる。
専門的能力（分野固有の能力）	3	DP1	薬物療法を主体的に計画・実施・評価するための高い実務能力を有する。	薬学的知識を生かし、様々な症例に対して適切な薬物療法の計画・実施・評価を主体的に行える。	主要な疾患に対し、医療現場において、患者1人1人に適した薬物療法を提案することができる。	主要な疾患の特徴を理解し、疾患と薬物の関わりを理解するとともに、患者に適した薬物療法を提案できる。	薬物療法を実践する上で必要な疾患の成り立ちを理解し、疾患と薬物の関わりを説明できる。	薬物療法を実践する上で必要な生体反応と薬物の生体内での作用について説明できる。	薬や化学物質と生命に関する基礎的な事項について説明できる。	
	4	DP1 DP4	情報・科学技術を活かし、科学的根拠に基づいた薬学・医療の評価、実践、研究を行える。	疾患や病態、医薬品における課題を見出し、その解決に向けた情報・科学技術を活用して、研究を行うことができる。	疾患や病態、医薬品に関する科学的な情報を適切に収集、評価、比較し、臨床の場で活用することができる。	薬学の基礎と臨床の結びつきを理解し、適切な情報源や研究デザインを検討した上で、臨床を模した実験・実習の場で正しく活用することができる。	薬学の基礎と臨床の結びつきを理解し、適切な情報源を検討して、実験・実習ができる。	実験の目的を理解し、与えられた課題の解決に向けて適切な情報を取り扱うことができる。	薬品や実験のために必要な器具・機器に関する情報やその性質を理解して、適切な取り扱いができる。	
	5	DP2	多職種連携の意義を理解し、独立した職能を持つ薬剤師としてチーム医療へ適切に貢献するための必要な行動がとれる。	独立した職能を持つ薬剤師として、自ら発見した研究課題や医療現場での問題点を解決し、その結果を適切に加工して、必要な医療従事者に正確に伝えることができる。	実際の医療現場において、多職種連携による患者中心の医療に積極的に参画することができ、他の専門職の役割と意義を理解し、必要な相手と情報を共有しながらより良い医療の検討や提案ができる。	医療現場における多職種連携の必要性、構成する人々の役割と意義を理解し、疑問点や問題点を相手に共有するための基本的な技能・態度を有している。	多職種連携の概念と、その一員としての薬剤師の役割が理解でき、他の医療従事者、患者や生活者の信念や価値観の違いを把握し、お互いの立場を尊重できる。	他の医療従事者の価値観や気持ちを考慮してコミュニケーションができ、問題解決に向けて他者とともに検討できる。	多職種連携でのコミュニケーションの重要性が理解できる。	
	6	DP3	医療人として、保健衛生・社会奉仕に貢献する活動に主体的に取り組める。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に常に興味を抱き、地域はもとより国際社会も含めた保健衛生・社会奉仕に貢献する活動に主体的に取り組める。		医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する活動に取り組める。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する責任を自覚できる。		医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する責任を自覚できる。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱くことができる。
汎用的能力	7	DP1	問題を自らの確に見つけ出し、解決策を立案し、実践できる。	自ら問題を的確に見つけ出して設定し、解決策を提案して解決に向けて実践できる。		自ら問題を的確に見つけ出して設定し、解決策へと導く必要な資料を収集し、解決策を提案できる。			与えられた問題について構成要素を把握し、提示された資料に基づいた解決策を選び出せる。	
	8	DP2 DP5	国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築き、互いに情報共有することで、その意思決定を支援できる。	独立した職能を持つ薬剤師としての責務を自覚し、医療関係者や患者との情報のやり取りを滞りなく行うことで、その意思決定を支援できる。	医療関係者や患者との情報のやり取りの大切さを理解し、丁寧かつ正確な情報交換を行う能力の向上に努めることができる。	臨床現場で求められる人間関係を理解し、その中で自分がどのように在るべきかを明示することができる。	薬学関係の職業においてどのような人間関係が求められるのかを理解すると共に、自分の対人基礎力の現状を分析することができる。	他者に対して、自分の考えを効果的に伝達することができる。	自分とは異なる他者の持つ多様な価値観を受容できると共に、外国人とも情報交換するための語学知識を有している。	
	9	DP3	利他的な態度で患者や生活者の特徴や背景を把握し、行動できる。	患者や生活者の特徴や背景を把握し、意思を尊重しながら、患者の利益を優先した行動がとれる。		患者や生活者の特徴、背景や意思を想像し、患者の気持ちに共感や配慮ができる。	患者や生活者の特徴、背景や意思について、学んだ知識と結びつけて考えることができる。	患者や生活者の特徴、背景や意思を想像できる。	患者や生活者の特徴、背景や意思を考える努力をしている。	
姿勢・態度	10	DP3	質の高い医療・福祉・公衆衛生の遂行に必要な豊かな人間性と高い倫理観を持って行動できる。	社会や医療の中での薬剤師の役割と使命を自覚し、責任を持って医療・福祉・公衆衛生に携わるための行動がとれる。		薬学の知識の応用とプレ実務実習を通じて、豊かな人間性と高い倫理観を醸成し、自分の責任を認識した行動がとれる。	薬学の基礎から応用を修得するとともに豊かな人間性と倫理観を醸成し、先を見据えた行動がとれる。		医療社会における薬剤師の役割と使命を学習し、与えられた役割をやり遂げられる。	
	11	DP3	社会へ常に興味を抱き、地域はもとより広く国際社会にも貢献する姿勢を有する。	地域社会や国際社会に常に興味を抱き、自ら専門的な情報を得るなどして、主体的に広く社会に貢献する態度・姿勢を有している。		地域社会や国際社会に関心を抱き、自ら情報を得るなどして、社会に貢献する態度・姿勢を有している。	地域社会や国際社会に関心を抱き、社会に貢献する態度・姿勢を有している。		地域社会や国際社会に関心を抱くことができる。	
	12	DP4	薬学・医療の進歩に対応できるよう、生涯にわたって学び続けることができる。	医療社会に貢献できる実践的能力の向上のために、広く社会に関心を抱き意欲的に学び続けている。	医療社会で薬剤師の責務を果たすために、社会に関心を抱き学び続けている。	薬剤師に必要な実践的能力を修得するため、学び続ける姿勢を有している。	薬学の専門知識の修得や研究遂行に必要な問題解決能力を向上させる意欲と姿勢を有している。	薬学・医療の進歩に興味を持ち、論理的に考える姿勢を養い、将来に向けた行動計画を実行している。	薬学生として学習に対する高い意欲を有し、将来に向けての現実的な行動計画が立てられる。	
	13	DP4	自他ともに高め合う意欲と態度を有する。	自他ともに高め合う意欲と態度を有している。	自らが学んだ知識や経験を他人と共有し、自他ともに高め合う姿勢を有している。	周囲と建設的に議論し意見をまとめ、互いを正当に評価し合える。	周囲の人々と考えの共有により刺激を与え合いアイデアを出しながら解決策を検討できる。	周囲の人々と協調的な姿勢を有し、目標に向かって取り組める。	周囲の人々と考えの共有ができる。	

アセスメントプラン (AsP)

ディプロマ・ポリシー (DP)

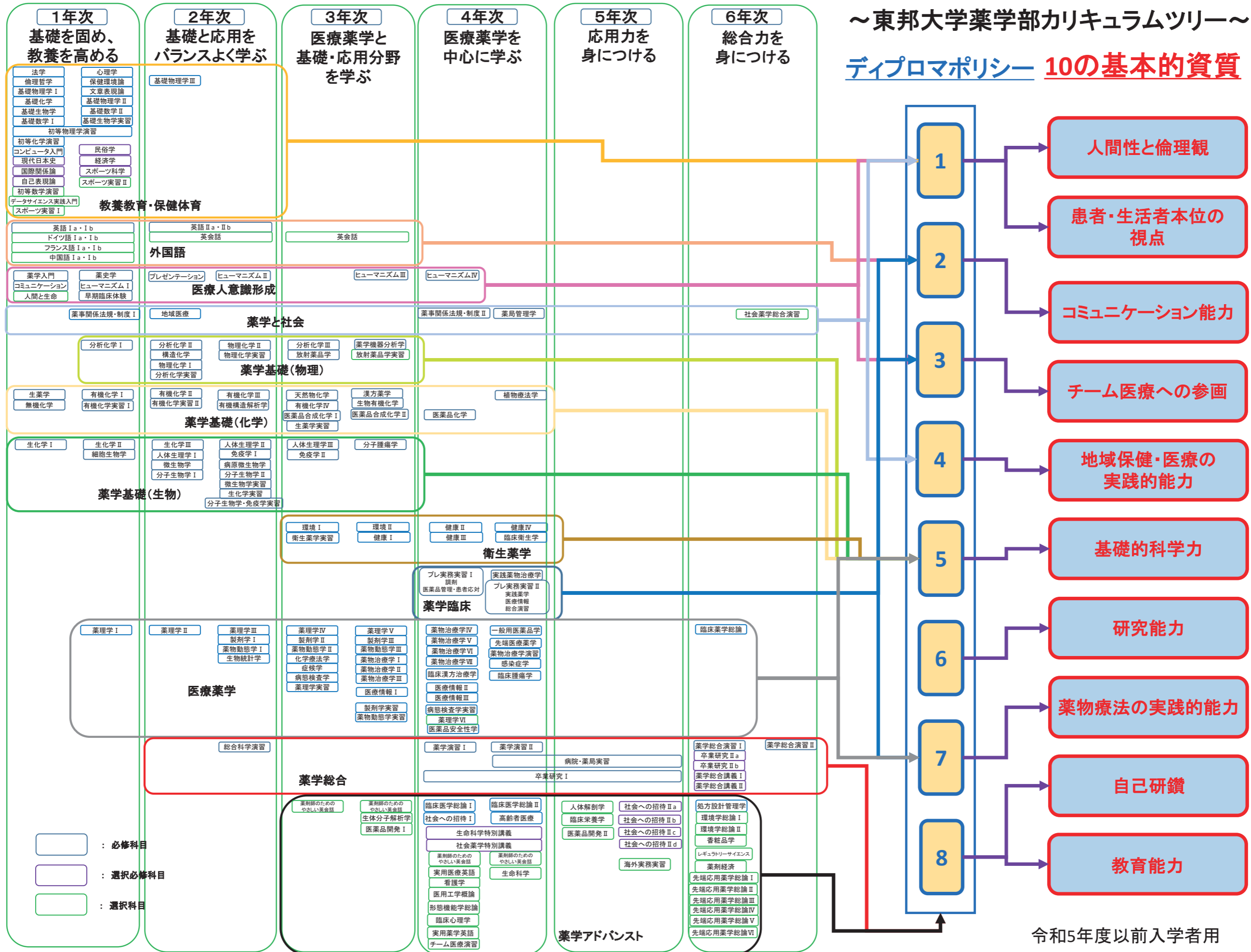
薬剤師として求められる
基本的資質・能力 (QS)



東邦大学薬学部薬学科カリキュラムマップ《令和5(2023)年度以前入学者用》

	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		ディプロマポリシー での関連項目番号
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
教養教育	法学 倫理哲学	心理学 保健環境論 文章表現論											1
	初等物理学演習		基礎物理学Ⅲ										
	基礎物理学Ⅰ	基礎物理学Ⅱ											
	初等化学演習												
	基礎化学												
	基礎生物学	基礎生物学実習											
	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ											
	コンピュータ入門												
	選必) 現代日本史	選必) 民俗学											
	選必) 自己表現論	選必) 経済学											
	選必) 国際関係論	選必) スポーツ科学											
	選) 初等数学演習												
	選) データサイエンス実践入門												
外国語	英語Ⅰa 英語Ⅰb		英語Ⅱa 英語Ⅱb										2
	選) ドイツ語Ⅰa		選) 英会話		選) 英会話								
	選) ドイツ語Ⅰb												
	選) 中国語Ⅰa												
	選) 中国語Ⅰb												
	選) フランス語Ⅰa												
	選) フランス語Ⅰb												
保健体育	選) スポーツ実習Ⅰ	選) スポーツ実習Ⅱ											1
医療人意識形成	薬学入門 コミュニケーション	薬史学											1, 2, 3
	選) 人間と生命	ヒューマニズムⅠ 早期臨床体験	プレゼンテーション	ヒューマニズムⅡ	ヒューマニズムⅢ	ヒューマニズムⅣ							
薬学と社会		薬事関係法規・制度Ⅰ											1, 4
			地域医療									選) 社会薬学総合演習	
							薬局管理学						
薬学基礎 (物理)		分析化学Ⅰ	分析化学Ⅱ 分析化学実習		分析化学Ⅲ	薬学機器分析学							5
			構造化学										
			物理化学Ⅰ	物理化学Ⅱ 物理化学実習									
					放射薬品学	選) 放射薬品学実習							
薬学基礎 (化学)	生薬学				生薬学実習	漢方薬学			植物療法学				5
	無機化学	有機化学Ⅰ 有機化学実習Ⅰ	有機化学Ⅱ 有機化学実習Ⅱ	有機化学Ⅲ 有機構造解析学	天然物化学	生物有機化学							
					医薬品合成化学Ⅰ	医薬品合成化学Ⅱ	医薬品化学						
薬学基礎 (生物)	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ 細胞生物学	生化学Ⅲ	生化学実習									5
			人体生理学Ⅰ	人体生理学Ⅱ	人体生理学Ⅲ								
			微生物学	病原微生物学 微生物学実習									
			分子生物学Ⅰ	分子生物学Ⅱ									
				免疫学Ⅰ	免疫学Ⅱ								
				分子生物学・免疫学実習	分子腫瘍学								
衛生薬学					環境Ⅰ	環境Ⅱ	健康Ⅱ・Ⅲ	健康Ⅳ					5
					衛生薬学実習	健康Ⅰ		臨床衛生学					

～東邦大学薬学部カリキュラムツリー～
ディプロマポリシー 10の基本的資質



アセスメントプラン(令和5年度以前入学者用)

能力別分類	DP番号	現行DPを分解・整理した具体的な能力	学年別到達目標					AsP番号	
			6年	5年	4年	3年	2年		1年
知識・理解	DP6	豊富で正確な薬学の専門知識を有する。	様々な症例に対して、実際の医療現場に必要な基礎・応用分野と薬物療法との関連性を説明できる。		基礎・応用分野と基本的な疾患や薬物療法との関連性を説明できる。	疾患の成り立ちを理解し、疾患と薬物の関わりを説明できる。	生体反応と薬物の生体内での作用について説明できる。	薬や化学物質と生命に関する基礎的な事項について説明できる。	1
	DP5 DP6	生命と薬学に関する基礎科学が理解できる。	臨床の場で使用されている機器・薬物がどのような薬学の基礎の上に成り立っているかを理解し、説明ができる。					薬学の基礎となる事項と臨床に関する内容の関連を理解し、説明ができる。	薬や化学物質と生命に関する基礎的な事項について説明できる。
専門的能力(分野固有の能力)	DP4	医療人として、保健衛生・社会奉仕に貢献する活動に主体的に取り組める。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に常に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する活動に主体的に取り組める。		医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する活動に取り組める。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する責任を自覚できる。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱き、保健衛生・社会奉仕に貢献する責任を自覚できる。	医療人として、保健衛生・社会奉仕に関心を抱くことができる。	3
	DP7	薬物療法に関する高い実務能力を有する。	様々な症例に対して対応できるように、薬学の基礎と症例を結びつけ、適切な薬物療法を目指すために、臨床現場での問題点を自ら指摘し解決できる。	主要な疾患に対し、実際の医療現場において、患者1人1人に適した薬物療法を提案することができる。	主要な疾患の特徴を理解し、疾患と薬物の関わりを理解するとともに、患者に見合った薬物療法を提案できる。	疾患の成り立ちを理解し、疾患と薬物の関わりを説明できる。	生体反応と薬物の生体内での作用について説明できる。	薬や化学物質と生命に関する基礎的な事項について説明できる。	4
	DP5	科学的根拠に基づいた薬学医療の実践、及びその評価を行える。	主要な疾患や薬物に関する科学的根拠に基づいた適切な情報を入手し、研究に応用できる。	主要な疾患や薬物に関する科学的根拠に基づいた適切な情報を入手し、臨床の場で応用できる。	薬学の基礎と臨床に関する内容の結び付きを理解して、臨床を模した実習の場で実践できる。	薬学の基礎と臨床に関する内容の結び付きを理解して実習できる。	実験の目的を理解して、適切な手法によりデータを取得して解析ができる。	薬品および実験器具の性質を理解して、適切な取扱いができる。	5
	DP3	チーム医療を適切に遂行するために必要な行動がとれる。	自ら発見した研究や臨床現場での問題点を解決し、その結果を必要な他者に相手の立場にあわせて正確に伝えられる。	実際の医療現場において、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画することができ、チーム医療における多職種の役割と意義を理解し、必要な職種と情報を共有し、患者中心により良い医療の検討や提案ができる。	医療現場における関連職種の連携の必要性を理解し、チーム医療における多職種のそれぞれの役割と意義を理解でき、多職種などに疑問点や問題点を共有するための基本的な技能や態度を有している。	チーム医療の概念とチーム医療の一員としての薬剤師の役割が理解でき、他の医療従事者、患者や生活者の信念や価値観の違いを把握し、それぞれの立場を尊重できる。	他者の価値観や気持ちを考慮してコミュニケーションができ、問題解決に向けて他者とともに解決策を検討できる。	チーム医療に必要なコミュニケーションの必要性が理解できる。	6
汎用的能力	DP1	患者や生活者の意思を尊重し、患者の利益を優先した行動がとれる。	患者や生活者の意思を尊重し、患者の利益を優先した行動がとれる。		患者や生活者の意思を想像し、患者の気持ちに共感や配慮ができる。	患者や生活者の意思について、学んだ知識と結びつけて考えることができる。	患者や生活者の意思を想像できる。	患者や生活者の意思を考える努力をしている。	7
	DP2	国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築ける。	薬剤師としての責務を自覚し、医療関係者や患者との情報のやり取りを滞りなく行うことができる。	医療関係者や患者との情報のやり取りの大切さを理解し、丁寧かつ正確な情報交換を行う能力の向上に努めることができる。	臨床という実際の現場での人間関係に触れ、その中で自分がどのように在るべきかを明示することができる。	薬学関係の職業においてどのような人間関係が求められるのかを理解すると共に、自分の対人基礎力の現状を分析することができる。	他者に対して、自分の考えを効果的に伝達することができる。	自分とは異なる他者の持つ多様な価値観を受容できると共に、外国人とも情報交換するための文法知識を有している。	8
	DP6	自ら問題を見つけ、解決策を立案し、解決できる。	自ら問題を設定し、解決策を提案して解決に向けて実践できる。		自ら問題を設定し、解決策へと導く必要な資料を収集し、解決策を提案できる。			与えられた問題について構成要素を把握し、提示された資料に基づいた解決策を選び出せる。	9
姿勢・態度	DP1	豊かな人間性と高い倫理観を有し、結果に対する責任が持てる。	社会や医療の中での薬剤師の役割と使命を自覚し、責任ある行動がとれる		薬学の知識の応用、プレ実務実習を通じて、豊かな人間性と高い倫理観を醸成し、自分の責任を認識した行動がとれる。	薬学の基礎から応用を修得するとともに豊かな人間性と倫理観を醸成し、先を見据えた行動がとれる。	医療社会における薬剤師の役割と使命を学習し、与えられた役割をやり遂げられる。	10	
	DP4	社会へ常に関心を抱き、地域はもとより広く社会に貢献する姿勢を有する。	地域や社会に常に関心を抱き、自ら専門的な情報を得るなどして、主体的に広く社会に貢献する態度・姿勢を有している。		地域や社会に関心を抱き、自ら情報を得るなどして、社会に貢献する態度・姿勢を有している。	地域や社会に関心を抱き、社会に貢献する態度・姿勢を有している。	地域や社会に関心を抱くことができる。	11	
	DP8	薬学・医療の進歩に対応できるよう、生涯にわたって自己研鑽ができる。	医療社会に貢献できる実践的能力の向上のために、広く社会に関心を抱き意欲的に自己研鑽している。	医療社会で薬剤師の責務を果たすために、社会に関心を抱き自己研鑽している。	薬剤師に必要な実践的能力を修得するため、自己研鑽する姿勢を有している。	薬学の専門的知識の修得や研究遂行に必要な問題解決能力を向上させる意欲と姿勢を有している。	科学的根拠に基づいて論理的に考える姿勢を養い、将来に向けた行動計画を実行している。	薬学生として学習に対する高い士気を有し、将来に向けての現実的な行動計画が立てられる。	12
	DP8	自他ともに高めあう協調性と向上心を持つ。	自他ともに高め合う協調性と向上心を有している。	自らが学んだ知識や経験を他人と共有し、自他ともに高め合う姿勢を有している。	周囲と建設的に議論し意見をまとめられる。互いを正當に評価し合える。	周囲の人々と協調的な姿勢を有し、目標に向かって取り組める。	周囲の人々と考えの共有により刺激を与えあいアイデアを交差させながら解決策を検討できる。	周囲の人々と考えの共有ができる。	13

能力別分類

知識・理解

専門的能力

汎用的能力

姿勢・態度

アセスメントプラン (AsP)

- 7 患者や生活者の意思を尊重し、**患者の利益**を優先した行動がとれる。
- 10 豊かな**人間性**と高い**倫理観**を有し、結果に対する責任が持てる。
- 8 国内・国外を問わず、様々な立場の人々と**協調的な人間関係**を築ける。
- 6 **チーム医療**を適切に遂行するために必要な行動がとれる。
- 3 医療人として、**保健衛生・社会奉仕**に貢献する活動に主体的に取り組める。
- 11 社会へ常に**関心**を抱き、**地域**はもとより広く**社会に貢献**する姿勢を有する。
- 5 科学的根拠に基づいた**薬学医療**の実践、及びその評価を行える。
- 2 生命と薬学に関する**基礎科学**が理解できる。
- 1 豊富で正確な薬学の**専門知識**を有する。
- 9 自ら問題を見つけ、**解決策を立案**し、解決できる。
- 4 薬物療法に関する高い**実務能力**を有する。
- 12 薬学・医療の**進歩**に対応できるよう、生涯にわたって**自己研鑽**ができる。
- 13 自他ともに高めあう**協調性**と**向上心**を持つ。

ディプロマポリシー (DP)

1

2

3

4

5

6

7

8

10の基本的資質

- 患者・生活者本位の視点
- 薬剤師としての心構え
- コミュニケーション能力
- チーム医療への参画
- 地域の保健・医療における実践的能力
- 基礎的な科学力
- 研究能力
- 薬物療法における実践的能力
- 自己研鑽
- 教育能力

令和5年度以前入学者用

研究内容

薬剤学教室

医薬品原薬の放出制御をはじめとする様々な製剤機能は、製剤の構造や物性と密接に関係しています。ですから、製剤の機能がどのような仕組みで働いているのかを正確に理解するためには、製剤の構造や物性に関する情報を得ることがたいへんに重要です。構造や物性の情報には、医薬品製剤それ自身の構造のみならず、製剤原料から製造される造粒物の構造、原薬や添加剤の原子・分子レベルの三次元構造、あるいは原薬の相転移現象などが含まれます。製剤に関する物質の構造および物性を詳細かつ定量的に解析するためには、X線を利用した分析法（単結晶X線構造解析法、粉末X線回折法、X線CT法、X線吸収スペクトル測定法）や、分光学および熱分析法などの物理化学的解析手法が大変に有効です。薬剤学教室では、物理化学的な解析手法を駆使して得られる製剤学的知見を利用して、新しい機能あるいはより優れた機能を持つ新規製剤を開発していく研究を進めています。

生薬学教室

薬学の基礎と言われる生薬学は自然・生命・人間を研究相手とし、薬学のあらゆる分野を統括する伝統のある学問であります。当教室では以下の3つのテーマを中心に、創薬科学から臨床薬学まで幅広く研究を行っています。

1) がん、HIV感染症などの治療薬の創製を目指して、薬用資源植物に宝として眠っている新規生物活性成分をHPLCなどのクロマトグラフィーを用いて単離し、スペクトル解析と化学反応により化学構造の解明を行います。更に酵素や培養細胞を用いた生物活性の評価と作用機序の解明を見据え研究を行っています。2) サイエンスに基づく漢方薬の有効利用を目指して、各種機器分析による漢方薬の品質評価、活性成分の同定および生物活性の評価を通じて、漢方薬の科学解明の研究を行っています。3) 超高齢社会に伴う生活習慣病の増加が深刻な問題とされているなかで、「セルフメディケーション」の考えから、未利用植物資源や薬草園の植物などを研究材料として、機能性成分の探索および生物活性の評価を通じて、植物由来の健康素材の開拓研究を行っています。

薬理学教室

薬理学は、「薬物と生体との相互作用」を研究する生命科学です。その目的として、1) 薬物の作用機序や疾患に対する治療的応用性を解明することにより、薬物治療における適切な医薬品の選択や適正な適応を促すこと、2) 有効性のより高い医薬品を創製するための指標を提供すること、3) 特異的な生物活性を有する薬物を用いることにより、生体反応機構を解析すること、などを挙げることができます。私たちの研究室では、消化器・呼吸器・泌尿器・循環器など、基本的な生命活動の維持に必要な各種器官を構成している平滑筋に焦点を当て、ホルモン・神経伝達物質・オートクイドなどの生理活性物質によって活性化される薬物受容体の薬理学的同定や、その活性化によってもたらされる平滑筋の機能変動に関与するプレーヤー達とその役割を探索しています。

現在推進している具体的なテーマには、以下のものがあります。1) 平滑筋の収縮・弛緩反応に関与する各種G蛋白質共役型受容体サブタイプの同定とその刺激によって活性化されるパートナー分子の探索、2) 下部尿路の収縮・弛緩機能に関わる分子基盤の解明と中枢神経疾患治療薬の与える影響の評価、3) 平滑筋を支配する自律神経の役割とその機能制御に関わる新しい機序の解明、4) 新しい機能性食品の開発を指向した生体機能制御物質の標的分子の探索。卒業研究を完遂して「問題解決能力を養う」ことにより、医療現場で遭遇する困難を乗り越えることができる真の実力をつけていただきたいと願っています。

分子生物学教室

細胞が増殖する過程では、ゲノムDNAのすべてを過不足なく複製しなければなりません。この“DNA複製”は、体の中で高い秩序を持って制御され、幾つものメカニズムで保護されて正確さを保っています。その信頼性が損なわれるようなことがあれば、遺伝子に変異が生じ、がんに結びつくことが容易に想像できますが、老化症状に似た幅広い影響や特定の遺伝子疾患を誘発する場合があることも示唆されています。一方、免疫系は生体の防御機構の中心的役割を演じているだけでなく、さまざまな生命現象の調節機構として広く機能しています。そのため、免疫系の破綻は免疫性疾患のみならず感染症やがん、アレルギーなど多くの疾患を引き起こし、人間の健康を脅かします。分子生物学教室では、生命に根幹的に関わるこれらの活動に注目し、遺伝情報の継承にかかわる信頼性を左右するタンパク質間の連携メカニズムと、リガンド分子とレセプター（受容体）分子を中心とした免疫応答の制御機構について、細胞レベル、分子レベルで明らかにしようとしています。現在は、① DNA複製開始の制御機構、② 遺伝情報の安定性維持機構に関わる遺伝病原因遺伝子産物の機能、③ DNAに障害を与える薬物（抗がん剤など）に対する細胞内応答、④ 抗がん剤によるがん細胞表面分子の変化と抗腫瘍免疫応答における意義、⑤ 病態における免疫機能変化の分子機構、のそれぞれについて細胞生物学的、分子生物学的、免疫学的手法を用いて解析しています。

薬品分析学教室

薬学の研究において、「分析科学」は必要不可欠な研究分野です。薬学研究で活用される新しい分析技術の開発研究をはじめ、生体内における微量生理活性分子の変動解析など、創薬や医療の現場において、極めて重要な位置を占めています。当教室は薬学の分析科学を志向しているため、分析化学のほか、有機化学、物理化学を基盤として、薬理学や生化学、臨床化学へ研究を展開することを目指しております。

現在の研究テーマは精神疾患の克服を目指した中枢組織における生体分子の分析科学的研究です。そのため、生きている実験動物を使ったin vivoの実験やヒト血清中分子の定量研究を行います。このほか、当教室のオリジナル分析試薬や新しいクロマトグラフィー法の開発研究にも取り組んでいます。

生化学教室

当研究室では、主にウイルス感染症と老化に主眼を置いた研究を推進しています。【ウイルス感染症】インフルエンザウイルスと新型コロナウイルスは、現在においても人類に大きな影響を及ぼす重要な感染症です。当研究室では、ウイルスタンパク質に対する翻訳後修飾に着目し、これらのウイルスの感染・増殖機構を解明することを目指しています。将来的に、これらのウイルスに対する治療薬の開発に繋がることを期待されます。【老化】日本人の平均寿命は戦後延び続け、現在では日本は世界有数の長寿国です。しかし、長生きしても病気を患い、寝たきりでは決して幸せな人生とは言えません。私達の教室では、健康長寿を主眼においたマウス、ラットを使用した基礎老化研究を行っています。主な研究内容は、1) 老化・老化関連疾患の制御：中高齢期の食事制限介入研究、肝線維化モデルマウスを用いた抗肝線維化薬の開発、2) 老化促進モデルマウス (SAM) の老化促進機構 (遺伝子解析)、3) 金属蓄積と老化および老化関連疾患、4) 老化の性差・個体差、5) 若齢期の環境が老化に与える影響などです。老化とウイルス感染症以外には、カタツムリや昆虫を用いた研究も行います。

薬品製造学教室

薬の効果は、タンパク質などの生体分子が薬の分子と相互作用 (認識) することによって現れます。この相互作用、つまり薬効が効果的に現れるためには、分子の「立体構造」と、分子の部分構造間に働く「分子間相互作用」が大変重要です。薬品製造学教室では、医薬分子や生理活性物質によく見られる化学構造 (化学式) をもつ分子が、溶液中や結晶中などの外部環境に対応してどのような立体構造をとり、それによってどのような物理化学的性質 (物性) を示すかについて研究を行っています。また酵素タンパク質モデルとなる簡単な化合物を用いて、分子を認識する際に分子間相互作用がどのように働くかについての研究や、水中という生体反応にとってはあたりまえの、しかし合成化学的には特殊な環境で進行する環境に優しい反応の開発を行っています。これらをテーマとした卒業研究を通じて、有機化合物の性質やその正しい扱い方について学ぶとともに、立体構造および分子間相互作用についての理解を含む、医薬分子の設計・合成、医薬品の薬理活性や物性の理解に必要な一般性の高い考え方を修得します。

薬品物理分析学教室

近年、微生物由来の光センサータンパク質を利用してさまざまな生命活動を光で制御する試みが行われ、オプトジェネティクスと称されています。この手法は、脳や神経系の働きを研究するための有用なツールであるほか、発展させれば失明した人に視力を回復させる、また難治性の神経疾患の有効な治療法となるなど、その可能性には大きな期待が寄せられています。オプトジェネティクスを支える2つのタンパク質、チャンネルロドプシンと光活性化アデニル酸シクラーゼの発見には、薬品物理分析学教室のスタッフが大いに貢献しています。私たちはこれらのタンパク質の構造と機能の解明を目指します。また、種々の生物から新しい光センサータンパク質を探索することで、より優れた特性を持つオプトジェネティック・ツールを開発し、それにより、今後の応用に少しでも役立てたいとも思っています。

薬化学教室

金属を触媒とする反応は、医薬品の製造や化学工業ではもちろんのこと、合成による新薬探索 (創薬) の現場でも必要不可欠です。当研究室では、パラジウムという遷移金属を触媒として利用した新しい物質変換反応の開発とホルモン受容体に作用するような新規化合物の探索を行っています。配位子を巧みに利用して金属触媒の機能を変えることで、従来知られていなかった反応経路を探索します。一方では、光学活性な生理活性天然物の合成も行っています。

衛生化学教室

衛生薬学は、人の疾病予防と健康増進を志向する薬学の特徴的な研究領域です。「人は血管とともに老いる」ともいわれ、この血管の老化と動脈硬化を基盤とする脳梗塞や心筋梗塞などの疾患と関連があることが指摘されています。衛生化学教室では、血管に焦点を当て、動脈硬化の鍵分子であるプロテオグリカン研究、カドミウムや鉛など伝統的な有害重金属の血管毒性学研究に取り組んでいます。さらに、有機金属化合物・金属錯体分子を活用し、未知の生体機能を解明する新しいバイオロジー（バイオオルガノメタリクス）にも挑戦しています。これらの研究成果によって疾病の発症機序の解明さらには予防や治療に有用な知見を得たいと考えています。

微生物学教室

微生物学教室では、抗生物質、免疫抑制剤、抗がん剤などの様々な生物活性物質の生産菌が多数含まれる放線菌を対象にした研究を行っています。その一つが、マクロライド抗生物質生産菌の遺伝子操作による新規誘導体生産菌の作成です。また、クオラムセンシングという細菌細胞間のコミュニケーションにより病原因子の発現が調節されていることが明らかになってきていますが、放線菌の生産する病原細菌のクオラムセンシングを阻害する物質の探索を行っています。環境微生物の分野では、放射性セシウムのキノコへの高度蓄積に関する研究の一環として、土壌細菌がどのような移送系でセシウムを取り込むのか、どのような仕組みでセシウム耐性を獲得するのかについて研究を行っています。

薬物学教室

心臓循環系を中心に研究を行っている。心臓拍動の源であるペースメーカー活動、活動電位の発生と心筋収縮、神経系やホルモンによる制御、それらを支えるエネルギー代謝などを総合的に研究している。丸ごと動物の心電図や血圧測定、摘出心筋標本を用いた収縮測定や電気生理学、蛍光プローブ法による細胞内事象の画像解析、遺伝子導入細胞を用いたイオンチャネルの機能解析など、個体レベルから分子レベルまで必要に応じて様々な手法を駆使する。研究テーマは心臓の発達や進化を意識した基礎生理学的なものから薬物治療に関連する実用的なものまで多岐にわたる。製薬企業との共同研究による新薬開発や異分野の研究者との共同研究も多く、興味は尽きない。

公衆衛生学教室

公衆衛生学とは、人々（公衆）の健康（生）をまも（衛）る学問です。そのために当研究室では、種々の化学物質（栄養素や有害物質も含む）や老化が我々の身体にどのような影響を与えるかを明らかにし、さまざまな疾病の発症と悪化を阻止（予防）する方策を立てることを大きな目標としています。その中でも特に、生体内に極微量に存在する必須元素や毒性元素に注目し、それらがどのような化学形態で摂取され、代謝され、生体に利用され、また解毒・排泄されているのかを明らかにするという研究を行っています。そのために、生体分子と金属との相互作用の解析や、生体金属の化学形態別分析に加え、有機合成、反応解析、構造同定といったケミストリーに基づく考え方や技術をベースとして、生体金属の代謝機構や毒性発現機構、また栄養学的利用機構を検討しています。その他、老化に伴う発がんの分子機構について、生化学的な解析を中心として研究を行っています。

薬物動態学教室

治療に用いられている薬物の動態やその変動要因を正確に把握することは、薬の開発のみならず臨床において薬物の最適投与設計を行うために不可欠である。薬物動態学研究室では、薬物動態に深く関わる因子、特に、薬物の膜輸送と薬物の代謝に焦点をあて以下の研究を行っている。①栄養素などの物質の吸収に関わる輸送担体の輸送分子機構をタンパク分子レベルで解析し、輸送担体を介したDDSへと発展させる。②薬物代謝にはP450という酵素が深く関与する。このP450という酵素を中心に代謝誘導と酵素阻害機構について、酵素レベル、遺伝子レベルで解析をする。③肝臓は取り込んだ薬物を代謝あるいは胆汁中に排泄し、解毒を行う。この肝臓の薬物の除去には、循環血中から肝細胞内への輸送および肝細胞内から胆汁中への排泄（膜輸送）が重要な役割を果たしている。臓器（肝臓）、細胞、細胞膜、輸送担体タンパク質など様々な視点から、この薬物の輸送担体の輸送分子機構を解明する。④これら得られた動態パラメータに基づいてヒトにおける薬物血中濃度推移の予測および薬物間相互作用の予測を行える生理学的モデルを構築し、新薬の治験への応用も視野に入れた研究も行っている。

薬品物理化学教室

金属錯体や有機分子を触媒として用いる反応が、どのような反応機構でおこっていて、その際に触媒はどのような働きをしているのか、コンピュータを用いた計算化学的・量子化学的手法により明らかにする研究をおこなっています。医薬品の開発や製造には、望みの化合物を自在に、かつ効率的に作り出す技術が必要であり、その下支えとして、精密な触媒反応開発が重要であることは言うまでもありません。共同研究をとおして、様々な新規触媒反応の反応機構や反応性を明らかにすることで、触媒反応設計に指針をあたえる試みを続けています。“物理化学”をバックグラウンドにもちながら、有機化学や無機化学で現われてくる“化学反応”を広く眺めていきたいと考えています。

スポーツ健康科学教室

スポーツは心身の健康を維持するために不可欠なものです。生涯を通じてスポーツに親しむためにはライフステージに応じた運動が大切です。卒業研究では人間の活動量・運動量、疾患に対する運動療法、アンチドーピングなどに関して自らテーマを設定して文献検索による調査研究を行います。また、動物行動の発現に関わる中枢メカニズムを明らかにするため海産動物で見られる食物嗜好性行動に着目して電気生理学的方法を用いた研究も行っています。

薬学教育推進部門

薬学教育推進部門では、主に低学年生（1，2年生）を対象に、アクティブラーニングの一手法であるチーム基盤型学習（Team-based Learning, TBL）を用いた授業や、薬学部での学習と卒業後の進路について考えさせる授業を行っている。この際に学習者から得られるアンケートの結果や相互評価などのデータ、また、後者で得られた学習者の意見分布を分析することで、より効果的な授業を行う手法の開発について研究している。

医療薬学教育センター

◆薬物治療系

薬物治療学研究室

高血圧や不整脈などの循環器疾患を対象に新しい薬物治療法の開発を目標とした研究を行っています。不整脈の領域では、心臓突然死を誘発する不整脈の発生機序解析と治療・予防、心房細動および心房細動合併症に関する研究とQT延長薬に関する安全性薬理学研究を進めています。高血圧については薬物治療研究に限定せず、新しい非薬物療法の開発にも取り組んでいます。疾患で生じる様々な生体機能の変化を解析する実験を通じ、薬物を用いた治療の本質の理解を目指しています。

病態生化学研究室

がんや糖尿病などの疾患における細胞応答や薬物治療、生体防御機構に対して、免疫、生化学、分子生物学的アプローチにより、新たなメカニズムを研究しています。現在は①がん細胞に対するNK細胞の認識機構や細胞応答の研究。②肝がんの治療戦略における分子標的治療薬の新たなメカニズムと応用研究（医療センター大森病院消化器内科との共同研究）。③糖尿病性神経障害のメカニズム解明と治療戦略。④鉄及び銅代謝異常症に対する遺伝子解析（他施設との共同研究）これらのテーマに対して、特に細胞内情報伝達や遺伝子の転写調節を中心とした制御機構への影響を研究することで、病態生化学的理解を深めることを目的としています。

◆医療情報系

臨床薬学研究室

現在の医療現場において、薬剤師は薬物治療の安全性の確保のみならず、効果的な薬物治療の提案を行うことが求められています。したがって、薬剤師はジェネラリストであることに加え、様々な領域でのエキスパートであることも期待されています。これまでの薬剤師の薬物治療への関わりは、受動的なものであり、医師が行う薬物治療をモニターし、薬物治療の安全性を確保するものでした。しかし近年では、薬剤師が薬物治療に積極的に参加し、能動的に薬物治療を行うこと、つまり、処方設計を行うことが求められています。そして、薬剤師が行う処方設計により実施された薬物治療では、薬剤師も医師と同様な責任を負うこととなります。

当研究室の教員は、臨床現場で生じた疑問（クリニカルクエスション）に対して、臨床現場で役立つエビデンスを構築しています。特に、救急・集中（救命救急）領域、感染症領域、循環器領域、TDM（治療薬物モニタリング）などの領域の専門家としての臨床経験を持ち、その専門領域の研究を行っていますが、精神疾患や糖尿病、がん領域、小児領域など他の領域の研究も病院の薬剤師や医師、クリニックの薬剤師や医師、さらに地域医療を担う調剤薬局の薬剤師などと協働で行っています。医療現場において、専門性の高い臨床薬剤師として、また、臨床データの調査・研究、エビデンスの構築から、患者のためにより良い薬物治療が提案できる研究者としての薬剤師を育てることを目指しています。

◆薬学臨床教育系

臨床薬剤学研究室

疾病治療に医薬品は欠かせないものであり、有効で安全な薬物療法が求められています。当研究室では、医薬品の適正使用のための情報の収集・評価に繋がる調査研究を行います。

また、医薬品には薬の特性、治療の目的に合わせた剤形があります。病院においては特定の患者さんに使用する院内製剤も剤形を考慮し薬剤師が調製しており、患者さんに使用された際、医薬品としての役割が効果的に発揮されているかなどを安全性や品質評価も含めて学び、研究に取り組み、薬剤師の育成に力を注ぎます。

実践医療薬学研究室

科学の発展により有効かつ安全な医薬品が開発されていますが、市販後に様々な患者に投与されると一部の患者群に特徴的な有害事象が発現することがあります。また、医療現場では医薬品開発時と異なる投与形態で使用されることがあります。そのため、当研究室ではリアルワールドデータの解析に取り組み、医療用医薬品を適正かつ安全に使用するための情報や患者背景因子を探求しています。たとえば、医薬品による有害事象発現因子の探索では、医療ビッグデータのマクロ的分析を行っているほか、医療機関と提携して患者発現因子の詳細な解析を行っています。また、薬剤師業務の改善に向けた調査研究も展開しています。

◆社会薬学系

社会薬学研究室

医薬品や食品・化学製品などの生活関連物質は人々の生命と健康の保持に直接かかわることから、これらの適正な使用や管理のためには、社会的な視点を持つことが欠かせません。そのため、当研究室の研究対象は、医薬品や生活関連物質がもつ社会性、これらを扱う薬剤師や使用する患者における社会的課題、さらにはこれらに関連する制度についての課題など多岐にわたっています。

たとえば、薬および薬学が社会に及ぼす影響、ならびに社会やその変化が薬学・薬剤師に求めるものに着目し、これからの薬剤師に求められる資質やプロフェッショナリズムなどをテーマとした研究や、地域で活躍している薬剤師の職能について可視化していく研究、医療安全の向上に資するために、医療過誤訴訟やその原因となる医療事故・過誤に関する事例を収集し、統計学的手法などを用いて分析しています。また、薬剤師業務に関連する法制度の問題点等を検証し、実務の現場に活かすための研究をしています。

これらの研究を通じて、人間の生命と健康の維持に寄与し社会に貢献することを目的としています。

【令和7(2025)年度「卒業研究Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb」成績評価項目および評価基準】

評価基準 評価項目	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0
①心構え	積極的に計画性を持って研究を遂行する。	自主性を持って研究を行う。	ルールを遵守して研究を行う。	レベル1の基準を満たさない
②論理的討論	科学的根拠に基づいて論理的かつ建設的に討論する。	積極的に討論に参加する。	討論に参加する。	レベル1の基準を満たさない
③協調性	研究にふさわしい雰囲気づくりに積極的に貢献する。	研究生活において円滑なコミュニケーションを取る。	研究生活において必要なコミュニケーションを取る。	レベル1の基準を満たさない
④研究遂行能力	作業仮説を立て、研究を遂行する。	情報を選別し、その理解に基づいて研究課題を遂行する。	情報を収集し、研究課題を遂行する。	レベル1の基準を満たさない
⑤研究成果	論理的に考察し、研究の進展に貢献する。	実験・調査の各プロセスを適切に記録し、そのデータに基づいて研究発表や研究報告書の作成を行う。	実験・調査結果を記録し、研究発表や研究報告書の作成を行う。	レベル1の基準を満たさない

免 許 に つ い て
薬学部教員・非常勤講師
クラス担任・委員
キャンパスマップ・講義室・研究室配置図
薬学部同窓会（鶴風会）

免許について

【薬剤師】

学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づく大学において、薬学の正規の課程（学校教育法第 87 条第 2 項に規定するものに限る。）を修めて卒業した者に受験資格があります。従って、本学の卒業生は全員受験資格が得られます。

◆試験期日

: 2 月中旬頃の 2 日間

◆出題領域

: 「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」、「実務」の 7 領域

◆試験問題数

: 必須問題が 90 問、一般問題（薬学理論問題）が 105 問、一般問題（薬学実践問題）が 150 問、合計 345 問となります。なお、薬学実践問題は、「実務」20 問に加え、「実務」とそれ以外の科目とを関連させた複合問題 130 問となります。

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題			
		薬学理論問題	薬学実践問題		
物理・化学・生物	15 問	45 問	30 問	15 問（複合問題）	60 問
衛生	10 問	30 問	20 問	10 問（複合問題）	40 問
薬理	15 問	25 問	15 問	10 問（複合問題）	40 問
薬剤	15 問	25 問	15 問	10 問（複合問題）	40 問
病態・薬物治療	15 問	25 問	15 問	10 問（複合問題）	40 問
法規・制度・倫理	10 問	20 問	10 問	10 問（複合問題）	30 問
実務	10 問	85 問	—	20 問+65 問（複合問題）	95 問
出題数計	90 問	255 問	105 問	150 問	345 問

◆合格基準

: 以下のすべてを満たすことを合格基準とします。なお、禁忌肢の選択状況を加味する。

- ①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。
- ②必須問題について、全問題への配点の 70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の 30%以上であること。

◆合格発表日

: 3 月中旬頃

(厚生労働省並びに地方厚生局及び地方厚生支局にその受験地、受験番号を掲示して発表するほか、合格者に対して合格証書を郵送する)

◆受験手続

(6年生)

出願書類は学部で配付し、取りまとめの上、一括して薬剤師国家試験運営本部事務所に提出します。
なお、出願に関する日程は以下のとおりです。

- 9月上旬 試験期日提示
- 10月下旬 出願日程提示
- 11月下旬 出願書類配付
- 11月末～12月上旬 出願書類締切
- 2月上旬 受験票発送

(卒業生)

東邦大学ホームページ内、薬学部ページに詳細は掲載します。

薬学部教員一覧

教室名	教員名	職位	教室場所
薬剤学教室	野口 修治	教授	C712
	鈴木 浩典	准教授	C715
	伊藤 雅隆	講師	C716
生薬学教室	李 巍	教授	D505
	菊地 崇	准教授	D530
	大月 興春	助教	D530
薬理学教室	田中 芳夫	教授	D408
	小原 圭将	准教授	D440
	吉岡 健人	講師	D440
分子生物学教室	多田 周右	教授	D305
	東 祐太郎	准教授	D330
	津山 崇	講師	D330
薬品分析学教室	福島 健	教授	D308
	小野里磨優	講師	D340
	坂本 達弥	助教	D340
生化学教室	畠山 大	教授	D301
	土屋 勇一	准教授	D302
	大寺 恵子	助教	D310
薬品製造学教室	東屋 功	教授	D504
	水川 英正	准教授	D520
	吉川 晶子	講師	D520
薬品物理分析学教室	伊関 峰生	教授	D401
	岩田 達也	准教授	D402
	高橋 文雄	講師	D410
薬化学教室	加藤 恵介	教授	D501
	高橋 圭介	准教授	D510
	日下部太一	講師	D510
衛生化学教室	山本 千夏	教授	D304
	原 崇人	講師	D320
	中野 毅	助教	D320
微生物学教室	安齊洋次郎	教授	D508
	飯坂 洋平	講師	D540
薬物学教室	田中 光	教授	D405
	行方衣由紀	准教授	D430
	濱口 正悟	講師	D430
公衆衛生学教室	鈴木 紀行	教授	D209
	山口 陽子	助教	D240
薬物動態学教室	宮内 正二	教授	C705
	樋口 慧	准教授	C702
	清水 真紀	助教	C702
薬品物理化学教室	坂田 健	教授	D404
	吉川 武司	准教授	D420
スポーツ健康科学教室	成末 憲治	講師	E302
薬学教育推進部門	大井 浩明	教授	D201
	水落 茂樹	講師	D202
	木村 美紀	講師	D202
中央機器室	満長 克祥	講師	D204

◆医療薬学教育センター

【薬物治療系】

教室名	教員名	職位	教室場所
薬物治療学研究室	高原 章	教授	E310
	永澤 悦伸	准教授	E309
	相本 恵美	助教	E309
病態生化学研究室	桧貝 孝慈	教授	E209
	巽 康彰	准教授	E208

【医療情報系】

教室名	教員名	職位	教室場所
臨床薬学研究室	松尾 和廣	教授	C609
	植草 秀介	講師	C602
	花井 雄貴	講師	C601

【薬学臨床教育系】

教室名	教員名	職位	教室場所
臨床薬剤学研究室	増田 雅行	教授	C608
	木下 雅子	准教授	C612
	瀧川 正紀	講師	C612
実践医療薬学研究室	石井 敏浩	教授	C607
	田中 博之	准教授	C611

【社会薬学系】

教室名	教員名	職位	教室場所
社会薬学研究室	藤枝 正輝	教授	C507
	平賀 秀明	講師	C510
	高橋 瑞徳	講師	C509

◆薬学総合教育センター

教室名	教員名	職位	教室場所
薬学総合教育部門	関 広美	講師	E101
	中山 拓	講師	E101
薬学総合実験部門	五郎丸美智子	准教授	E201
	黒田 潤	講師	E201

共通教育機構（専任）

教室名	教員名	職位	教室場所
数学教室	金子 真隆	教授	D205
	花崎 一夫	教授	E210
英語教室	メサクリンガー・ジョセフ	講師	E211

兼担講師一覧

人体解剖学	川島 友和	医学部：解剖学講座
臨床医学総論Ⅰ	高井雄二郎	医学部：臨床支援室
形態機能学総論	赤羽 悟美	医学部：生理学講座
感染症学	館田 一博	医学部：微生物・感染症学講座
臨床腫瘍学	菊池 由宣	医療センター大森病院
臨床漢方治療学	田中耕一郎	医療センター大森病院
臨床医学総論Ⅱ	齋木 厚人	医療センター佐倉病院
看護学	臼井 雅美	健康科学部：ファミリーヘルス看護領域
心理学	端詰 勝敬	医学部：心身医学講座
プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)	尾立 篤子	健康科学部：トランスレーショナル看護領域
プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)	蜂ヶ崎 令子	健康科学部：トランスレーショナル看護領域
プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)	宮崎 裕子	健康科学部：トランスレーショナル看護領域

客員教授一覧

医薬品開発 I	縣 直樹	実用薬学英語	Emory S.Martin
---------	------	--------	----------------

非常勤講師一覧

外国語科目

英語 I a	小野 雅子
英語 II a	
英語 III b	
英語 IV b	
英語 I b	衣川 清子
英語 II b	
英語 III b	
英語 IV b	
英語 I a	石月 正伸
英語 II a	
英語 III a	
英語 III b	
英語 IV a	
英語 IV b	
英語 I b	山田 恵子
英語 II b	
英語 I a	永本 義弘
英語 II a	
英語 III b	
英語 IV b	
英語 I a	日吉 信貴
英語 I b	
英語 II a	
英語 II b	
英語 III a	
英語 III b	
英語 IV a	
英語 IV b	
英 会 話	マズズキー・クリストファ Christopher Matuszewski
ドイツ語 I a	リースナー・フランク Riesner Frank
ドイツ語 II a	
ドイツ語 I b	小野森都子
ドイツ語 II b	
ドイツ語 I a	吉羽 里恵
ドイツ語 I b	
ドイツ語 II a	
ドイツ語 II b	
フランス語 I a	伊藤 敬佑
フランス語 II a	
フランス語 I b	伊藤 玲子
フランス語 II b	
中国語 I a	田 芳
中国語 I b	
中国語 II a	
中国語 II b	
中国語 I a	山本 優子
中国語 II a	
中国語 I b	近藤 和美
中国語 II b	

教養教育科目

基礎数学 I	石川 賢太
現代日本史	長谷川亮一
法 学	宮腰 直子
	富田絵津子
国際関係論	竹茂 敦
倫理哲学	守 博紀
自己表現論	小林 賢二
民俗学	加藤 紫識
経済学	高橋 清治
保健環境論	中臣 昌広
文章表現論	小林 大高

薬学専門教育科目

医用工学概論	森 修治
分子腫瘍学	旦 慎吾
	馬島 哲夫
薬学機器分析学	諸井 雅男
臨床心理学	福森 高洋
臨床栄養学	田中 ゆか
実用医療英語	富田 りか
医薬品開発 II	今井 利安

保健体育科目

スポーツ実習 I	富田恵里子
スポーツ実習 II	
スポーツ実習 I	板垣 悦子
スポーツ実習 II	
スポーツ実習 I	藤原 明夫
スポーツ実習 II	
スポーツ実習 I	前野 浩嗣
スポーツ実習 II	
スポーツ実習 I	山口 知恵
スポーツ実習 II	
スポーツ実習 I	湯田 一弘
スポーツ実習 II	

令和7（2025）年度 クラス担任一覧

1 年		
クラス	担任名	副担任名
A1	吉岡 健人	濱口 正悟
A2	濱口 正悟	吉岡 健人
A3	花井 雄貴	黒田 潤
A4	黒田 潤	花井 雄貴
A5	吉川 武司	永澤 悦伸
A6	永澤 悦伸	吉川 武司
B1	行方衣由紀	岩田 達也
B2	岩田 達也	行方衣由紀
B3	小原 圭将	原 崇人
B4	原 崇人	小原 圭将
B5	水落 茂樹	日下部太一
B6	日下部太一	水落 茂樹
C1	小野里磨優	鈴木 浩典
C2	鈴木 浩典	小野里磨優
C3	津山 崇	氷川 英正
C4	氷川 英正	津山 崇
C5	高橋 圭介	飯坂 洋平
C6	飯坂 洋平	高橋 圭介
D1	巽 康彰	植草 秀介
D2	植草 秀介	巽 康彰
D3	菊地 崇	成末 憲治
D4	成末 憲治	菊地 崇
D5	田中 博之	伊藤 雅隆
D6	伊藤 雅隆	田中 博之

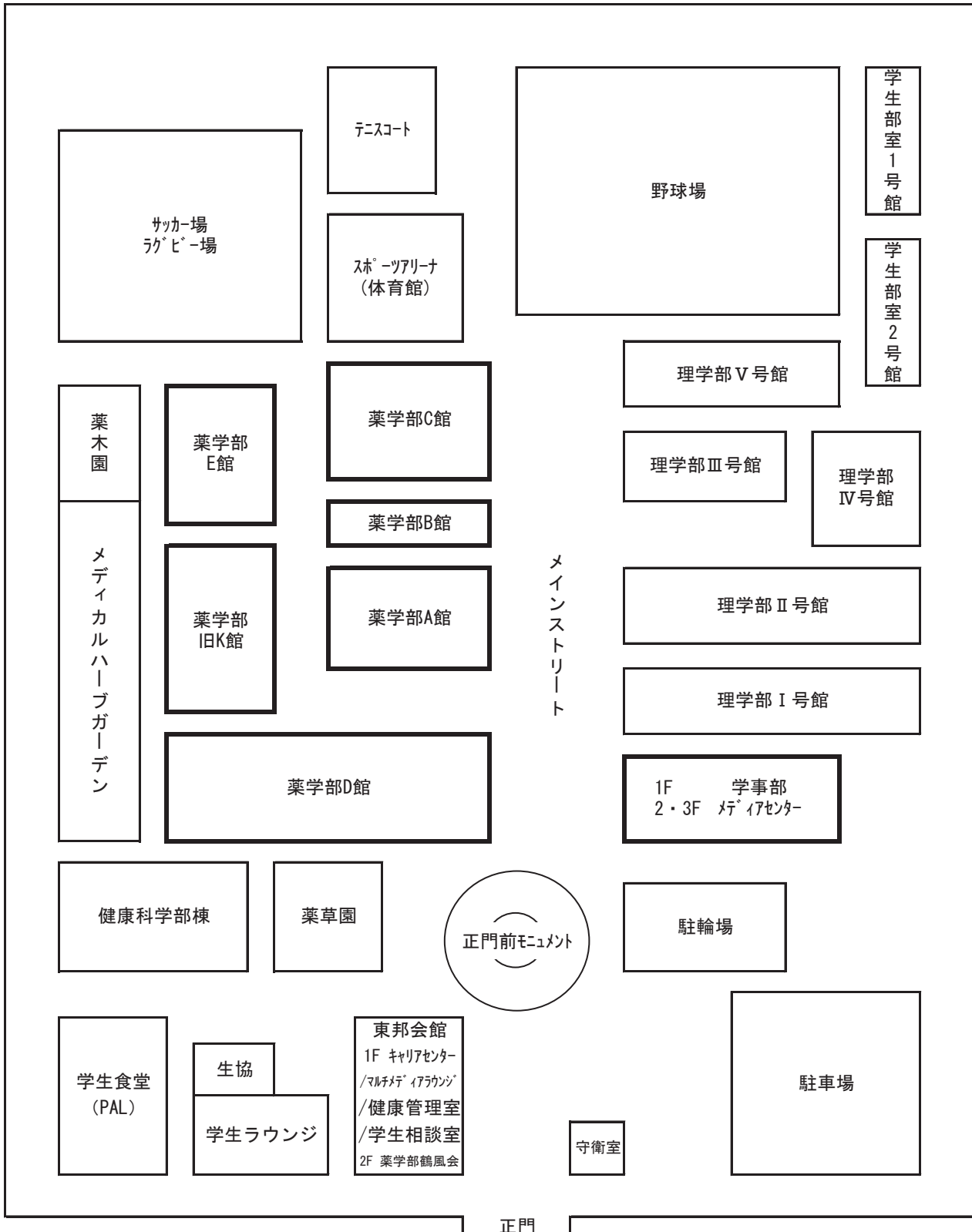
2 年		
クラス	担任名	副担任名
A1	東 祐太郎	濱口 正悟
A2	濱口 正悟	東 祐太郎
A3	花井 雄貴	黒田 潤
A4	黒田 潤	花井 雄貴
A5	吉川 武司	永澤 悦伸
A6	永澤 悦伸	吉川 武司
B1	行方衣由紀	岩田 達也
B2	岩田 達也	行方衣由紀
B3	小原 圭将	原 崇人
B4	原 崇人	小原 圭将
B5	水落 茂樹	日下部太一
B6	日下部太一	水落 茂樹
C1	小野里磨優	鈴木 浩典
C2	鈴木 浩典	小野里磨優
C3	津山 崇	氷川 英正
C4	氷川 英正	津山 崇
C5	高橋 圭介	飯坂 洋平
C6	飯坂 洋平	高橋 圭介
D1	巽 康彰	植草 秀介
D2	植草 秀介	巽 康彰
D3	菊地 崇	成末 憲治
D4	成末 憲治	菊地 崇
D5	田中 博之	伊藤 雅隆
D6	伊藤 雅隆	田中 博之

3 年		
クラス	担任名	副担任名
A1	東 祐太郎	濱口 正悟
A2	濱口 正悟	東 祐太郎
A3	花井 雄貴	黒田 潤
A4	黒田 潤	花井 雄貴
A5	吉川 武司	永澤 悦伸
A6	永澤 悦伸	吉川 武司
B1	行方衣由紀	岩田 達也
B2	岩田 達也	行方衣由紀
B3	小原 圭将	原 崇人
B4	原 崇人	小原 圭将
B5	水落 茂樹	日下部太一
B6	日下部太一	水落 茂樹
C1	小野里磨優	鈴木 浩典
C2	鈴木 浩典	小野里磨優
C3	津山 崇	氷川 英正
C4	氷川 英正	津山 崇
C5	高橋 圭介	飯坂 洋平
C6	飯坂 洋平	高橋 圭介
D1	巽 康彰	植草 秀介
D2	植草 秀介	巽 康彰
D3	菊地 崇	成末 憲治
D4	成末 憲治	菊地 崇
D5	田中 博之	伊藤 雅隆
D6	伊藤 雅隆	田中 博之

令和7(2025)年度 委員一覧

薬学部長	多田 周右 (分子生物学教室)
教務委員長	東屋 功 (薬品製造学教室)
教務主任	高原 章 (薬物治療学研究室)
教務委員	大井 浩明 (薬学教育推進部門)
	坂田 健 (薬品物理化学教室)
	増田 雅行 (臨床薬剤学研究室)
	松尾 和廣 (臨床薬学研究室)

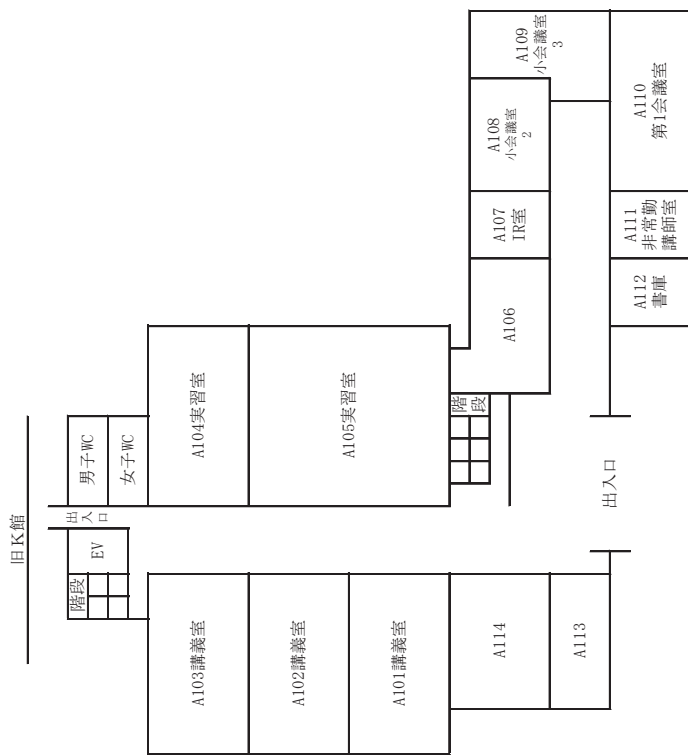
キャンパスマップ



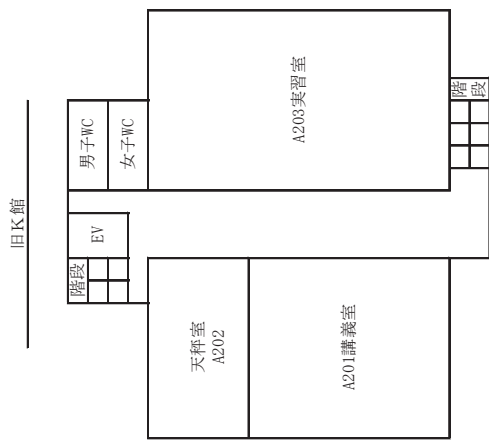
※学事部の事務取扱時間
 平日 8:45~17:00
 土曜日 8:45~13:30
 ただし、日曜日、祝祭日、年末年始休業期間を除く。

【講義室・研究室配置図】

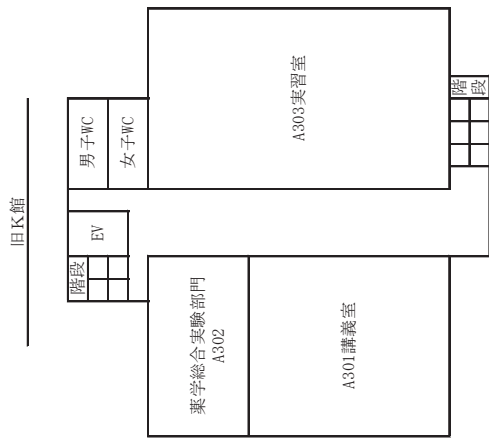
薬学部A館・1階



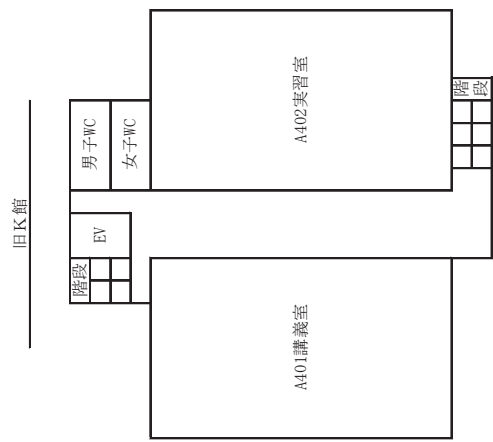
薬学部A館・2階



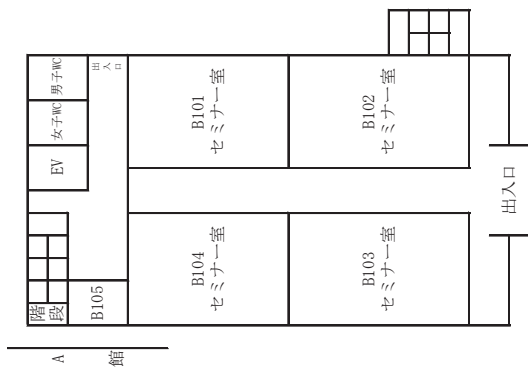
薬学部A館・3階



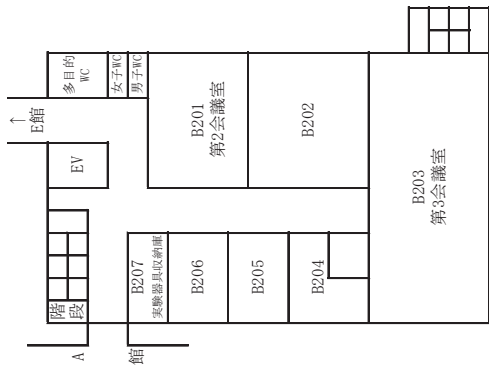
薬学部A館・4階



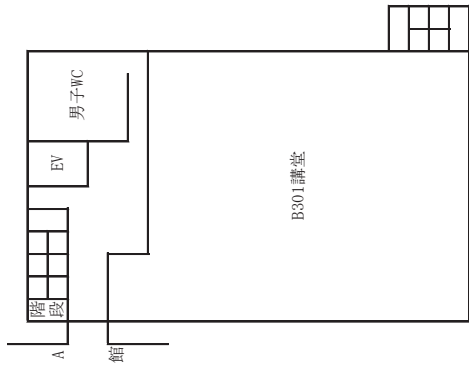
薬学部B館・1階



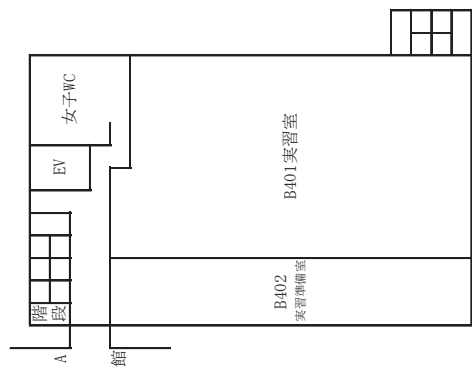
薬学部B館・2階



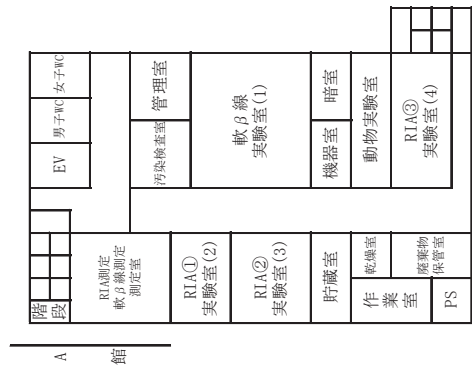
薬学部B館・3階



薬学部B館・4階



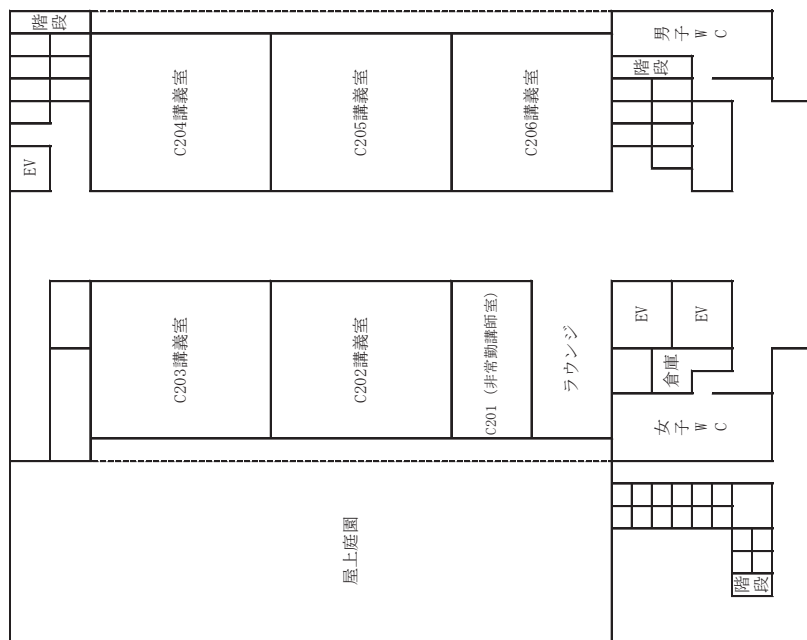
薬学部B館・5階



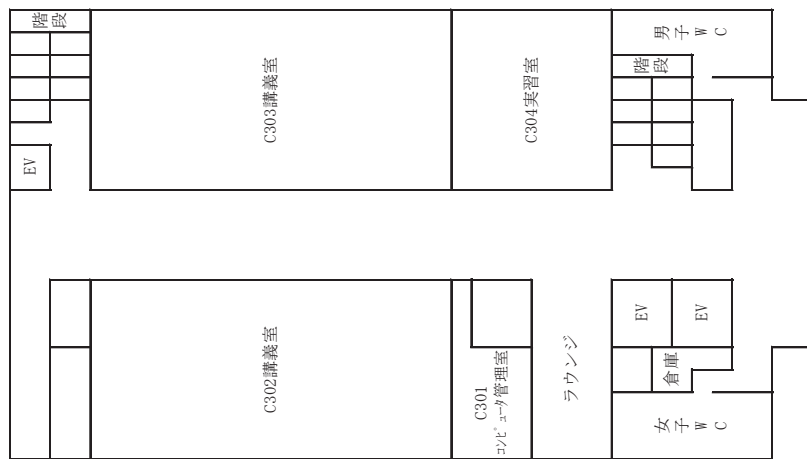
薬学部C館・1階



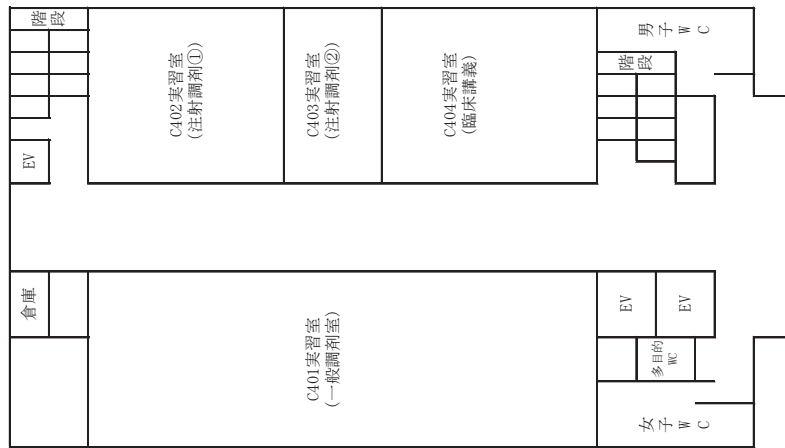
薬学部C館・2階



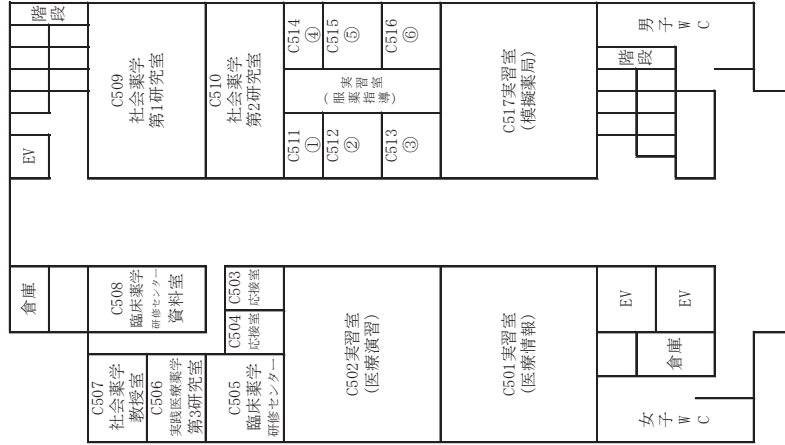
薬学部C館・3階



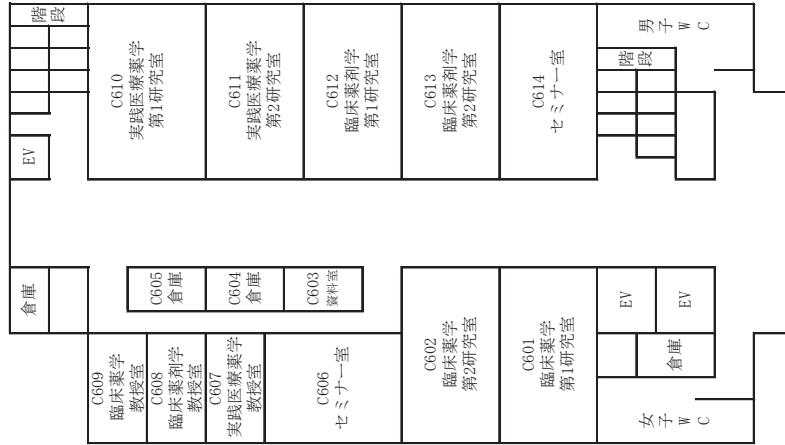
薬学部C館・4階



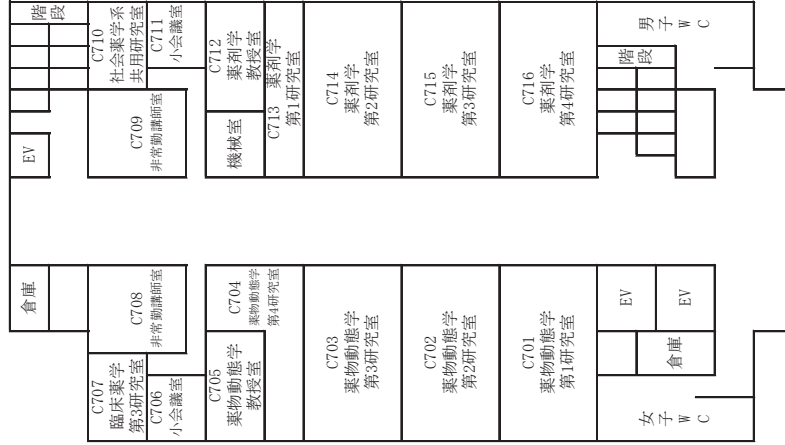
薬学部C館・5階

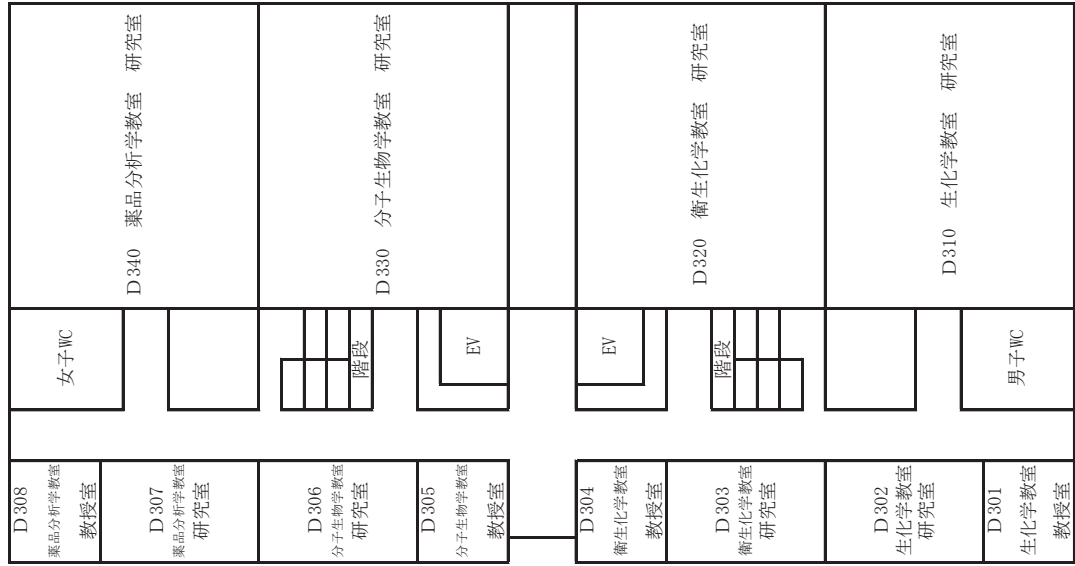
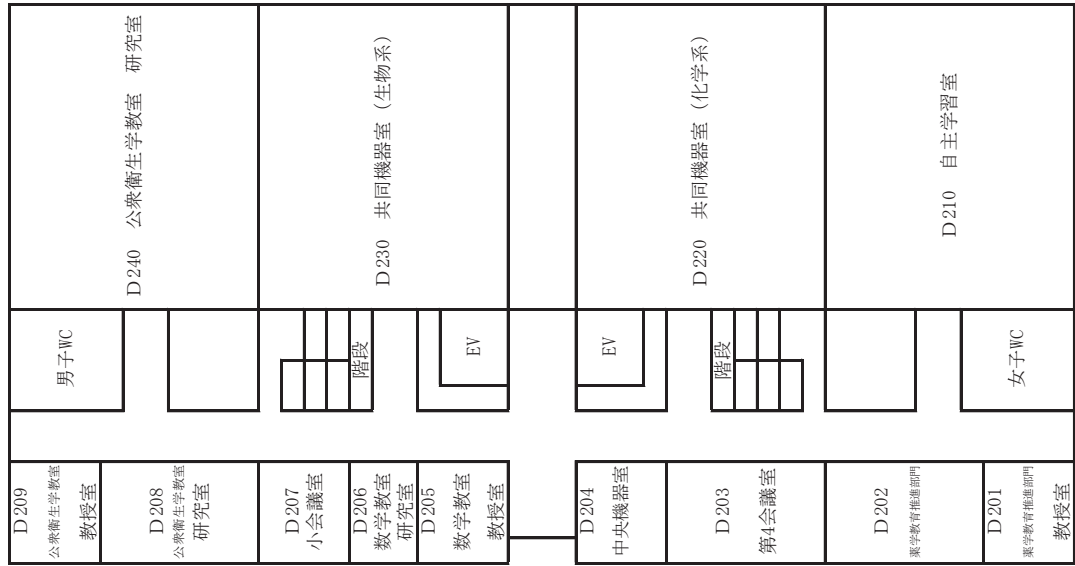
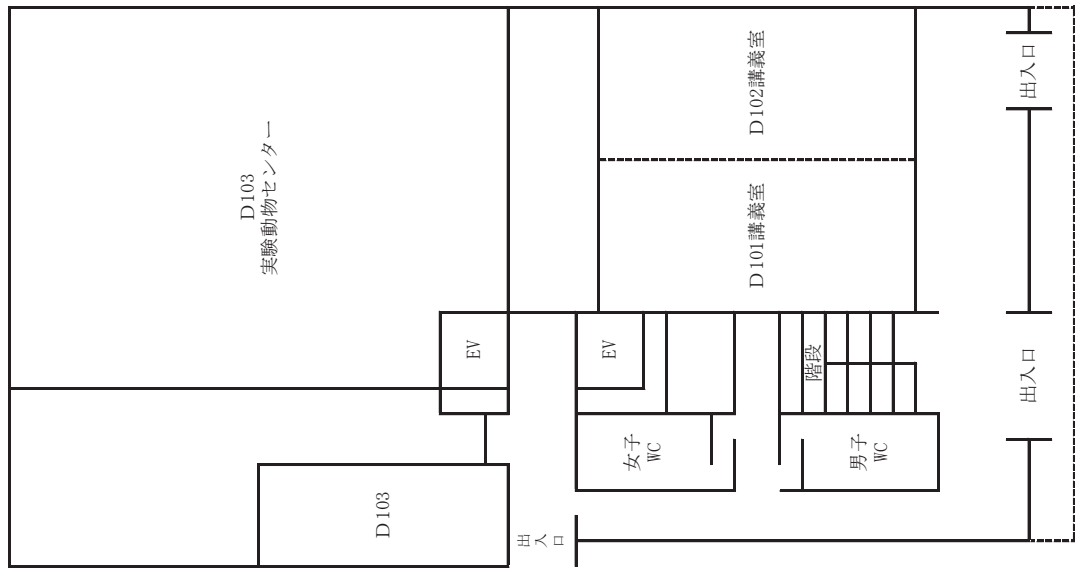


薬学部C館・6階



薬学部C館・7階

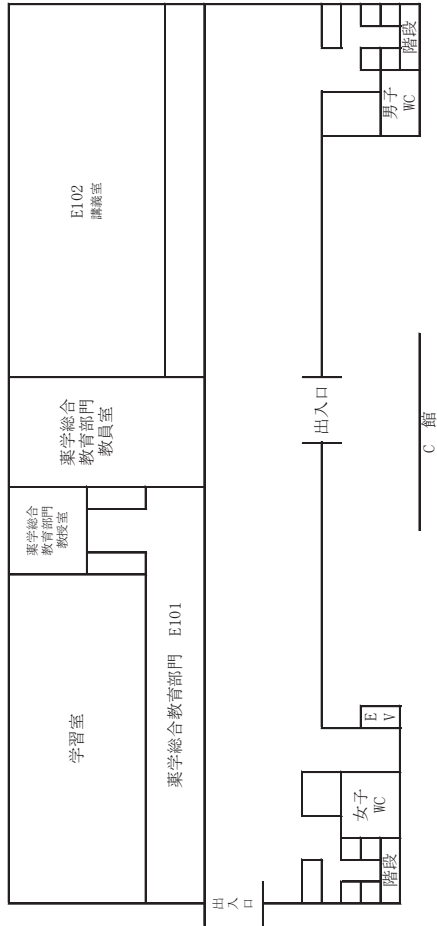




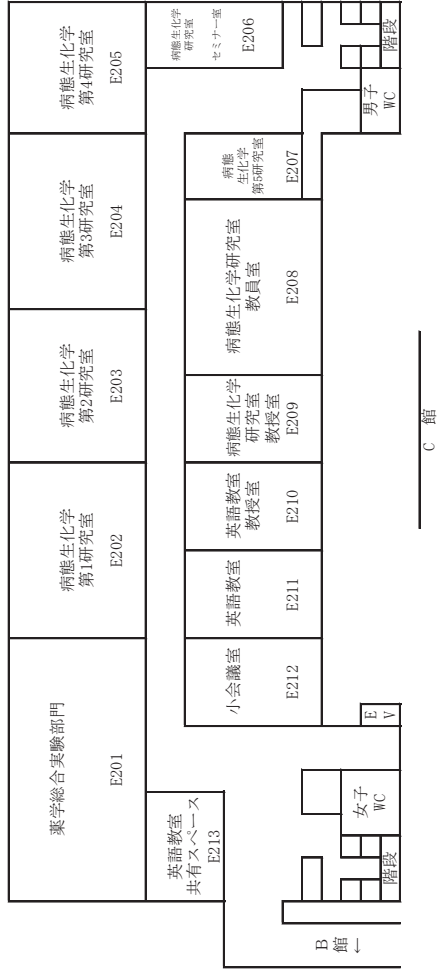
D 408 薬理学教室 教授室	男子WC	D 440 薬理学教室 研究室
D 407 薬理学教室 研究室		
D 406 薬物学教室 研究室	階段	D 430 薬物学教室 研究室
D 405 薬物学教室 教授室		
D 404 薬品物理化学教室 教授室	EV	D 420 薬品物理化学教室 研究室
D 403 薬品物理化学教室 研究室	階段	D 410 薬品物理分析学教室 研究室
D 402 薬品物理分析学教室 研究室		
D 401 薬品物理分析学教室 教授室	女子WC	

D 508 微生物学教室 教授室	女子WC	D 540 微生物学教室 研究室
D 507 微生物学教室 研究室		
D 506 生薬学教室 研究室	階段	D 530 生薬学教室 研究室
D 505 生薬学教室 教授室		
D 504 薬品製造学教室 教授室	EV	D 520 薬品製造学教室 研究室
D 503 薬品製造学教室 研究室	階段	D 510 薬化学教室 研究室
D 502 薬化学教室 研究室		
D 501 薬化学教室 教授室	男子WC	

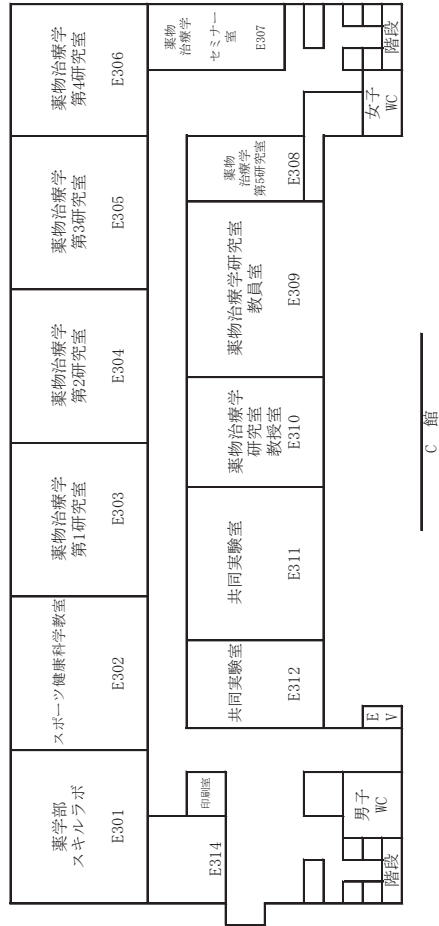
薬学部E館・1階



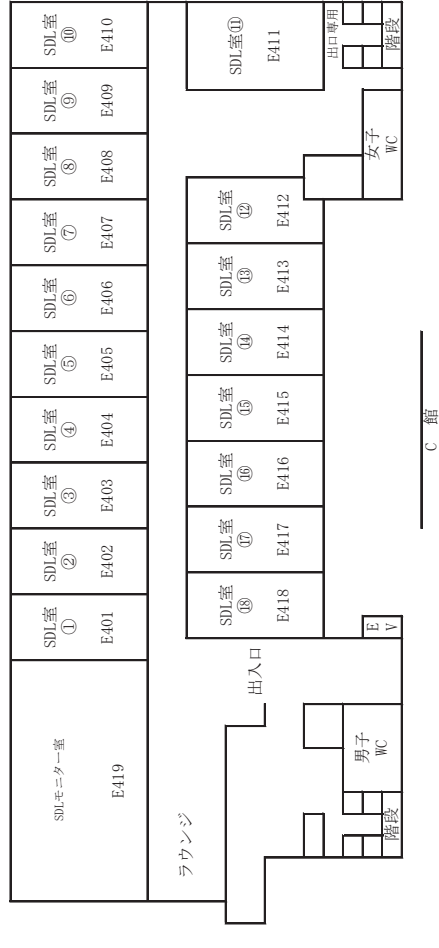
薬学部E館・2階



薬学部E館・3階



薬学部E館・4階



薬学部同窓会（鶴風会）

- 発 足** 昭和6年3月に帝国女子医学薬学専門学校薬学科第1回生が卒業し、鶴風会が誕生しました。
- 会 名** 「鶴風会」は当時校長であり、同窓会長であった故額田晋元学長におつけ頂いたもので、発祥の地、東京都大田区大森の現医学部のあるところは昔、鶴渡りという名もあり、このことから名前を頂いたといわれています。2023年10月に一般社団法人となりました。
- 目 的** 会員相互の親睦及び会員の福祉向上を図り、また、生涯教育の一助として薬学に関する知識・技能並びに円熟した人格を揃えた専門的人材の育成に努め、併せて母校の発展に貢献することを目的としています。
- 事 業** 主に卒業後の名簿の管理、会報・ホームページ等による情報提供、講演会・研修会・懇親会の開催のほか、親睦旅行やカルチャーの開催、就職相談、縁結びなども行っております。各地にはブロック・支部があり、研修会や交流活動のほか、赴任や転居先での相談などサポートできるよう努めております。
在学生に対しては、卒業生の経営する薬局での在宅医療を体験する機会の提供（職場体験）、卒業生による進路相談会、海外研修旅行の企画協力、卒業式での成績優秀者の表彰、卒業記念品の贈呈、経済的理由により学業の継続が困難な学生への最終学年時の学資の貸与を行っております。
- 役 員** 理事、監事、評議員（各学年2名：卒業時に選出、任期2年 再任可）
- 会 費** 50,000円（在学中に納入、卒業後は終身会員）
- 卒 業 生** 昭和6年に女子のみの専門第1回生に始まり、昭和26年に22回生を最後とし、男女共学の東邦大学薬学部への昇格に伴い「東邦大学薬学部鶴風会」と改名しました。学部第1回生が昭和28年に卒業してから昨年3月の卒業生を加え、次のように多くの会員からなる同窓会となりました。
- | | |
|-------|---------|
| 専 門 卒 | 2,553名 |
| 大 学 卒 | 14,264名 |
| そ の 他 | 13名 |
| 計 | 16,830名 |
- 活動状況**
- | | |
|-------------|--------|
| 薬局関係（開局・勤務） | 3,781名 |
| 病院関係 | 2,314名 |
| 製薬等企業関係 | 2,272名 |
| 学校・教育機関 | 145名 |
| 公務員・官公庁関係 | 343名 |
| その他 | 5,494名 |
| 死亡 | 2,481名 |
- （令和7(2025)年1月30日現在）
- 事 務 室**
- | | |
|------|--|
| 場 所 | 習志野東邦会館2階（〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1） |
| 運営時間 | 9時30分～16時30分（土日祝を除く） |
| 連絡先 | TEL：047-472-1265 E-mail：kaku@phar.toho-u.ac.jp |

令和7(2025)年度 薬学部行事予定表

	日 程	行 事
春 学 期	4月 1日 (火)	4年生 ガイダンス (午前)、健康診断 (午後) 6年生 健康診断 (午前)、ガイダンス (午後)
	4月 2日 (水)	2年生 ガイダンス (午前)、健康診断 (午後) 3年生 健康診断 (午前)、ガイダンス (午後)
	4月 3日 (木)	入学式、1年生 ガイダンス①
	4月 4日 (金)	1年生 ガイダンス② 6年生 スタートアップ模擬試験
	4月 5日 (土)	5年生 健康診断 (午前)、ガイダンス (午後) 新入生歓迎行事・1年生学生部ガイダンス
	4月 5日 (土) ~ 4月9日 (水)	春学期履修登録期間 (5年生) 春学期履修登録期間・アセスメントテスト受検期間 (6年生)
	4月 7日 (月)	1年生 フレッシュマンキャンプ
	4月 8日 (火)	春学期講義開始日
	4月 8日 (火) ~ 4月14日 (月)	春学期履修登録期間・アセスメントテスト受検期間 (1年生) 春学期履修登録期間 (2~4年生)
	4月10日 (木) ~ 4月12日 (土)	春学期履修取消期間 (5・6年生)
	4月16日 (水)	アセスメントテスト フォローアップガイダンス 予定 (1年生)
	4月17日 (木) ~ 4月18日 (金)	春学期履修取消期間 (1~4年生)
	4月19日 (土)	1年生 健康診断 (午前)
	4月21日 (月)	アセスメントテスト フォローアップガイダンス等 予定 (6年生)
	4月29日 (火・祝)	昭和の日、火曜日講義日
	5月 7日 (水) ~ 5月17日 (土)	春学期集中講義・定期試験期間 (5年生)
	5月17日 (土)	月曜日講義振替日
	5月21日 (水)	防災訓練・学生大会 (5限以降休講)
	5月31日 (土)	火曜日講義振替日
	6月10日 (火)	創立記念日、火曜日講義日
	7月 4日 (金)	6年生 卒業研究発表会 (1~4年生：全日休講)
	7月 5日 (土)	生命倫理シンポジウム (4年生)
	7月12日 (土)	金曜日講義振替日
	7月16日 (水) ~ 8月 1日 (金)	春学期定期試験期間 (1~4・6年生)
	8月 4日 (月) ~ 8月16日 (土)	春学期追・再試験期間 (5年生)
	8月18日 (月) ~ 8月28日 (木)	春学期追・再試験期間 (4年生)
	8月18日 (月) ~ 8月29日 (金)	春学期追・再試験期間 (1~3・6年生)
	秋 学 期	8月29日 (金) ~ 9月 3日 (水)
9月 1日 (月)		秋学期講義開始日 予定 (1・4・6年生)
9月 1日 (月) ~ 9月11日 (木)		秋学期履修登録期間 予定 (4年生)
9月 8日 (月)		アセスメントテスト フォローアップガイダンス 予定 (4年生)
9月16日 (火)		秋学期講義開始日 予定 (2~3年生)
9月16日 (火) ~ 9月17日 (水)		秋学期履修取消期間 予定 (4年生) 秋学期履修登録期間 予定 (6年生)
9月16日 (火) ~ 9月25日 (木)		秋学期履修登録期間 予定 (1~3年生)
9月18日 (木) ~ 9月19日 (金)		秋学期履修取消期間 予定 (6年生)
9月29日 (月) ~ 10月 1日 (水)		秋学期履修取消期間 予定 (1~3年生)
10月25日 (土)		月曜日講義振替日
11月 7日 (金)		大学祭準備 (全日休講)
11月 8日 (土)・9日 (日)		大学祭 (全日休講)
11月10日 (月)		大学祭片付け (1~3限休講)
11月15日 (土)		月曜日講義振替日
11月17日 (月) ~ 11月28日 (金)		秋学期定期試験期間 予定 (4年生)
11月19日 (水)		学生大会 (6限以降休講)
11月29日 (土)		月曜日講義振替日
12月21日 (日)		OSCE 予定 (4年生対象)
1月 6日 (火)・7日 (水)		CBT 予定 (4年生対象)
1月 9日 (金) ~ 1月20日 (火)		秋学期追・再試験期間 予定 (4年生)
1月13日 (火) ~ 1月28日 (水)		秋学期定期試験期間 予定 (1~3年生)
1月23日 (金) ~ 1月29日 (木)		最終試験 予定 (4年生)
2月 6日 (金) ~ 2月20日 (金)	秋学期追・再試験期間 予定 (1~3年生)	
2月27日 (金) ~ 3月 4日 (水)	最終試験 予定 (1~3年生)	